



一般社団法人
東京広島県人会
70周年記念誌

目次
CONTENTS

70周年記念誌会長挨拶
「発刊に当たって」 大竹美喜3

祝辞 広島県知事 湯崎英彦4

祝辞 広島県議会議長 宇田伸5

祝辞 広島市長 松井一實6

祝詞 広島県商工会議所連合会会頭 深山英樹7

東京広島県人会70周年記念特別対談8

東京広島県人会70周年記念 会長・副会長座談会12

東京広島県人会と私17

ともにありてこそ!! 酒と肴 保田博(17)／私の広島との縁
児玉幸治(18)／故郷を持つよこび 浦上浩(19)／美しい自然と歴史・文化を大切に 三浦惺(20)／東京広島県人会と私
角廣勲(20)／古里に熱いエールをこれからも 山本治朗(21)／
「三原」の思い出 山根昌久(21)／東京広島県人会と私
石田文典(21)／広島人はすごい ――その熱きふるさと想い――
新見博(22)／東京広島県人会と私 河野一郎(26)

国内・海外の広島県人会からのエール27

近畿広島県人会の現状 豊松正文(27)／わが心のふるさと広島
県人会の片隅で 藤本輝夫(28)／心からの「アロハ」 ホノ
ルル広島県人会(29)／広島 海の彼方の私たちの故郷 ハワイ
・コナ広島県人会(31)／アマゾン 釣りの旅 ブラジル広島
文化センター村上佳和(34)

東京広島県人会と会長の思い出 倉重基己35

広島宰相論38

加藤友三郎 田辺良平(38)／池田勇人 大下英治(41)／宮澤喜一 大下英治(43)

わが愛しの広島県45

広島弁でセリフを書く快感 池端俊策(45)／野球で日本を元気に
――カープの躍進と共に―― 市野紀生(46)／東京広島県人会
シンボルマーク制作の前後 井山高秀(47)／江戸時代の広島への思い
上田宗岡(47)／時代とともに歩む「東京広島県人会」 上田みどり(48)／
「我がいとしの広島県」 大林宣彦(49)／希望を胸に諦めずに努力しつづけること
金藤理絵(50)／音楽の町 広島 中村英(51)／夢の実現に向け広島
県人の熱き想い 原晋(52)／わが愛しの広島県 日高憲

三(53)／<インタビュー>広島県と広島カープ 松田元(54)／
広島に生まれて ――平和への祈りを舞踏に込めて―― 森下洋子(55)／
わしゃ広島で生まれて良かったわい。サンキュー広島。吉田充(56)／
私の人生の原点は広島原爆である 萩原俊雄(57)／遠く離れて気がつく
故郷広島恵まれた風土 山中昇(58)／わたくしと広島 水馬義弘(58)／
甦る広島 高田雅宏(59)

文学と音楽と広島60

小説家田山花袋と『備後の山中』 田山花袋と天領上下 守本祐子(60)／
夏目漱石と広島多彩なご縁 小笠原臣也(61)／広島交響楽団について
金田幸三(62)／拓郎ファンとしての聖地巡礼 安西巧(63)

東京で出会う広島の色65

ひろしまブランドショップ「TAU」(65)／東京で出会える 広島の色
あれこれ(66)／広島の色まだまだ(67)

東京の中の広島県68

赤坂氷川神社と三次浅野藩 原田泉(68)／瑤泉院・泉岳寺 緒方徹(69)／
江戸上田家初代重秀が自らの菩提寺として建立した重秀寺 緒方徹(69)／
築地本願寺にある広島ゆかりのもの 大江和正・緒方静子(70)／福山藩
江戸藩校 誠之館跡 増井博文(72)／横山大観記念館 山根知之(73)／
ホテル椿山荘東京の三重塔 山下靖典(74)／中村是公と羽澤ガーデン
金森貴哉(75)／瀬越憲作と日本棋院 山下靖典(75)／升田幸三と将棋会館
山下靖典(76)／林芙美子記念館 緒方静子(77)／〈番外編〉
広大生の孤独 千野信浩(78)

広島県 お国じまん80

広島県の魅力再発見82

一般社団法人 東京広島県人会70年の歩み83

東京広島県人会 2017(平成29)年の活動実績120

〈付〉一般社団法人 東京広島県人会 理事・監事一覧(121)

2030年、広島未来社会
一般財団法人ひろぎん経済研究所122

国内の広島県人会 海外の広島県人会124

一般社団法人 東京広島県人会 歴代会長一覧126

平和へのメッセージ(127)

編集後記128



一般社団法人 東京広島県人会代表理事・会長
おたけよしき
大竹美喜

一般社団法人 東京広島県人会は本年、創立70周年を迎えます。これまで関係してこられた方のご努力に心から敬意を表します。今から70年前というと、1947(昭和22)年です。昭和20年8月の終戦からわずか1年半もたっていない時期でした。前年の昭和21年4月に若手経済人が日本経済の復興を期して経済同友会を東京に設立しましたが、日本経済は戦争で受けた壊滅的打撃から立ち直ることができていませんでした。ハイパーインフレ(昭和21年→22年、白米10kg36円→149円、葉書15銭→50銭)に苦しむ勤労者がゼネストを計画しましたが、連合軍総司令部(GHQ)の命令により中止させられる事件があるなど国民生活は困窮を極めていました。連合軍の占領下、新憲法が施行されましたが、国民の目は、前年に始まった極東国際軍事裁判(東京裁判)の行方に注がれていました。このような暗い世相の中で、フジヤマのトビウオ古橋広之進選手が水泳400m自由形で世界新記録を出して国民を元気づけました。

こうした終戦直後の混乱期に在京の広島県人が集まり、懇親の実を深めようとしたのが東京広島県人会の始まりだといわれています。初代会長は長崎英造氏(大蔵省から鈴木商店、現在の日本化薬創業、広島大学設立委員長、吉田内閣経済顧問、日本証券投資協会会長)です。その後、②丸山鶴吉氏(内務省から警視總監、宮城県知事、戦後公職追放解除後に武蔵

野美術大学学長)③野村秀雄氏(朝日新聞編集局長、NHK会長)、④東谷傳次郎氏(会計検査院長、飯能ゴルフクラブ初代理事長)、⑤永野重雄氏(富士製鉄社長、日商会頭、新日鉄会長)、⑥太田利三郎氏(日銀理事、日本開発銀行総裁、鉄道建設公団総裁、セントラル総合開発社長)、⑦田部文一郎氏(三菱商事社長、会長)、⑧岡田茂氏(東映社長、会長)、⑨林有厚氏(東京ドーム社長、会長)に続いてわたくしが第10代の会長を仰せつかっています。

こうした歴史のある東京広島県人会は一昨年、任意団体から一般社団法人に改組されました。組織運営や財務の透明性を一段と強めるとともに、会員の参画意識の向上を企図したものです。加えて、定款にもありますように、会員相互の親睦を図るとともに、ふるさと広島への恩返し(ていこう)の気持ちを具体的な行動に示すべくいろいろなプロジェクトに取り組んでまいりたいと思っています。

在京の広島県出身の学生を対象に、大学教官とは違った視点で人生を見つめておられる官界、産業界の先輩方から、就職、結婚等人生の節目に当たり、どのように考えたらよいかといったお話をさせていただく学生応援セミナー。また、国内9つの広島県人会が連携して、ふるさと納税の制度を活用し、グローバルリーダー育成校の財政支援の一助となるよう、ふるさと広島の応援団として活動してまいりたいと思います。

祝 辞

広島県知事
ゆぎきひでひこ
湯崎英彦



東京広島県人会が、創立七十周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。

戦後間もなく、在京の広島ゆかりの方々が交流の絆を深めるため、東京広島県人会を創立されて七十年。会員の皆様の弛まぬご尽力と郷土愛によって、今日では会員数も千二百名を超え、在京県人会の中でも最大規模の、最も活発な県人会へと発展を遂げられました。

その間、常に広島県の応援団として、力強く広島県の発展を支えていただいたことに、心から感謝申し上げます。

これも、大竹会長をはじめ、歴代会長、役員並びに会員の皆様方の、故郷広島への御厚情の賜物であり、深く敬意を表する次第でございます。

また、今回、創立七十周年を機に記念誌を取りまとめられたことは、県人会の発展の道のりを振り返り、先人の御労苦に改めて思いを致す上で、誠に意義深いものであり、今後の県人会の更なる発展に寄与するものと確信しております。

さて、人口減少・少子高齢化や東京一極集中の加速化、経済活動のグローバル化など、社会経済環境が大きく変化する中、広島県に、「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から実感していただけるよう、本県においては、県民の皆様が、仕事と暮らしのどちらもあきらめずに追求できる「欲張りな

ライフスタイル」の実現を目指して、現在、「仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県」を掲げ、個人の事情やライフスタイルに応じた多様な働き方の促進、雇用や強い地域経済をつくるためのイノベーションの加速、都市の魅力向上と中山間地域の地域力強化など、様々な施策に取り組んでいるところでございます。

また、本県のさらなる発展のため、魅力ある観光地、特産品、歴史・文化、自然といった数多くの地域資産が国内外から広く認知され、選ばれるよう、「ひろしまブランド」として、定着させていく取組を進めているところです。こうした取組の一環として、ひろしまブランドショップTAUを銀座に設置して「ひろしま」の魅力発信などに取り組んでおり、東京広島県人会の皆様におかれましても、是非TAUを訪れ、郷土に思いを馳せていただければ、幸いです。

今後とも、皆様が誇りを持って故郷を語っていただけるよう、広島県発展に力を尽くして参る所存です。東京広島県人会の皆様におかれましては、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

むすびに、東京広島県人会の益々の御発展並びに会員の皆様方の御健勝と御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

広島県議会議長
うだ しん
宇田 伸



東京広島県人会が、このたび創立70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

東京広島県人会におかれましては、1947（昭和22）年の創立以来、各界で御活躍の皆さまが強い絆で交流を深められ、歴代の会長をはじめ、役員並びに会員の皆さま方の、故郷広島に対する常に変わらぬ御厚情のもと、県人会、そして広島県の発展に多大な御尽力をいただきました。この場をお借りして、深く敬意と感謝の意を表します。

また、最近では、大竹会長のもと、全国でもあまり例のない県人会の一般社団法人化や、県人会広報のビジュアル化など、次世代への継承に向けた環境整備に取り組んでおられると伺っており、皆さま方の先進的かつ熱心な取り組みには、地元広島に住む者として頭の下がる思いであります。

広島では、この間、皆さま方のお力添えにより、「アジア競技大会広島」などいくつもの大規模なイベントを開催し、世界各地から多くのお客様をお迎えするまでに発展してまいりました。そして、昨年は、G7外相会合の開催や、歴史的な成果となったオバマ米国大統領の訪問、国際平和のための世界経済人会議の開催などを通じて、核兵器のない世界平和の実現に向けて本県の果たす役割に改めて注目が集まり、県議会では、こうした機会を捉えて、「広島県議会国際平和貢献議員連盟」を設立したところ

であります。

また、スポーツ界では、リオ五輪での金藤選手、山縣選手のメダル獲得や、日本一こそ逃したものの25年ぶりにセリーグ優勝した広島カープの活躍は、県全体に感動とにぎわいをもたらし、笑顔があふれる本県の姿が全国に発信され、広島県の認知度が飛躍的に高まった年でありました。

さらには、2015（平成27）年の国勢調査では、総人口は初の減少を記録したものの、40年ぶりに社会減から社会増に転じるなど新たな変化も見られます。

今後も、この勢いを加速させ、県勢をいっそう伸展させるためには、地方への新しいヒトの流れをつくるのがいっそう重要となってまいります。都市と自然の近接性という広島ならではの環境を生かし、国内外から選ばれる活力ある郷土広島を実現するよう、決意を新たにしておりますので、引き続き各界で活躍しておられる東京広島県人会の皆さま方の御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。

終わりに、東京広島県人会の、ますますの御発展と、会員の皆さま方のご健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

広島市長
まつい かずみ
松井一實



東京広島県人会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。東京広島県人会におかれましては、1947（昭和22）年の創立以来、ふるさと広島と東京をつなぐ懸け橋として、また、愛する広島の応援団として、広島のイメージアップやふるさと情報の発信を始め、さまざまな分野で郷土広島の発展と繁栄に多大なる御尽力をいただいております。歴代会長を始め、役員並びに会員の皆さまに心から感謝申し上げます。

皆さま御存じのように、1945（昭和20）年8月6日、広島は一発の原子爆弾により街は焦土と化し、多くの尊い命が失われました。しかしながら、被爆者を始めとする広島市民のたゆまぬ努力と国内外の多くの方々からの温かい御支援により復興を成し遂げ、今では世界の人々から「希望と平和の象徴」である美しい都市として知られています。

こうした中、被爆71周年を迎えた昨年は、まさに広島にとって歴史的な年となりました。4月にはG7広島外相会合の開催、そして5月には現職の米国大統領として初めてとなるオバマ大統領の被爆地広島への訪問、さらには広島東洋カープの25年ぶりのリーグ優勝によって、広島は国内外から多くの注

目を集めるとともに、「街」全体が活気に満ちあふれました。東京広島県人会の皆さまのふるさと広島への熱い御声援や御支援も、こうした広島の活力を支える大きな力になっていることはいまでもなく、改めて深く敬意を表します。

さて、わが国は現在、人口減少と超高齢化という、これまで経験したことのない大きな課題に直面しており、本市では、近隣市町とで構成する広島広域都市圏が一体となって、圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超を目指す、「200万人広島都市圏構想」の実現に向けて取組を進めています。こうした取組は、行政のみで成し得るものではなく、市民を始め多くの皆さま、とりわけ、さまざまな分野で幅広く活躍されておられる東京広島県人会の皆さまのお力添えが欠かせません。引き続き、ふるさと応援団として、県・市発展に向けて御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、東京広島県人会のますますの御発展と、会員の皆さまの御活躍、御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 詞

広島県商工会議所連合会会頭
ふかやま ひでき
深山英樹



このたび、一般社団法人 東京広島県人会が創立70周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

原爆の惨禍と廃墟からの復興のさなかの70年前、東京広島県人会が創立されたわけですが、戦後の広島がめざましい復興を遂げた背景には、歴代会長をはじめとする県人会の皆さま方の献身と努力の積み重ねがあり、郷土広島の発展に大きく寄与してこられたことに、深甚なる敬意を表します。

最近のわが国経済は、全体としては明るさが増してきており、アベノミクス効果もあり、15年以上続いたデフレからの脱却まで、あと一歩というところまできております。

しかしながら、地方の津々浦々までが景気回復を肌で感じるまでには至っていないというのが実情でございます。

こうした中、広島商工会議所といたしましては、中小企業の活力強化と街づくりや観光振興など地域の活性化を最重要課題に掲げ、積極的に諸事業を展開しているところでございますが、明るい元気な広島、行ってみたい・住んでみたいといわれる魅力ある広島を実現していくためには、官民をあげて、さらに県民、市民も一丸となって取り組んでいくことが必要です。

中でも、さまざまな分野でご活躍されておられるメンバーで構成し、広範な活動を行っておられます東京広島県人会のご支援・ご協力は不可欠でございます。

東京広島県人会におかれましては、現在の諸活動に加え、これまで積み重ねられた70年の歴史を礎に、大竹会長さんのリーダーシップのもと、役員・会員の皆さまが一丸となって、広島の地域経済の更なる発展に向け、これまでも増して大きな役割を果たしていただくことを大いにご期待申し上げます。

結びに、一般社団法人東京広島県人会のますますのご発展並びに会員の皆さま方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



東京広島県人会70周年記念特別対談

湯崎英彦 広島県知事
大竹美喜 東京広島県人会会長

湯崎 東京広島県人会が創立70周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。永年にわたり、ふるさと広島県の発展のために力強いご支援をいただき、まことにありがとうございます。

大竹 創立70周年を迎えられたことをたいへん嬉しく思います。これまで県人会の運営に御尽力くださった諸先輩方や現会員の皆さま、故郷から県人会の活動に御理解と御協力をいただいている皆さまに対し、感謝を申し上げたいと思います。

》 広島県の現状と課題について

大竹 昨年は、東京にいても広島の話話を聞かない日はないくらいの盛り上がりでしたね。

湯崎 長年の悲願であった現職の米国大統領の被爆地訪問やカープの25年ぶりのリーグ優勝など、全国そして世界から注目を集めた「広島イヤー」だっ

たと思います。全国メディアでも広島を多く取り上げていただきました。

今年も、呉市・広島市が舞台の映画「この世界の片隅に」がキネマ旬報ベストテンで日本映画1位となるなど、良いニュースが出ています。

また、昨年確報値が出た国勢調査によると、広島県へ転入する人数が転出する人数を上回る「社会増」に転じました。若い世代を中心に、人々が主体的に住む場所・働く場所を選ぶ時代になってきた今、広島県が「選ばれている」と受け止め、いっそう身を引き締めて取り組む覚悟をしたところです。

大竹 広島県出身者としては、郷土が注目され、若い人たちが活躍の場として広島県を選んでくれるのはうれしいですね。

湯崎 おかげさまで広島県の認知度も上がってきました。それに呼応するように県への来訪者も増えています。2012（平成24）年に観光キャンペーン「お

しい！ 広島県」を始めてから4年連続で観光客数が過去最高を更新し、2015年は6,618万人となりました。また、観光消費額は3,865億円となり、5年前（2011年）と比べて年間835億円増加しています。この伸びをさらに大きくしていくためにも、「食」や夜も楽しめる観光メニューを増やし、滞在時間の延長や宿泊の増につなげていきたいと考えています。

大竹 観光は裾野の広い産業ですから、高い経済波及効果や、雇用拡大などの効果も期待できると思います。地方創生に果たす役割も大きいですね。

湯崎 人口減少が進む時代にあっても、国が成長・発展するには、東京一極集中を是正し、各地域がそれぞれ輝いていることが重要と考えています。

県では今、県民の皆さまとともに「目指す姿」として、「仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県」を掲げ、仕事も暮らしもどちらもあきらめない「欲張りなライフスタイル」の実現に向けて取り組んでいます。

大竹 県の目指す姿が「欲張り」ですか。大胆な印象ですが、どのようなイメージなのか。

湯崎 暮らしを犠牲にして働いたり、逆に仕事をあきらめて子育てや介護をするなど、どちらかを優先して妥協するのではなく、どちらもあきらめず追求することができる、そんな社会を実現したいと考えています。仕事の充実で暮らしが豊かになり、暮らしを楽しむことで仕事の成果や生産性がいっそう向上するという好循環が理想です。県内外の皆さんに、仕事と暮らし両方の希望を「広島県でならかなえられる」と感じていただくことを目指しています。

》 働き方改革について

大竹 仕事も暮らしも欲張るとなると、現在、全国的な課題となっている「働き方改革」の取組が重要となりますね。

湯崎 そのとおりです。実は、広島県は、国に先駆けて「働き方改革」を打ち出し、取組を進めているんですよ。県では2016年4月に、部局横断的に

「働き方改革推進チーム」を設置し、県内全体で働き方改革に取り組む機運の醸成や、県内企業の働き方改革推進に向けた施策を総合的に進めています。

一方で、企業の方々に「県庁がやっていないのに」と言われないよう、県庁内でも、管理職のイクボス化や柔軟な勤務形態の促進、情報通信技術を活用したワークスタイルの変革など、「生産性の高い働き方への取組」を進めています。

今後も、他の行政機関や経済団体等とも連携しながら、県内全域に「働き方改革」が広がっていくよう施策を展開していきたいと考えています。



》 グローバルリーダー育成校（仮称）について

大竹 県では、日本一の教育県の実現に向けて教育改革に取り組んでおられます。2019年にはグローバルリーダー育成校（仮称）^{*}が開校予定とのことですが、どんな学校になるのでしょうか。

湯崎 広島県では、生涯にわたって主体的に学び続



け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材を育成することを目指して、広島版「学びの変革」を進めています。

グローバルリーダー育成校は、広島版「学びの変革」を先導的に実践する学校です。「Diversity（多様性）」をコンセプトに、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーの育成を目的として、離島である大崎上島に全寮制中高一貫校を設置します。生徒の約2割を外国人、高校での授業は原則として英語で、国際バカロレア・ディプロマプログラムにも対応することとしています。生徒一人一人に、世界・日本・広島、なにより自分自身の「より善い未来を創造できる力」を育むことで、「未来に向かう学び」と「世界に続く扉」を提供したいと考えています。

大竹 日本は、これまで知識を重視してきましたが、いくら専門知識が豊富でも「知力」「体力」「心力」のバランスが取れていなければグローバルリーダー

とはなりません。総合して言えば、「人間力」と置き換えられるのだと思います。自分自身が正しいと確信していることに立脚して、その方向に決然として人々を引っ張っていく勇氣。このような人間的な魅力、これが「人間力」だと思います。とりわけ、若者の「人間力」をどう養っていくか、そこに期待しています。

湯崎 子供たちの学びの機会を広げ、一人一人の夢の実現を後押しするのが公教育の大きな目的と考えています。意欲ある子供たちが経済力などの諸条件に左右されず、将来の社会を引っ張っていく準備をしていくための学校を、公立学校として設置するのも、この目的に向けた取組です。この学校に通う生徒たちが、瀬戸内の美しい離島で「人間力」を養い、ローカルからグローバルまで幅広いフィールドで活躍するリーダーとなってくれることを願っています。

世界に打って出るには東京を経由しないとイケないという意識を変える必要があります。広島から、世界や日本の他の地域と直接結びついて、頑張れば、世界の最先端になることができるようになっていきます。

大竹 地元広島が光輝くことが、愛郷心のある我々からすると、非常に嬉しいことです。

瀬戸内 海の道構想について

大竹 昨年スタートした「せとうちDMO^{*2}」は金融機能を持ったDMOですが、これは日本のみならず、世界的にも珍しいのではないですか。

湯崎 島々が織りなす多島美や、食文化、歴史など瀬戸内の宝を、もっと多くの人々に知ってもらい、来訪いただこうと、「瀬戸内 海の道構想」を策定し、瀬戸内のブランド化に取り組んできました。

「せとうちDMO」は、瀬戸内を共有する7県で2013年に設立した「瀬戸内ブランド推進連合」から発展改組した「一般社団法人せとうち観光推進機構」と、域内の金融機関を中心に設立された「瀬戸内ブランドコーポレーション」が両輪となって推進しています。行政、事業者、金融機関が一体となっ



て取り組むことで、観光需要の創出と観光ビジネスの拡大に向けて、より実行力を持った体制ができました。

県を超える広域で、しかも本格的なDMOの設立は日本で初めてのことです。既に瀬戸内周遊クルーズ事業への支援など、「せとうち観光活性化ファンド」を活用した投資案件も生まれており、今後も、観光関連事業者に対する効果的な事業支援や資金支援等により、新たな観光プロダクトが開発されていくものと期待しています。

大竹 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて更なる増加が見込まれる訪日外国人観光客に瀬戸内を訪れていただきたいものです。

瀬戸内のことをお聞きしましたが、中山間地域の振興については、どのように考えておられますか。

ひろしま さとやま未来博について

湯崎 2017（平成29）年3月から11月までの9か月間、中山間地域を舞台にした県民参加型のプロジェクト「ひろしま さとやま未来博2017」を開催します。中山間地域の未来を担う人づくりを加速して人材のネットワーク化を図り、地域の活性化につながればと考えています。

小学校等の廃校舎を新たな拠点として再生する廃校リノベーション等の「シンボルプロジェクト」と、地域づくりに取り組む方々の多様な活動を後押しす

る「ココロザシ応援プロジェクト」が2つの柱です。多くの皆さんが里山を訪れ、その魅力に触れていただくことで、皆さんにとっての中山間地域の未来を考えるきっかけとなればと思います。

大竹 中山間地域の活性化は、全国的な課題です。広島は日本の縮図のようなところがありますから、中山間地域を活性化していくことができれば、日本全体の課題解決のモデルになるかもしれませんね。期待しております。

知事と故郷広島の話をしていると時間がたつのも忘れてしまいそうです。私も10年先、20年先を見据えて、故郷のために頑張っていきたいと思っています。また、5月には、広島市で東京広島県人会の70周年記念事業として「70周年記念懇親会」を開催します。ぜひ知事にも御参加いただきたいと思っています。今後とも、県人会の活動に対して御支援をいただければと思っています。本日はありがとうございました。

湯崎 こちらこそ、広島県の発展のためにお力をお借りできればと思います。本日は、ありがとうございました。

*1 「グローバルリーダー育成校（仮称）」の名称は、「広島県立広島観智学園 中学校・高等学校」となりました。

*2 DMOとはDestination Management / Marketing Organizationの略。「せとうちDMO」では、瀬戸内の情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等を行い、地域が主体となった観光地域づくりを推進中です。

*この対談は、2017（平成29）年1月に広島県東京事務所で行われたものです。

東京広島県人会70周年記念 会長・副会長座談会

大竹美喜会長・保田博副会長・児玉幸治副会長・住川雅洋幹事長

●—— 昨年の広島をふり返って

大竹 広島県にとって昨年は本当に素晴らしい一年でした。4月に広島市で「G7外相会合」、5月には、オバマ米国大統領が現職大統領として初めて広島を訪問、原爆慰霊碑に献花されました。9月には、広島カープが25年ぶりにリーグ優勝しました。感慨深かったのが、オバマ大統領の広島訪問です。平成23年11月に、広島県の湯崎知事がハワイ・オアフ島の真珠湾を訪問しアリゾナ記念館で献花されました。当時、私は湯崎知事に「オバマ大統領に広島へ来てもらうには、日本の首相が真珠湾を訪問すべきだし、まずは被爆地・広島県知事が真珠湾を訪問すべきではないでしょうか」ということを提案していたのです。

保田 すると、昨年のオバマ大統領の広島訪問は、湯崎知事の真珠湾訪問が大きな誘因となって実現した訳ですね。

大竹 それが昨年12月の安倍総理とオバマ大統領との真珠湾訪問にも繋がっていった訳です。全世界に向けて日米関係の親密性と重要性を改めてアピールできたのではないのでしょうか。

●—— カープの25年ぶりの優勝!

大竹 私は20歳で渡米し帰国した後、ビジネスの世界に入りました。理不尽なことも多々ありましたが、「努力を続ければ必ず報われる時がくる」と思っ

敗けても懸命に戦うカープの姿は、「心の支柱」でしたから、昭和50年の初優勝の時の喜びは格別で、カープは「世の中に登れない山はない」ことを証明してくれました。

児玉 本当に昨年のカープは圧倒的な強さでした。開幕前はエースの前田投手が抜けて「どうなることか」と思いましたが、黒田投手や新井選手を中心に、中堅や若手の選手達が頑張ってカバーしました。

保田 カープの場合、自分たちが二軍で鍛え上げた選手だけでやっていて、立派ですね。加えて、黒田投手と新井選手の二人が「最後はカープで野球をしたい」と帰ってきて優勝したのですから。

大竹 ぜひ今年もリーグ優勝して、日本一を果たしてもらいたいですね。

●—— 「郷土の復興」のため創設された県人会

住川 東京では戦前から、後に運輸大臣になられた永野護さんや警視總監や朝鮮総督を歴任された丸山鶴吉さんなどの名士の方々が個人的に集まって、故郷の話を中心に交流を深めていらしたそうです。昭和22年に、当時文部大臣だった森戸辰男さんや広島市長の山田節男さんらを中心に「原爆で荒廃した郷土の復興を少しでも援助したい」という思いから、3月と11月の2回、有楽町の日本工業会で「県人会」が開催されました。これが現在の東京広島県人会の創設と考えています。昭和27年から「在京広島県人会」総会は「1月10日・夕刻・上野精養軒」が合い言葉となって平成5年まで続きました。



左から 児玉幸治副会長・大竹美喜会長・保田博副会長・住川雅洋幹事長

大竹 初代会長には旧・大蔵省から鈴木商店を経て、日本化薬を創業された長崎英造さんが、第2代会長には、内務省から警視總監などを歴任された丸山鶴吉氏、第3代会長には朝日新聞編集局長、熊本日日新聞社長を経て、第8代NHK会長を歴任された野村秀雄さんが、第4代会長には会計検査院院長で芸備協会理事長や飯能ゴルフクラブ初代理事を歴任された東谷傳次郎氏が就任されました。また、第5代会長には富士製鉄社長、合併後の新日鉄初代会長で日本商工会議所会頭を歴任された永野重雄さんが、第6代会長は日本銀行理事から日本開発銀行総裁、鉄道建設公団初代総裁を歴任された太田利三郎さんが、第7代会長には三菱商事社長、会長、相談役を歴任された田部文一郎さんが就任されました。いずれの皆さま方も、戦中～戦後の日本の政財官界で活躍された大物の方々ばかりでした。

●—— 私と県人会との関わり

保田 最初に「広島県人会」の会合に参加したのは、多分昭和40年代の終わり頃です。上野精養軒で少人数ですが、周囲は偉い人ばかり。直ぐに息が詰まってしまうようで、「二度とあんな所には行かない!」と思っていました(笑)。十数年後に当時の岡田茂会長から誘われて行ってみますとずいぶん庶

民的な雰囲気、以降ずっと参加させていただいています(笑)。

児玉 私も初めて行きましたら、限られた層の方々のクローズド・ソサエティのような雰囲気があり「これは敬して遠ざけるべきだ」と思いました(笑)。岡田会長から「県人会に来ないとはなににごとだ」と一喝され、(笑)参加してみますと、昔とはまったく違って、ずいぶんと気楽に参加できる雰囲気になっていました。

大竹 私が入会したのは昭和30年代で、正直なところ「自分なんか来るところではない」と思ったのですが、辛抱しながら参加し続けました(笑)。岡田会長の時代になって一気に会員数が増え、1月の「総会&新春懇親会」も広島からの来賓を含め1400～1500名の出席で大盛況となりました。

住川 平成10年頃に高校の同級生が県人会の総務部長で、誘われて入会し、1月の「総会&新春懇親会」に参加しました。平成25年になって、当時の新見幹事長から「大竹さんが新会長になられたので、あなたは常務理事に」とのご指示で(笑)、初めて役員になりました。その1年後新見さんから「今の幹事長の任期が終わるので、あなたが会長を補佐する責任がありますよ」といわれ、「微力ではありますが、全力で大竹会長を支えます」と申し上げ、幹

事長をお引き受けいたしました。

●—— 岡田会長の大きな功績

住川 平成6年に、第8代会長として東映会長の岡田茂さんが就任されて、県人会の近代化に尽力されました。名称を現在の「東京広島県人会」に統一され、総会開催日を1月下旬の平日とし、会場を紀尾井町のホテルニューオータニに移されました。出席者は従来の300名から一気に1000名を超える日本一の県人会へと大躍進しました。平成9年に「創立50周年」を迎えて、同年1月に記念総会が開催されましたが、会員数は4600名余り、総会の出席者も1500名に達しました。平成20年からは東京ドーム社長の林有厚さんが第9代会長に就任され、間もなく会場が文京区後楽の東京ドームホテルに移りました。平成25年から大竹会長が就任されたのですが、平成27年1月に「一般社団法人」にするとともに、昨年「総会&新春懇親会」の会場を品川プリンスホテルとしました。そして今年、創立70周年の節目の年を迎えたということです。

●—— 県人会のさらなる充実・強化に向けて

住川 「一般社団法人」化の狙いは、一つは組織運営の透明度が増すことです。決算は社会に公告する必要がありますし、法律に則って、理事会でオープンに議論するなど組織運営の透明性が強く求められます。もう一つは会員の参画意識が強まることです。会員総会が役員を選任や決算、定款変更等々、県人会のすべての事項を決めます。会員が県人会の意志決定に深く関与することができ、今まで以上に参画意識を強く持つことができます。県人会が「一般社団法人」化したのは、静岡県人会に次いで広島が二番目で、全国でもこの二つだけです。

県人会の改組に伴い法律に則って運営しないといけませんので、事務局の負担が従来とは比較にならない程増大しています。一方、大竹会長のアイデアで、新たに年3回を目処に「副会長懇談会」を開催しています。年2回の理事会だけでなく、会長・副会長の皆さんが自由にものが言えるような関係を持

っていたらこうという狙いです。

大竹 会員の皆さまがより参画意識を強く持つていただくことによって、県人会が年に1回のお祭りだけではなく、年間のさまざまな形の県人会活動を通じて広島県のために何かお役に立てるような組織になっていくよう、私どもも努力していきたいと思えます

●—— 5月に広島で初の「記念懇親会」!

大竹 東京広島県人会では、創立70周年の記念事業の一つとして故郷・広島での「創立70周年記念懇親会」を広島市で開催します。広島経済界の皆さまからのご要請があり、理事会で協議し実施することになりました。今年5月19日に、リーガロイヤルホテル広島で開催します。この「記念懇親会」は国内9と海外28の県人会すべてにもご案内しています。

●—— 瀬戸内観光を広島県と一体で支援

大竹 広島県の湯崎知事の発案から、瀬戸内沿岸の7県（兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県）が合同で瀬戸内全体の観光ブランド化を推進していこうと、昨年「せとうちDMO」が誕生しました。私は、東京にある7つの県人会と一緒にあって、この「せとうちDMO」をバックアップし、瀬戸内海の魅力を広く国内外に発信していただきたいと思えます。私は常々「瀬戸内海には地中海よりもっと魅力のある観光資源がたくさんある」と思っていますから、なんとしても「せとうちDMO」をいろいろな形で支援していきたいと思えます。

●—— 今春は『ひろしま さとやま未来博』開催!

大竹 広島県は中山間地域の活性化策にも注力されています。今年3月から広島県内の中山間地域で、地域の活性化と魅力を地域内外に発信することを目的に「ひろしま さとやま未来博2017」が開催されます。地域内の廃校を皆の手で再生しようという廃校リノベーションやスマートフォンを使って里山

を冒険する「さとやまソーシャルランド」などの体験型プロジェクトが企画されています。また都市の住民と交流する農業体験イベントや中山間地域の特産物を販売する活動に対して、専門家の助言や補助金が出る「ココロザシ応援プロジェクト」もあるそうです。故郷・庄原市を含む広島県の中山間地域の活性化の気運が高まっていくのではないかと期待しています。

●—— 大崎上島でグローバル人材を育成

大竹 広島県では、教育にも注力されていて、「広島版『学びの変革』アクションプラン」のもとで「日本一の教育県」を目指して新しく取り組んでおられます。中でも、グローバル化社会に対応できる新しい教育モデルを構築しようと、平成31年4月の開校をめざして大崎上島に県立の中・高一貫校を建設中です。特長は、生徒が自ら国内外の課題を発見し問題解決に取り組む「プロジェクト学習」と高校になると留学生と一緒に授業を英語で受けることです。また、大崎上島に米国のアショカ認定大学のキャンパスを誘致する計画も進んでいます。将来全国から中・高生が集まってくるでしょうから全寮制になるのではないのでしょうか。

児玉 全寮制の方が、普段から海外の留学生たちと共同生活ができ、より実践的な国際コミュニケーションが図れるのではないのでしょうか。

保田 日本の場合、まずは子供を母親の元から離すことが先決です（笑）。役所で採用担当をした時に、中学や高校の時に寮に入って、早いうちに母親離れした学生の方がしっかりしていました。最近の若い人たちは海外留学をしたがらない。或る意味で子供の親離れ、親の子離れができないことが大きな要因だと思います（笑）。

●—— 湯崎県政・知事一人で県政は大きく変わる

大竹 広島県のグローバルリーダー育成校は、文部科学省も非常に注目しています。この件が一昨年11月に県議会を通過するまでには、湯崎知事は随分とご苦労されました。湯崎知事の「現状の日本の

教育システムを変革したい」という強い意欲が、既成概念を少しずつ動かしたのではないのでしょうか。県知事一人で県政の変革だけでなく、隣県や国も動かすような地方発信の行政ができる訳です。

児玉 湯崎知事が知事選に初出馬する時に主張していたのは、「広島経済のレベルアップと教育の変革」でした。そのバックグラウンドには通産省時代に米国・スタンフォード大学に留学してベンチャー・スピリッツを学び、帰国後起業したことがあります。彼の発想を広島県政に取り込むことで、現在の広島経済の活性化や教育の変革の起爆力に繋がっているのではないのでしょうか。

●—— 広い構想力と常に前向きかつ堅実な姿勢

児玉 私は湯崎知事の県政を非常に評価しています。広島県のかさ上げは勿論ですが、県という枠に捉われないで、中国・瀬戸内全体の発展を考えるという構想力が「非常に素晴らしい」と思っています。年齢的にも50歳になったばかりでエネルギーに満ち溢れていて、これからも大いに能力を発揮してもらい、広島県とともに瀬戸内地域、延いては日本をも動かしてもらいたいと思えます。

住川 湯崎知事は常に前向きな考え方かつ将来を見据えて一歩ずつ手を打っていくというやり方で私も大賛成です。これからも「教育先進県」や「イノベーション立県」、さらには「スポーツ王国・広島」復活をめざして、ますます頑張ってくださいと思います。

●—— 最先端・広島がん高精度放射線治療センター

大竹 私は「医療クラスター」という、先端技術や臨床研究、薬の開発から治療まで、医療に関わる事業を産学官が連携して取り組んでいくシステムを提唱してきました。7年前に広島での講演会で「医療クラスター」の話をしましたが、その頃広島では二葉の里にある未利用国有地の再開発が注目されました。私の講演を聞かれた地元の経済人が参考にされて、再開発の中核として地域連携で先進医療センター建設を提言されました。そして、広島市内の

広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院が連携し、専門性の高い医師とスタッフに、最新の放射線治療装置を導入して一昨年10月に「広島がん高精度放射線治療センター」が誕生しました。

保田 国内だけでなく中国の富裕層に来広してもらって、治療とともに広島でしっかりと買物し、観光して帰ってもらえばいいですね。

児玉 中国だけでなく、タイやシンガポール、インドネシアなどアジア諸国の患者さんにたくさん来てもらえるような医療ツアーを確立してみてもどうでしょう。

大竹 広島とアジア諸国は近いですから、ぜひとも官民一体となって医療ツアーを考えていただきたいと思います。併せて、今後は身体に優しい東洋医学も必要になってくると思われますので、西洋医学と東洋医学、この二つを併せた統合医療が主流になっていくのではないのでしょうか。

●—— 故郷支援の寄附文化で県人会の愛郷精神を

大竹 これから国家財政も、広島県の財政も厳しくなっていくと思いますので、寄附文化が大きな効力を示すのではないのでしょうか。大崎上島のグローバルリーダー育成校についても、県人会の皆さまに寄附をしていただきながら、広島県人が「皆で故郷・広島を支援していこう」という活動をしていきたいと考えています。

住川 寄附額が2000円超の場合は原則として所得税と住民税から全額控除される「ふるさと納税」の対象となりますので、ぜひとも東京だけでなく、全国の広島県人会の皆さまにもご理解・ご協力をお願いしたいと思います。

●—— 広島県の将来像は!?

保田 広島は製造業の先進県です。私の故郷の呉市でも、主要の造船業は戦前・戦中の軍艦づくりから大変な技術が集積されています。その他、広島市の自動車や福山市の鉄鋼業、大竹市の石油化学などの重厚長大型産業が盛んです。こうした伝統的なすば

らしい技術をしっかり継承しつつ、技術革新してどんどん伸ばしていつてもらいたいと思います。併せて瀬戸内海を中心とした広域観光ルートを、ゴールデンルート（東京～富士山～京都～大阪）に比肩し得るものに構築していただきたいと思います。

児玉 私は、日本の高度成長期から30余年間、通産省で「日本経済の発展」を念頭にしてきましたが、この間ずっと「文化国家」をイメージしてきました。江戸時代に260年間天下太平が続き、経済・文化が繁栄したように、戦後70年間日本は平和が続き、政治が安定し経済が拡大しましたが、本来21世紀は「文化の時代」になっているべきです。広島県の場合、伝統技術を受け継いだ先進的技術やオンリーワン企業の技術、さらに大学の専門的研究技術等々相当な基盤があります。その上に神楽やケン玉といった伝統芸能や伝統民具、瀬戸内の温暖な気候を活かした食文化、さらに若い世代がクリエイトする新しい文化等々において、広島県がトップランナーとして全国をリードしてもらいたいと期待しています。

住川 広島県は、従来のような企業誘致ではなくて「住みやすい街ナンバー・ワン」を目指すことが大切だと思います。西部は広島市を中心に、東部は福山市を中心に、また北部は三次市や庄原市を中心に、街づくりができると思います。広島県の場合、自然環境にも非常に恵まれていますが、広島市の大半の皆さんは、水と緑が豊富にある中心部のデルタ地区ではなく、その外に住んで朝夕の通勤ラッシュを経験していらっしゃる。24時間ずっと水と緑を楽しめるデルタ地区に皆さんが住めるような街づくりをすれば、通勤ラッシュもありませんし、休みの日もレジャーに出掛けやすい。また、本通り商店街など街の賑わいも、他県や大都市圏と比べても決して引けをとらないような街になると思います。

大竹 まさに「スマートシティ」ですね。ぜひ、こうした街づくりを広島県内の各自治体が積極的に進めていつてもらいたいと思います。そして、本日皆さま方と一緒に話させていただきましたさまざまな広島への思いが実現できますように、県人会の皆さんとともに頑張っていこうではありませんか。

東京広島県人会と私

ともにありてこそ!! 酒と肴

保田 博

戦中、戦後にかけて、育ち盛りを呉で過ごした私の夕食のおかずの多くは、牡蠣とか鯛だった。牡蠣にはいろいろ調理法があるにしても、鯛には閉口した。

江田島育ちの母は、尾頭つきの鯛ならぬ小鯛を市場で山のように買って来る、自分の手で一尾一尾…丹念に頭を取り、骨を抜き取った小鯛の刺身の大山盛り。白い大根のつまの上に載せられたそれを前に、「今晚もか!!」ため息をつく毎日だった。戦前は海軍工廠で、戦後は町工場で働く父の月給のみが収入のわが家では、それが精一杯だったのであろう。

長じて、大蔵省に勤めるようになった私が、東京の料理店で食した小鯛の刺身は、一皿に5～6尾、美味しかったが、値段は300円（当時の月給は1万円ほど）……高級魚なみだった。

高級魚といえば、鯛を食して、実に味気ない思いをした経験がある。長崎県福江島で食した鯛である。東支那海に沈む美しい夕陽を眺めながら御馳走になった尾頭付きのその鯛の刺身はまったく締まりが無かった。干満の潮の流れに揉まれて育った瀬戸内の鯛の心地良い歯応えなど味わうべくもなかったのである。

ところで私が現在住む東京では、小鯛に代表される瀬戸内の小魚も、鯛も、わが家では却々口^{なかな}にできない。（つまり、料理店に、わざわざ出かけなければ、口にできない）。

まず前者。現在、東京のデパ地下や、スーパーの魚売場で並べられている魚の大部分は、生前の姿形は想像すらできない肉の塊。尾頭付きの小鯛など見るべくもない。

鯛は、さすがに尾頭付きのものを売ってはいる。しかし、小生の酒のために、内陸育ちの家内が、これと悪戦苦闘する姿は見るに忍びない。広島に住む

友人達から頂戴した尾頭付きの新鮮な鯛を、近所の魚屋さんで捌いてもらえた昔が殊更に惜まれる昨今なのである。

「酒と肴」。昔からよく聞く言葉である。肴とは、「酒菜の意」つまり“酒を飲むときに添えて食うもの”を意味する。酒と肴は不即不離の関係にあるのである。

わが広島県は名だたる銘酒王国である。運輸交通手段の発達により、東京に住むわれわれも、それらを、いつでも手にすることができる。しかし、ともにあるべき肴は、そうはいかないのである。されば、とって、この年になって、いまさら、呉に帰るわけにもいかない。広島に住む人が無性に羨ましい今日この頃である。

(やすだ・ひろし 東京広島県人会副会長)

私の広島との縁

児玉幸治

私は1934（昭和9）年5月9日、広島市中広町の生まれである。ほどなく東観音町に引っ越しをし、昭和16年4月観音国民学校一年生に入学した。昭和20年5月原爆投下の3ヶ月前に、母方の里の高田郡向原町に疎開した。父は疎開先から当時勤務していた広島県庁に毎日汽車通勤をしていたが、8月6日の朝は突然体調を崩し、いつもの列車に乗らず、1時間後の便で広島に向かった。普段どおりに出勤していれば、原爆投下時には爆心地である県庁に着いているから、行方不明になったことは確実であるし、私どもの住んでいた東観音町も防火水槽を除いては跡形もなくなっていたから、疎開していなければ家族一同同じような被害を受けたことであろう。

疎開という両親の決断と父の突然の体調不良という偶然のお陰で私ども家族の今日はあるので、広島のことを想うときには、いつもこの因縁を私は頭に

置いている。

1947（昭和22）年4月広島高等師範学校附属中学校に入学したが、たいへん自由な校風で、楽しい青春時代を過ごすことができた。われわれは新制中学一年生男女共学の一回生として入学したが、上級生は男ばかりの3クラス、われわれは男女合わせての5クラス、先生達も扱いには随分気を遣われたのではないかと思う。スポーツはサッカーと野球、私はサッカーの方に傾倒していたが、野球の方もプロ野球が2リーグに分裂して「広島カープ」が誕生したため、それまでのタイガースファンからカープファンに転向、成績不良の時代が長く続き、ファンとしては大変な時代もあったが、結局今日まで熱烈なファンの一人である。

1953（昭和28）年に大学に入り、昭和32年通商産業省に入省した。戦後の復興期がようやく終わり、欧米の生活水準に追いつくべく、国民が新たな経済発展の機会を求めて力を合わせるという時代に入ったところであった。池田内閣の所得倍増計画はその象徴であったといってよい。経済全体の発展ばかりでなく、「国土の均衡ある発展」が求められ、各地域の知恵比般的な競争も起こるようになった。通商産業省に身を置く者の一人としては、広島が他県に遅れをとることなく頑張ってくれるよう時には気を揉むこともあったが、私どもが提唱していたテクノポリス、頭脳立地都市等の構想も広島大学を中心にして東広島市一帯に見事に花を開いているのは喜ばしいことである。

広島との縁ということでもまず申しあげたいのは兄弟のことである。身内の話で申し訳ないが、私どもは男ばかりの5人兄弟である。私を除き4人の弟はすべて修道中学、高校のお世話になっており、とりわけ3男の憲三は大学まで一貫して修道であり、多くの子・孫に囲まれて広島在住である。私を含め他の4人は関東地方に住み（一人はすでに他界）ついでるので、弟一家が元気に広島に住んでくれていることによる広島との人的心理的絆の強さは筆舌に尽くしがたいものがある。

同窓会でいえば、附属中学校時代のクラス会が今

も続いている。男子生徒は大学卒業後、東京、名古屋、大阪、広島と散らばっているが、各地域のクラス会の外、ときどき全員集っての会合もある。ただ最近は何のせいもあり、各地域の会員のみのクラス会が多くなっており、東京地域では年に数回男女合わせお昼に10人くらいが集って食事とお喋りを楽しんでいる。

私どもの同窓会はアカシア会と称し、東京にも東京アカシア会があり、私もかつて会長を務めたことがあるが、今は二代後の会長が活躍中であり、会としても多様な活動を展開している。

広島との縁で申しあげれば、特大の組織は東京広島県人会である。若い頃には大変な大物が幹部を務めておられたため若干敬遠気味であったが、岡田会長時代に「赤紙」がきて以来、御奉仕のつもりで役員を務めさせていただいている。この会は、政、官、財、学、文化、スポーツ等ジャンルの如何を問わず広島に縁のある人々の集まりであり、素晴らしいコミュニケーションができつつあるように思う。歴代会長はもとより、大竹現会長の御努力によるところが大きい、今後ますます発展してほしいものである。

終わりに、一昨年亡くなった元賀茂鶴酒造社長会長の石井泰行君について触れることをお許しいただきたい。石井君は昭和22年附属中学校に入学以来の親友であり、彼がアカシア会全体の会長のとき私が東京アカシア会会長を務めていたこともあるが、その彼からもう5年も前に広島にアセアン協会を設立するから会長を引き受けろ、自分が会長代行やるから負担はかけないという話があった。

わが国にとって政治的にも経済的にもアセアン10カ国が極めて重要なことはいまでもないが、地方ではこれまでアセアン個々の国との交流団体はあっても、アセアン全体として対応する団体の例はないとのことでお引き受けすることにした。その張本人が急逝してしまい正直途方にくれたが、彼の遺志を継ぎ、体の続く限りは頑張ってみようと思っている。アセアンは、共同体市場への歩みを緩やかではあるが進めており、広島アセアン協会の活動の場はますます広がってゆくとと思われる。関係者の方々

の御協力、御努力をお願いしたい。

穏やかな気候に恵まれ、食物、飲物の素晴らしさはもとより、数々の歴史遺産、文化遺産に囲まれる郷土広島が、今後さらに発展していくことを切に祈りたい。

(こだま・ゆきはる 東京広島県人会副会長)

故郷を持つよろこび

浦上 浩

私は、東京に居を構えて37年になりますが、出身は広島県東部の府中市です。

私は1936（昭和11）年に東京で生まれ、1944（昭和19）年に府中に移り住み、再び東京へ移住したわけですが、太平洋戦争（1941～1945年）の戦前、戦中、戦後を東京と広島で経験しました。激動の時代に生きてこられたことを感謝しておりますし、現在のわが国の平和と繁栄は、多くの人の犠牲のうえに成り立っており、我々が今日あるのも、先人の尊い努力のおかげであることを日々忘れてはならないと思っています。

私が小学校2年生のとき、東京は空襲が激しくなり、学校は閉鎖、生徒は東京を離れることを余儀なくされ、私は父の郷里である広島県芦品郡岩谷町（現在の府中市目崎町）へ家族で移りました。私のように縁故がある人は縁故地へ、ない人は集団で疎開、多くは地方都市のお寺や学校に身を寄せました。

父の郷里へ疎開できたものの、食糧難の時代です。当然のことかもしれませんが親戚といえども我々疎開者を温かく迎えてはくれませんでした。多くの人たちが毎日飢えと戦い、日々生き延びることしか考えていなかったと思います。学校の校庭も耕され、野菜が植えられました。1945年8月には府中市に隣接する、直線距離で約15km離れた福山市に大掛かりな焼夷弾爆撃があり、夜空が真っ赤になったの

を記憶しております。当時は情報が少ない時代、広島市に新型の爆弾が投下されたという話は後になって聞かされました。府中市に移り住んでからの思い出もいろいろありますが、こどもごころに良い思い出はあまりありません。

小学校、中学校、高校を終え、大学の4年間を東京で過ごした後、広島市にある大学の工学部の工業経営学科で1年お世話になり、1960（昭和35）年1月、府中市に本社のあるリョービ株式会社へ入社しました。入社2年後の1962年に結婚、4人の子供たちにも恵まれました。

1980（昭和55）年、仕事の都合で21年間住み慣れた府中を離れ、家族とともに東京へ移住し、現在に至っております。わが人生で最も長い期間、東京に居を構えているにもかかわらず、多くの方が今だに私の生活の拠点は広島であると思っておられ、「東京には月のうち何日ぐらいおられますか?」「広島と東京と過ごす時間はどちらが多いですか?」と聞かれることがしばしばです。人々に認識を変えてもらうことがいかに難しいことかということだと思います。

広島というと一般的には東部より広島市を中心とした西部を思い浮かべる人が多いと思います。私は東部の出身ですから、西部のことを聞かれて答えられないことが多々あります。以前に比べると道路網の整備、公共交通機関、通信機関が発達したお陰で広島東部の格差は小さくなったと思いますが、官民一体となって両者を少しでも近づけることが大切だと思います。

（うらかみ・ひろし 東京広島県人会前副会長）

美しい自然と 歴史・文化を大切に

三浦 惺

2016（平成28）年はまさに広島年でした。なんとといっても「神ってる」カープの25年ぶりのリ

ーグ優勝は感動的でした。また、オバマ大統領の広島訪問も、核廃絶を願う県民の一人として、本当に良かったと思います。近年、広島は製造業や観光業を中心に、比較的経済が順調に推移しているようですし、教育や福祉の取組も進んでおり、たいへん嬉しい限りです。

経済社会発展のキーワードは「グローバルイノベーション」・「イノベーション」とともに「コラボレーション」だと思っております。例えば、瀬戸内海7県による「せとうち観光推進機構」のように、他県とも連携しながら、さらに発展することを願っています。「東京広島県人会」も70周年を迎えました。大竹会長のリーダーシップのもと、一般社団法人化するとともに、国内外の広島県人会とも連携を図ることとしております。また、会員相互の親睦だけでなく、広島出身の学生との対話など、広島のために役立つさまざまな取組を進めています。

私も古稀を過ぎてだんだん故郷への想いが深くなってまいりました。できるだけ広島へ足を運ぶ機会を増やすとともに、少しでも広島のためにお役に立てればと思っております。

（みうら・さとし 東京広島県人会副会長）

東京広島県人会と私

角廣 勲

私と東京広島県人会とのつながりは、今から27年前に東京企画部へ赴任したときにさかのぼります。当時の会長であった東映の岡田茂さんが日本一の県人会を目指しておられる中で、会員増強やさまざまな行事や活動のお手伝いをさせていただきました。あれから時は過ぎ、2013（平成25）年3月に副会長を拝命し、二十数年ぶりにお手伝いをさせていただくことになりましたが、会員も増え、皆さんとの交流を通じて、あらためて会員の皆さんの“故郷

広島”を思う気持ちに感動しております。

とりわけ、平成28年は「広島東洋カープ」が25年ぶりに優勝し、本年の東京広島県人会の70周年に花を添えることとなり、私も心から喜んでおります。記念すべき70周年を迎え、これからも“故郷広島”の経済発展、文化向上を中心にしっかりお手伝いをさせていただきたいと思っております。

（すみひろ・いさお 東京広島県人会副会長）

古里に熱いエールを これからも

山本治朗

このたびは、東京広島県人会創立70周年、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は2014（平成26）年に県人会に加入し、15年から副会長を務めさせていただいています。足場が広島にあるため、会合にはなかなか出席ができませんが、毎年1月の新春懇親パーティーには必ず、広島から足を運んでいます。その度に、会場を埋め尽くす来場者を見て、「全国有数の県人会」という評判どおりの勢いを頼もしく感じています。

昨年、広島東洋カープの25年ぶりのリーグ優勝に広島街は沸きました。聞きますと、首都圏での試合では、県人会青年部の方々が毎回、球場に足を運び、熱心に応援をされたとのこと。広島から中継を見ていて、真っ赤に染まった球場がどれほど心強かったことでしょうか。県人会の熱い思いがあったからこそ、全国的に盛り上がったのだと感じています。

広島県は昨年、カープの優勝だけでなく、米国のオバマ大統領の訪問や、リオデジャネイロ五輪での金藤理絵選手の金メダル、山縣亮太選手の銀メダルなどがあり、歴史的で、また嬉しいニュースが相次ぎました。これからも引き続き、古里に熱いエールを送ってください。広島発展を力強く後押しして

いただければと思います。

（やまもと・じろう 中国新聞社社主兼会長）

“三原”の思い出

山根昌久

私は当年80歳、東京人ですが、8歳で父の故郷で酔心蔵元のある三原に縁故疎開し、13歳まで生活をしました。いわば多感な少年期を終戦を挟み、戦前戦後5年間過したことになります。三原の印象は「山紫水明」に尽きます。価値観の大変動はありましたが、水清き第二のふるさとの価値は微動だにしません。

一番懐かしい思い出は、祖父の袖口にさばってお寺参りのお供をしたこと、祖父が今夜は松茸の「へか」にしよう、ついて来なさいと二人で山中に入って松茸の探し方を教わったことなどです。

戦前戦後広島市に数回行き、戦後の広島あまりの変わりように驚きましたし、三呉線で呉にも行き、江田島の海軍さんにも多くゆきあいました。福山、尾道、西条、庄原、三次にもそれぞれ思い出があります。

私は今でも三原をこよなく懐かしみ、広島東洋カープの優勝に祝杯を挙げた一人です。

（やまね・まさひさ 東京広島県人会常務理事）

東京広島県人会と私

石田文典

東京広島県人会が創立70周年を迎えられますこと、まずもってお祝い申し上げます。

私は、2012（平成24）年4月、広島県東京事務所長として、初めて、広島以外の勤務地に赴任しました。東京と縁のなかった自分が、ちょうど銀座の「T A U」オープン之年に大都会東京での生活を始めることとなったのも何かのご縁だと思います。

T A Uのオープンに関しては、新宿の「ゆめテラス」を閉めて早2年が経過しようとしていましたので、それまで御愛顧いただいていた県人会の皆さまには、早期の再開について厳しくも暖かい御要請をいただいております。また7月の開店後には、「店がどこにあるのかわからん」「通りの看板が見えん」とたくさんの苦情も頂戴しましたが、県人会の皆さまにはふるさと愛で何度も来店いただき、売上、入店客数とも目標を上回る盛況ぶりとなり、今や、売上では全国のショップの中でも2番か3番かの位置にあり、私もほっとしたところです。

さて、広島一筋で50代半ばで赴任した私にとって、初めての東京生活は不安と期待の交錯した複雑な出発でした。そうした中、恒例の東京広島県人会幹部・幹事の皆さんによる東京事務所職員の歓送迎会は、今でもとても印象に残っています。ご多用の中、会長はじめ多くの皆さまが参加され、ふるさとの話題や新しい東京生活の楽しみ方を教わるなど、その暖かさを痛感しました。

東京生活をふり返りますと、なんとといっても人的交流の幅が格段に広がったこと、そして広島を離れて外から「広島」を見ることができたことで広島の価値を再発見できたことが、今でも一番の財産となっています。

他県の東京事務所長とそれぞれの県人会のことで会話することもしばしばあり、それぞれの県人会の様子や県との関係性について情報交換するときは、とても優越感に浸れる瞬間でした。

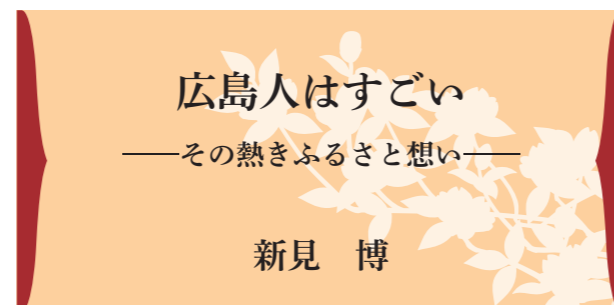
そして、私は、歴代所長を凌駕して、結局4年間の在職となり、新たなレコードを作ってしまった（笑）。その間、会長の交代、そして法人化への移行と、県人会としては、大きな変革の時期をご一緒させていただきました。かねてから財政的基盤は強固でしたが、加えて組織体制を整えられ、2015

年1月には、法人格を持つ「県人会」として再出発されたわけです。

しかしながら、新たな環境での出発に当たっては、変化への意見が合わず残念ながら別の道を歩まれた方もありました。会として、そして会員の皆さんが、時代の変化に的確に対応され、さらなる飛躍を遂げられることを祈念・期待しております。

最後に、県会があったればこそ、そのネットワークのお陰で、東京の「美食」に比較的容易に出会い、とても助かりました。東京には、全国からおいしい食材、そして一流の調理人が揃っています。リーズナブルでかつおいしい店の発掘には、リスクを覚悟して多くの場数を踏まねばなりません。その点、諸先輩方の経験知で、ロスなく、おいしい店にたどり着けたことは、望外の幸せでした。この紙面を借りて改めてお礼申しあげます。ありがとうございました。

（いした・ふみのり 広島県東京事務所前所長）



8月の原爆記念日に住川幹事長から70周年記念誌への寄稿を依頼され、楽しいこと、悲しいこと、苦しいこと、甘酸っぱいこと、いろんなことがぎっしり詰まった県人会の活動をふり返って、ペンを執ってみました。（正確な記録ではないので間違っていることも多々あるかもしれませんが。敬称略、物故された方はそのままにさせていただきました。それにすべてのアクションは私一人ではなく常に仲間と一緒にしました。一緒に活動した仲間のお名前を書きたかったのですが、とても書ききれないので失礼しました）

● 開かれた県人会

1994（平成6）年のある日、東映（株）の会長だった岡田茂に呼ばれ、「新見君、わしゃ今度、広

島県人会の会長を引き受けることになったんじゃ。協力してくれーや」…という話でした。岡田茂は西条（現東広島市）の出身で、京都撮影所での映画制作（東京撮影所でも）が長く、いろんな映画を作ってきたので、広島弁、やややくざっぽい言葉、関西弁がいきりまじった言葉（映画界のドンといわれるくらい迫力がすごい）を駆使して説得してくるので反論の余地はありません。しかし、そのとき、私は県人会のことはまったく知りませんでした。

その時の県人会会長は田部文一郎（三菱商会长）で、広島県人会は伝統があり、財界、官界、政界の大物といわれる方々が中心になって格式、権威のある会だったようです。普通の人が入るのが難しく、入っても堅苦しい雰囲気のにまれて大変だったようです。

そのような会だったので会員も多くなく、懇親会も上野の精養軒で行われていました。山根賞三（酔心）、石井泰行（賀茂鶴）、角田式美（角栄ガス）、加藤修治（テクノ樹高）ほかの何人かが集まって最初の打ち合わせが行われました。この席で私が主張したのは、広島出身で上京して活動している人は大勢いて、県会があれば参加したいと思っているはずで、そのような方々に参加してもらおうよう、開かれた、民主的な会にしましょう。これは全員賛成で、ここから新しい県人会のスタートです。名前も「東京広島県人会」に決定しました。（東京は広く東京圏という意味で）その後、入会資格を広げ、仕事で何年か広島に住んで、第二、第三の故郷と思っている方も、なにかの縁で広島が大好きだという方も入れよう、ということにしました。（この会が、広島県が外に向かって開かれていると、好評でした）

● 組織づくり

会を大きくするには、①各界で成功して名をなした方々をずらりと、役員として参加してもらう。②活動の中心になる幹事グループを結成する。実行部隊が最重要になる。③一般会員を増やす。④団体としての形を整え、広島県との連携を密にする…といった大まかな目標を掲げて動き始めました。このと

きの中心になったのは私と加藤修治で、この人の熱意、人脈が幹事活動にすごい貢献をしました（岡田時代の最後まで）。

● 仲間とデスク

県会のエンジンになる幹事活動は最初から活発で、役員の中からも参加する方が多く、10の委員会や多くの同好会が作られ、熱心な討議、動き、それに飲み会が続きました。親睦の旅行会には家族も一緒に参加する方も。

いつも不思議な気持ちでいましたのは、皆、金を払って（年会費、パーティ費）、平等で、命令ということではなく、でも、喜んで参加していたことです。苦しいこともありましたが、皆へっちゃらな顔をして処理してました。ほんとうに信じられない日々でした。事務処理だけでなく、多くの情報が集まって、すぐに対応を迫られる問題がおきても担当幹事と連絡してくれるデスクも、活動の重要な役割を果たしてくれました。



ある幹事会の作業風景

● 財政・危機

会がスタートした時点で財政は危機状態で、山根副会長が寄付集めに奔走するのを見て、これはまずい、と解決する努力を始めました。支出より収入が増えればいいわけで、会費収入と催事収入の増、そのためには会員、役員が増えて、パーティの参加者が増えることが必須になります。

● 役員

増員運動をしながら感激したのは、企業のトップ、官界の上級の方、政界の重鎮…が県人会ということで快く会って下さり、ほとんどの方が、役員就任、(かなりの年会費がついていても)を快諾して下さいました。副会長、常務理事、理事、評議員、幹事ということになりました。幹事の増員運動も好調で、最初は出身高校の同輩、後輩が中心でしたが次第に輪が広がり、やがて50人に達するようになりました。特に幹事は実践部隊で、時間も労力も大変なのに、年会費1万円で、誰からも文句ひとつ出ませんでした。頭がさがり、この会を大事に育てる責任を痛感しました。役員の数もやがて300人を超えるようになり、役員に対するお返しはなにかを考え、1年に1度の総会以外に、役員だけの懇親会を開催、最初は1年に1度でしたが、好評で(総会は参加者が1千人を超えて混雑し、挨拶もできないが300人規模のパーティだとじっくり顔を見ながら話ができる)年2回にしました。

● ふたば会

広島に本社のある大企業のオーナーで作った「ふたば会」と在京の広島ゆかりの財界人との親睦会が毎年行われていましたが、行き詰まって岡田は悩んでおり、ちょうどこの役員懇親会をそのかわりにしたいと思ったようです。結果は良かったようです。

● 財務好転

どの催事も内容を幹事会で企画検討し、コストも考え、ホテルとの値下げ交渉も行い、すべて黒字でした。役員年会費と催事の黒字で財務状態も好転し繰越金が9千万円を超えるようになりました。この金をどうするのかという質問も多々ありました。近い将来、道州制が取り入れられ県の形が変わってきたとき、県人会の事務所を独立させなくてはなりません。現在、県事務所の一部を安い家賃で借りて、いい立地、優秀な若い県職員、広島情報の集積地の中にいて、会議室も使わせてもらっていますが、独立すると費用は膨大になります。そのための備えが

このお金だと、私は答えてまいりました。

● パーティ会場

最初に開催したのは、銀座東急ホテルで、150人くらい集まり、狭いので次は赤坂東急ホテルで、ただこの間に会員がどんどん増えていくのもっと広いところが必要になりました。次の会場は常務理事の方のコネでホテルニューオータニで行いました。出席者も多く内容は悪くなかったのですが、ホテルの費用が高く、こちらも見下ろされてる感があったので、当時、東映と親しいつき合いのあったプリンスホテルと交渉して、赤坂プリンスで総会、パーティを行うことにしました。

有り難いことに、当時プリンスグループのトップだった堤義明が広島県人会の動きに目をつけていて、広島県人会を取ってこいという指示がでていたようです。ここでの開催は、コストダウン、もろもろのサービスがうまくゆきました。トップ同士のつき合いもあったので、協力的で、長く続きました。会場の設定も好きなようにできたので、まだ広島県に市、町、村が多くあったので、すべての長が、また県にゆかりの国会議員のすべての方が出席されるので壇上での席の用意(何段ものひな壇)が大変でした。

● 会員名簿、県人会ニュース、ホームページ

会員、役員が勢いよく増えていくので会員名簿のページ数も増え、他県の県人会の名簿等を参考に、広告を掲載することにしましたが、協賛企業の数が多く、1冊の半分以上が広告になり、また編集に携わる幹事の仕事も煩雑になるので、思い切って広告ゼロにすることにしました。おそらく他の県会にはないと思います。

県人会ニュースも広告なしで通してきました。思い切ってカラーに、写真を多くして読みやすく、編集に携わった幹事の苦労は大変だったようです。会員には好評で、もっと多くの細かい情報が欲しいという要望が絶えなかったようです。ホームページも幹事が苦労して続けてきました。今はかなりの固定ファンができています。

● 協賛企業、お土産

広告を一切取らないということと関連して、パーティへの協賛は好調で、酒処広島の酒造組合からの協力、松尾氏のカルビーからの大量の商品提供は今も続いています。広島各市町村の(今は村はなくなりましたが)名産品、役員関連企業の商品等、パーティ開始前のお土産袋の用意は大変で、全幹事、お手伝いの有志が前日の夜会場に集まって仕分け、詰込み、指定場所への準備と大変でした。ただこのような全員での作業は不思議な一体感を生み出し、県人会もいいもんだ…と皆が感じたようです。

● 幹事交流と故郷の勉強

スタート当初、県の事務所は霞が関ビルに隣接したビルにあり、(2005〈平成17〉年から現在のビル)県人会の事務所はその一部をお借りしてました。会議室もお借りして、頻繁に幹事の会議を重ねていた関係で、終了後、地下にあった安いレストランで飲みながら歓談、県事務所のスタッフも参加し、この飲み会が長く続きました。広島という共通項のもと胸襟を開いて語り合う素晴らしさ、これは幹事冥利につきました。

ただ、このとき感じたのは、自分はいかに広島のことを知らないかでした。幸い東映は広島に映画館、シネコン、ゴルフ場、また各百貨店での展示催事等やっていたので出張で積極的に広島に帰り、高校時代の友人にも協力してもらって、出張の都度、1日をさいて、タクシーを使ったり、友人の車で、あちこち廻りました。広島県東京事務所には選ばれた優秀なスタッフが30人近く勤務しており、定期的に、担当している業務についてレクチャーしてもらって広島県の勉強会を始めました。学郷会として今も続いているようです。

● 広島発の文化

桃山時代に茶の文化が栄え、秀吉の側近で、古田ふるた織部おりべの直弟子だった上田宗箇そうこが、関ヶ原の戦いのあと、広島に移封した浅野家の客分で、茶の文化を熟



郷土の現状を学ぶ「学郷会」

成し、その末裔の上田宗箇そうけいを家元とする上田流の茶道が広島で発展しているが、県人会を入口として東京で広げたいという話が参り、協力することになりました。

広島では上田宗箇は縮景園を造った人間として有名だったので、県人会の役員を説得するのは早く、何十人かの発起人を揃えることができました。その後、家元の人柄と熱心に応援するファンが増えて立派な流派として栄えているようです(東京遠鐘クラブ)。私も東京の有名な茶室を調べて、交渉し、お茶会に会員が興味を持って参加できるよう努力しました。

● 一般会員へのサービス、交流

会員増強運動も好調でスタートして5年後には3,000人に達しました。年会費3千円をいただいて、そのお返しは…と悩みましたが、会員名簿、県人会ニュース、それに同好会への参加呼びかけを始めました。ゴルフ、テニス、釣り、陶芸、写真、きき酒(近郊の酒蔵見学)、カラオケ等、熱心な幹事が中心になって参加者を増やしていきました。講演会も好評で、いつも百人以上の会員が出席していただきました。

● 当時残された課題

すべてうまくいったようでも、問題もありました。私自身、幹事長になったときは50歳を超えていて集まった仲間たちも若い人(20代、30代)はいませ

んでした。組織が生き残り成長する重大要素として、若い芽を育てることが入ってきますが、幹事会の中に青年部、学生部を作り、大きくしたかったのですが、うまくいきませんでした。(この問題は後に良い方向に進んだようです)

● 次の時代へ

2007(平成19)年に入って、岡田会長と、そろそろ会長職をひいて、次の時代にまかせては、という話をするようになりました。この頃、親しくおつき合いのあった山口信夫(日本商工会議所会頭)を交えた話し合いが何回もあり、林有厚(東京ドーム社長)にしたい、ということになり、説得を開始しました。東京ドームは所有していた多くのゴルフ場のすべてを処分するという改革の最中で、いい結果が出るまでお待ちした後、会長職を受けてくださることになり、続いて、すべての副会長に報告と了解を得る作業を始めました。私は、岡田、山口、林の希望で1年だけ残り、次の体制がうまくいったのを確認して幹事長職を江崎正行にバトンタッチしました。今は林有厚時代から次の大竹美喜時代に入り、住川雅洋幹事長とのコンビのもとで新しい形の県人会が始まっています。新しい時代にふさわしく、ますます輝いた県人会になるよう、期待しています。

(にいみ・ひろし 東京広島県人会元幹事長)

東京広島県人会と私

河野一郎

いつでしたか。NHKのラジオ深夜便で、信州の酒造会社社長が、驚きを含め、広島への感謝の念を語っていました。「広島酒造りについて何ったら、ここまで踏み込んでいいのかと思えるほど教えてもらえた」という趣旨でした。来るものは拒まず。ここに東京広島県人会の持ち味に通ずるものがある、

と思います。

私は一度目の中国新聞東京支社勤務をした昭和50年代後半に県人会と出会いました。当時「会員4000人、おそらく全国1、2の数」と聞きました。総会は名簿掲載の人、名簿外の人で常にごった返すにぎわいだったと記憶します。「集まるんじゃけ、受け入れにや仕方ないよね」と役員たち。なんとも大らかで開放的、広がりのある組織というのが第一印象です。

歴代リーダーの方々も個性的で魅力的だと思います。財界トップの一人だった元会長は風邪気味をおして、ぐるぐる巻きのマフラー姿で総会に登場。県人会への思い入れに、万雷の拍手が起きたのを思い起こします。弱い時のカーブの東京激励会で「優勝は難しいかもしれないが頑張れ」といった内容の、妙に納得できるような檄で爆笑を誘った元会長も印象に残ります。

いろんな角度から、人が集まる要素の詰まった県人会だと改めて思います。同時に、今や全国発信の発光源になったようにも感じます。ひろしま男子駅伝を機に、広島には地元以外の全都道府県人組織がそろいました。東京での広島モデルが発想のベースにあるのは間違いないと思います。開放的で広がりを見せる広島マインド、スピリット。まてよ。ひょっとしてハワイやブラジルの広島県人会魂も投影されているのかも。そんな感も、私にはするのです。

(こうの・いちろう 文化事業社専務取締役)

国内・海外の広島県人会からのエール

近畿広島県人会の現状

豊松正文

東京広島県人会70周年おめでとうございます。会長初め幹部の方々の努力に敬意を申しあげます。広島県人会も各地において親睦と交流に努力されています。

近畿広島県人会も今年で134年になります。過去に活躍された先輩たちに感謝しながら少しずつ新しいことを取り入れ会員の親睦と懇親が図られるように努力しています。毎年総会を行うとともに広島県と各市町村との関係を強化すべく各自自治体の行事などをできるだけ多くの人に知ってもらうように努力しています。

総会ではできるだけ郷里の芸能などを会員に知ってもらうべく、県や各市町の援助を得ながら会員にPRをしています。最近の総会では安芸高田の神楽や三原のヤッサ踊り、因島の村上水軍の陣太鼓、被爆70周年の年には被爆ピアノの演奏会などを行ってきました。

その他会員を中心にバス旅行で郷土を訪問するような行事を行ってきました。また、広島酒を飲む会やゴルフ会、カラオケ会、京都・奈良の散策会など行って会員の懇親を図っています。

近畿を中心に行われる行事として、高等学校のスポーツ全国大会が多く開催されます。春の選抜高校野球や夏の全国高校野球、冬の高校駅伝、高校のラグビー大会など多くの行事があり、年中行事としてそれらの応援に努力しています。

今年の春の選抜に呉市立呉高校が甲子園に出ましたが、県人会として呉市や呉高校と連絡を取りなが



ら歓迎や応援体制をとっています。そのように高校の行事が多いため各高校の関西の同窓会をまとめた同窓協議会を設立し、各学校間の横のつながりを持つように努力しています。

会員は現在400名程度ですが、会員も高齢化してきていて退会する人が多くなっていますので若い人の勧誘に努力しています。若い人たちがホームページを見て少しずつ入会してくれています。今後はまだ結成されていない学校の近畿の同窓会支部を結成するように、各学校出身者と一緒に努力し、その中でできるだけ多数の人に県人会に入会してもらえようように努力してゆくつもりです。

今後の活動にあたって東京県人会の活動を参考にさせていただきたいと思っています。貴会が全国の、いや全世界の広島県人会の指導をとっていただけるように、ご援助をお願いしまして挨拶いたします。

(とよまつ・まさふみ 近畿広島県人会名誉会長)

わが心のふるさと 広島県人会の片隅で

藤本輝夫



東京広島県人会創立70周年まことにおめでとう
ございます。

歴史と伝統を受け継いでこられた先人の努力に心
からの敬意を表します。

近畿広島県人会の歴史は、1883（明治16）年に
設立され今年で創立134年を迎えました。私が近畿
県人会に入会したのが1963（昭和38）年、弱冠22
歳の時で、今年で入会54年目になります。

「ふるさととは遠くにありて思うもの」……。これは
私が県人会に入る動機というか、その当時の心境で
ありました。

9歳で母親を、15歳で父親を亡くした私は、中
学時代を広島の田舎町で貧乏のど真ん中にいました。
中学校を卒業と同時に、ふるさとを捨てるように大
阪の小さな町工場に就職しました。当時は高度経済
成長の波に乗り、集団就職などで地方の若者が職を
求めてどっと都会へ出てきた時代でした。

大阪での生活は、貧しかった田舎の生活に比べ食
事など雲泥の差がありました。なにより給料が入り、
自由に使えるお金があることは、心にゆとりができ
ようになりました。半面ホームシックになり、故
郷が恋しくなったりしました。

社長の勧めで定時制の高校に入学したのが、私の
人生を大きく変えるきっかけになったのです。当時
の定時制の生徒の大半が地方出身者で、ほとんど同
じ境遇なので、すぐに友達ができ、いろんな悩みご
とや将来の夢などを語り合ったものです。そんな折、
地方出身の青少年グループに参加するようになった
のです。休日にハイキングやキャンプなどのレクリ
エーションを中心にした活動でしたが、私の気性に
合ったので、とても楽しく積極的に参加をいたしま
した。

昭和36年20歳の時、広島県出身の青少年を集め
「広島青年クラブ」を設立しました。100名以上の
会員で、レクリエーションを中心にした活動を展開
していました。翌年、大阪市の担当者から県人会を

紹介していただき、青年クラブ全員が県人会の会員
として入会。昭和38年近畿広島県人会青年部とし
て活動することになりました。多い時には200名を
超える青年部がいましたが、加齢とともにいつの間
にか消えてしまいました。

私は、入会と同時に青年部を代表して幹事に任命
され、以来54年間幹事として、今でも近畿県人会
の中核で活動させていただいております。

ふるさとを捨てるように大阪に出てきた私でした
が、県人会とかかわるようになると、ふるさとが懐
かしくなり、苦しかった子供時代でしたが、ふるさ
とを思い出すようになってきました。小学校、中学
校の同窓会には欠かさず出席していますし、同級生
やクラスメイトとも親しくおつき合いをさせてい
ただいております。

仕事はその後小さな広告代理店に転職し、写真や
デザインなど宣伝企画の勉強をさせていただきました。
35歳の時独立し企画会社を設立しました。県人会
の機関紙の編集のお仕事をさせていただきました。多
くの県人の皆さまにお力添えをいただきました。ま
た、県人会の他に私の住んでいる千里ニュータウン
でまちづくりや自治会、老人会など、多くのボラン
ティアをさせていただいておりますが、ボランティア
活動の原点は県会にあります。

歴代県知事さんはじめ各市の市長様とも懇意にさ
せていただいております。県人会に入ったおかげで数多
くの人との出会いがありました。近年は東京をはじ

め全国の県人会の皆さまとも交流させていただき、
ますます交流の輪が広がっています。

私の心の中には「ふるさと・ひろしま」が大きく
占めています。県人会の偉大な先輩がこう話された
ことがあります。「今の若者には愛国心がない。愛
国心といえば戦前の軍国主義を思い起こすが、今の
時代は「愛郷心」すなわち、両親やふるさとの人々
を大切にすることが世界平和につながる」と語られ、
若者の「愛郷心」の希薄さを嘆かれていました。

半世紀以上の県人会との関りは、当然私の人生に
大きな影響を与えたことはいまでもありません。
ふるさと大好きな私にとって、今後とも「ふるさ
と・ひろしま」の良さを周りの人につぶやきながら、
県人会の片隅で生きてゆくことを願っています。

（ふじもと・てるお 近畿広島県人会副幹事長）

心からの「アロハ」

ホノルル広島県人会

Aloha to the Tokyo Hiroshima Ken People
Association on your 70th Anniversary. We are
the Honolulu Hiroshima Kenjin Kai (HHKK),
which was established in 1955, by first and
second-generation immigrants from Hiroshima
Prefecture. The purpose of our organization is
to promote and perpetuate the unique culture
and customs, its interesting food, its rich
traditions and its friendly and caring people of
Hiroshima.

東京広島県人会の皆さま、貴会が70周年を迎える
に当たり「アロハ」と、心からの祝意を表します。
私どもは、ホノルル広島県人会（the Honolulu
Hiroshima Kenjin Kai、HHKK）です。私どもは、
広島県からホノルルへ移住した第一、二世世代によ
り1955（昭和30）年に設立されました。私どもの
目的は、広島ならではの文化・風習、その興味深い
食文化、豊かな伝統、友愛的で人に優しい広島
の人々の心を世に広め、永く伝えることにあります。

We are also fortunate that there are strong ties
between Hiroshima City and Hiroshima

Prefecture with the City of Honolulu and the
State of Hawaii. A “sister” city relationship
between the Hiroshima City and the City and
County of Honolulu was established in 1959.
Plans are already being initiated for a 60th
anniversary commemoration in 2019. Also, a
“sister” state/prefecture relationship between
Hiroshima Prefecture and the State of Hawaii
was created in 1997. 20th anniversary
commemorations in both Hiroshima and Hawaii
will be celebrated in 2017.

幸いなことに、広島市・広島県とホノルル市・ハ
ワイ州の間には、強い絆があります。広島市とホ
ノルル市の「姉妹都市」の関係は1959（昭和34）
年にできました。2019年に向けてその60周年を祝
う計画が既に始まっています。また、広島県とハ
ワイ州の姉妹県（州）関係は1997（平成9）年にで
きましたので、2017年は20周年を迎えることとな
ります。

Each year, the HHKK focuses its efforts on the
following programs and causes:

毎年、ホノルル広島県人会では、次のような企画や
活動に注力しています。

1. Okonomiyaki sale at the Japanese Cultural
Center of Hawaii’s New Year’s
Festival with net proceeds earmarked for
annual college scholarships for deserving family
members

1. 日本文化センターの「ハワイの新年フェスティ
バル」における「お好み焼き」の販売…その純益は
HHKK家族会員のなかの然るべき方々に対する大学
奨学金に使われています。

2. “Shinnen Enkai” and Membership Meeting/
Banquet scheduled to coincide with the world
famous Honolulu Festival and includes the
Hiroshima Goodwill Ambassadors

2. 世界的に有名なホノルル祭に併せて開催される
（ホノルル広島県人会の）「新年会・会員集会」の開催。
…これは広島親善大使も招かれるものです。

3. Picnic, which focuses on the youth and younger families, features traditional games from Japan

3. 日本の伝統的な遊びを伝える、若い世代・家族向けのピクニックの主催。

4. Hiroshima Commemoration and Peace Service, which is held annually since 1990, is a memorial service to honor the victims of the tragic bombing of Hiroshima on August 6, 1945

4. 1945年8月6日の原爆投下の悲劇の犠牲者を弔うために、1990年以降毎年開催される「広島平和式典」の開催。

5. International Youth Exchange Program, with the support of the Hiroshima Prefectural Government, since 1996, high school students from our membership are selected to travel to Hiroshima and learn more about their Hiroshima heritage

5. 1996年以降の取組として、広島県庁の支援のもとで行われている国際ユース交換留学プログラム。…これにより、本県人会で選ばれたメンバーは、広島に赴き、広島の伝統をより多く学ぶことができます。

6. Clean-Up of Ehime Maru Memorial and Hiroshima Torii Gate is done by the members of the HHKK to clean-up and spruce up these landmarks.

6. 愛媛丸記念館、(ホノルルの) 広島鳥居の清掃。

In recent years, we have been working with other Hawaii organizations to promote our Hiroshima heritage including:

近年、我々（ホノルル広島県人会）は、広島の伝統を広めるため、他のハワイの組織とともに、次のような活動をしています。

A. Building of replica of Itsukushima Shrine in Honolulu, Hawaii, with the support of the Hiroshima Hawaii Sister State Committee and

Honolulu Japanese Chamber of Commerce, was accomplished in 2002 with contributions from Hiroshima Prefecture, Hiroshima City and the Hiroshima Chamber of Commerce and Industry. This landmark is enjoyed daily by visitors and residents!

A. 広島・ホノルル姉妹都市協議会や、ホノルル日本商工会議所の支援のもとで、ホノルルにおける厳島神社のレプリカの設置が、広島県、広島市、広島商工会議所の援助を得て2002年に実現しました。この観光名所は、多くの訪問客や地元の人々に楽しんでいただいています。

B. Raising funds for the creation of an exhibit, featuring a paper crane made by the late Sadako Sasaki, was achieved in September 2014. The exhibit is a new display at Pearl Harbor.

B. 佐々木禎子さんの折り鶴を中心とした展示を作るための募金活動は、2014年9月に実現しました。その展示は、真珠湾に設置されています。

C. Responding to the landslides in Hiroshima, which occurred in August 2014, a grass roots campaign was initiated throughout the State of Hawaii to raise funds for the victims and their families

C. 広島で2014年8月に発生した土砂災害につき、被害者とその家族のためにハワイ州全州で草の根的な募金活動を行いました。

D. Served to bring together Hiroshima's Board of Education and the State of Hawaii's Department of Education to establish a statement of intent on May 27, 2016 (the same day President Obama visited Hiroshima) promoting educational opportunities for students and teachers.

D. 広島県教育委員会・ハワイ州教育局との協働で、2016年5月27日（オバマ大統領の広島訪問の日）に、学生・教師のための教育機会を作るための趣意書を作りました。

As the Honolulu Hiroshima Kenjin Kai

commemorates its 62nd year of service, it is our goal to work with the Tokyo Hiroshima Ken People Association on programs and causes of mutual interest to promote our Hiroshima heritage and spirit!

ホノルル広島県人会は今年で62周年となります。そうしたなかで、広島の伝統・精神を広めるために、東京広島県人会とともにお互いのためになる企画や活動について手を携えて行っていくことは、我々ホノルル広島県人会の目指すところです。

Omedeto gozaimasu! Congratulations on your 70th Anniversary!

おめでとうございます。貴会の70周年に祝意を表します。

(Wayne T. Miyao President)

Hiroshima Our Homeland Overseas 広島 海の彼方の私たちの故郷 ハワイ・コナ広島県人会

When you think of Hiroshima, one thinks of peace because of what can happen when the world goes to war. When you think of Hawaii, one thinks of a place to visit for a vacation because of the allure of what paradise brings. Living in Hawaii, one is so fortunate, as the climate, its people, the cultures, the diversity of the islands, the language and the food brings so much joy and happiness. Located more than 2,000 miles from the nearest continental mass, the Hawaiian Archipelago is the most geographically isolated group of islands on Earth.

広島を想うとき、世界が戦争になるとなにか起こるかを考え、平和に想いが至ります。

ハワイを想うとき、楽園のもたらす魅力ゆえに、休暇を過ごす場所について考えます。ハワイに暮らすと、気候、人々、文化、島々の多様性、言葉、そして食べ物が、多くの喜びと幸せをもたらしてくれ、人はとても大きな幸せを感じます。

ハワイ諸島は、一番近い大陸からでも2千マイル

以上離れたところにあり、地球上の島々のなかで地理的に最も孤立しています。

Why did our great ancestors leave their homeland Hiroshima to come to this place called Hawaii? As we reflect on why they came here to this remote area in the late 1800's, it must have been because of a need rather than a want. A lot of immigrants then thought that Hawaii would bring them fortunes and they would return to their homeland very prosperous. Stories told of this journey are many and a lot of immigrants never made it back to Hiroshima, instead making Hawaii their permanent home. A lot of immigrants brought with them only the knowledge that the Meiji government with its transition will have caused only hardship in Japan and with this immigration, there seemed to be some hope for a better future elsewhere.

私たちの偉大なる祖先は、なぜ、彼らの故郷広島を離れハワイと呼ばれる場所に来たのでしょうか？19世紀の後半に彼らが遠く離れたこの地に移ってきた理由を考えると、それは来たいという気持ちよりも、来る必要に迫られたのに違いないと思うのです。多くの移民たちは、移住の当時、ハワイが彼らに富をもたらし、とても豊かになって祖国に戻れると考えていました。実際は、多くの移民たちは広島に戻ることはなく、ハワイに永住することになりました。多くの移民たちは、明治政府への移行が日本において困難をもたらすであろうことと、どこかほかの場所に移ることがより良い未来につながる望みがありそうだという知識とともに来たのです。

Japanese immigrants came from Hiroshima, Kumamoto, Fukuoka, Yamaguchi prefectures. Also from Okinawa. These groups of immigrants were also mindful of where they originated from and formed organizations to continue the relationship with their homelands. Today, in Hawaii and also overseas in the USA and Brazil, the organizations are still active.

日本人移民たちは、広島、熊本、福岡、山口の各県から来ました。また、沖縄からも来ました。これらの移民たちのグループは、それぞれの出身地のこ

とを忘れず、それぞれの故郷との絆を維持するための組織を作りました。今日、ハワイにおいて、また米国本土やブラジルにおいて、そうした組織はなお活発な活動をしています。

Our Kona Hiroshima Ken Jin Kai is very active in our community and it is because of our founder, Isso Kato who singlehandedly formed our club from a total of 100 Hiroshima families in 1967 when he discovered the Japanese government were sending officials from their respective prefectures to Hawaii as an international gesture of goodwill.

私たち、コナ広島県人会は、私たちの地元で活発に活動しています。そして、それは、1967年に日本政府が国際親善の姿勢を表すために各県の県庁幹部をハワイに派遣した際、私たちの県人会の創始者カトウ・イソオ（加藤磯尾*）氏が独力で100世帯の広島出身者の家族を集めて県人会を創ったことによるものです。*ジョージ星田コレクション参照

He was born in Hiroshima and came to Hawaii as a blacksmith, owner of Kato's Dairy Farm, and also a coffee farmer. He was an issei, formed the Akitsu Gumi Association in 1909, and served as head for 34 years. He was also the head of school affairs of the Kealakekua Japanese Language School for 23 years and chairman of the construction committee to build a Japanese Hospital.

彼は広島に生まれ、鍛冶職人としてハワイに来て、カトウ酪農農場のオーナー兼コーヒー農家として暮らしました。彼は「一世」で、1909年には「安芸津組」という組織を作り、34年間にわたりその長を務めました。ケアラケクア日本語学校の教務会の長を23年間務め、日本人病院の建設委員会の委員長も務めました。

Isoo Kato was also interned from 1941 to 1945 in New Mexico, USA. During his active life, he had received in 1935, for the 50th Anniversary of Japanese Migration to Hawaii, a testimonial and wooden sake cup from the Japanese Government. In 1939, received a testimonial from the Foundation of Japanese Language Educational Association in Hawaii. In 1960, on

the 75th Anniversary of Governmental Contract Migration of Japanese to Hawaii, received a testimonial and memorial gift from Prince and Princess Takamatsunomiya. In 1968, on the 100 Anniversary of Japanese Migration to Hawaii, he received a testimonial and memorial gift from Prince and Princess Hitachinomiya. In 1972, he received “The Order of the Sacred Treasure, Silver Rays” award for making a great contribution to educational and cultural as well as economic development of the region; to establishing a good relationship between Japan and Hawaii. He was also bestowed “The Rising Sun 6th Order” award by Emperor Hirohito in 1972.

カトウ・イソオ氏は、1941年から1945年の間は、ニュー・メキシコに抑留されました。その活動的な人生において、彼は、1935年、日本からハワイへの移住50周年に際し、日本政府から感謝状と木製の酒杯が贈られました。1939年には、彼はハワイの日本語教育協会から感謝状を贈られました。1960年には、彼は、日本からハワイへの官約移民の75周年の際に、高松宮親王夫妻から感謝状と記念品を贈られました。1968年には、日本からハワイへの移民100周年の際に、常陸宮親王夫妻から感謝状と記念品を贈られました。1972年には、瑞宝単光章を贈られました。これは、彼が地域の教育・文化・経済の発展に大きな貢献をしたことと、日本とハワイの良好な関係を作り上げたことを賞するものでした。また同じ1972年には、裕仁天皇から勲六等旭日章が授与されました。

This quiet man had accomplished a lot in his life and by 60 years old, he declined every request for numerous community affairs and decided to concentrate on his family, coffee farm, and bonsai. He passed away at age 89 in 1976.

この物静かな人物は、その人生において多くのことを成し遂げたうえ、60歳までにすべての数多くのコミュニティの役職に就くことの依頼を丁寧に辞退し、彼の家族、コーヒー農園と盆栽のみに関わるようになりました。彼は、1976年に89歳で亡くなりました。

Many of the immigrants did not get to go back to their homeland Hiroshima even though they

longed to be there. Those fortunate to have returned had kept in contact with those they left behind and today with communication made so much easier with internet, there are those that still remain in contact with families that the issei did not get to see again. In Hiroshima, some of the families still own the rice fields that our issei ancestors left behind so long ago. Visiting with relatives have made the Hiroshima-Hawaii connection even better for our young people today. There are so many things that Hiroshima offers and one who visits will have a higher level of understanding peace and the world itself.

多くの移民たちは、故郷の広島に戻ることを望みつつ、戻れませんでした。幸いにして広島に戻ることができた移民たちは、ハワイに残った人たちと連絡を保ちました。現在は、インターネットのおかげで通信がずっと容易になりましたが、今も、かつて一世が再会を果たせなかった家族たちとの連絡を取り続けている人たちがいます。広島には、私たちの先祖である一世たちがずっと昔に広島に残してきた田圃を、残った家の人たちが今も維持しているケースがみられます。血縁の人たちを訪ねることは、広島とハワイの関係を、現在を生きる若者たちのために、より良いものにしてきました。広島がもたらしてくれるものは数多くあり、また広島を訪れた人たちは平和や世界そのものについてより高いレベルで理解することができるようになります。

Belonging to an organization with ties to Japan has given us in Hawaii a lot of opportunities to broaden our horizon. The Hiroshima Prefectural government over the years had kept in touch with Hawaii and has hosted a lot of programs like the student exchange, the health study, and meeting of officials. Within the organization, we have hosted the Chamber of Commerce from various cities and offered many cultural events over the years. Our organization now has approximately 163 members and recently reated a 50th Anniversary Cookbook honoring our founder Mr. Kato who was very influential to our organization.

日本とつながる組織に属することは、ハワイにい

る私たちの世界を広げてくれます。広島県庁には、ハワイとの関係を維持し続け、学生たちの交換留学や、健康増進の研究、公務員の交流などを進めています。県人会において、私たちは広島県内の多くの都市の商工会議所をお招きし、文化的なイベントを開催するといったことを何年も続けています。私たち県人会には、現在、約163名のメンバーがいます。最近、創始者であり我々の県人会にとっても大きな影響を与えたカトウ氏を記念しつつ、県人会創立50周年記念の料理本を作りました。

From our point of view, now the sansei (third generation) are forever grateful for our grandparents to have come to this remote place on earth. With the issei (first generation of Japanese descent), they planted the seeds which future generations would reap the harvest. The Nisei (second generation of Japanese descent-children of the issei) were caught between the struggles of two countries and two cultures. The sansei (third generation of Japanese descent) witnessed the passing of culture and language with the passing of grandparents and parents. They now honor the legacy of their ancestors and the memories of an era by passing on the bounty to preceding generations to their yonsei (fourth generation of Japanese descent) children, gosei (fifth generation of Japanese descent) grandchildren and to the future generations.

3世（移民第3世代）は、彼らの祖父母たちに、地球上で遠く離れたこの地に移り住んでくれたことにずっと感謝をしていると思います。1世（日本から移住した第1世代）こそが、種を植え、その子孫たちが収穫できるものを残してくれたのです。2世（第2世代であり、1世の子供の世代）は日米両国、両文化の争いに巻き込まれました。3世（第3世代）は、その祖父母たち、あるいは両親たちが亡くなっていくにつれて、文化や言葉が失われていくことを目の当たりにしています。彼らは、4世（第4世代）となる子供たち、5世（第5世代）となる孫たち、そしてさらにその先の世代に、先輩たちのおかげで残されたものを引き継いでいくことによって、彼らの祖父母・両親の世代が残してくれたものや時代の記憶への敬意を表しています。

Carol Zakahi, Historian for the Kona Hiroshima Ken Jin Kai
c/o P.O.Box 5657
Kailua-Kona, HI. 96745
Carol Zakahi コナ広島県人会歴史担当 私書箱5657 Kailua-Kona,
ハワイ 96745
Contact info:
Phone: 808-987-2625
Email: carolzakahi@aol.com
連絡先 電話808-987-2625

アマゾン 釣りの旅

ブラジル広島文化センター
村上佳和

9月5日から18日まで、息子からアマゾンでの釣りの旅に誘われ、息子の仲間達と総勢18名、サンパウロは肌寒いくらいでしたが、さすがにアマゾン、飛行機を降りたらムツとするくらいの暑さ。すぐ船に乗り、120トンの水上ホテル、エアコン、バス付きの2人部屋。それぞれ部屋割りをしてすぐ出発。

マナウス市の近くで釣りをするのかと思いきや、アマゾン河からマディウ河に入り、そのまた支流のカヌマン河を遡ってスクリンドまでの2日2晩の旅。行けども行けどもアマゾン河の流域、所々に町があり、ポツリポツリと民家や農場があり時々河イルカ、雄大な眺望、美しい夕日。船員の作ってくれるカクテルやカイピリンニャを飲みながら、ポーカー等のトランプ遊び。

岸辺の農場で羊を一頭買い、夜、甲板で焼き肉パーティー、肉用種なので独特の匂いもなくすこぶる美味しい。

3日目早朝、やっと目的地に到着、それぞれ船外機のボートで、釣り人二人と現地のパイロットで母船から離れて釣り場に向かう。支流の森の中の水路に入り、しばらく行くとポカリと湖が開け、ルアーを投げては引き、投げては引き、ツクナレ、タライラ、ピラニアがポツと喰いつき、引き寄せるのにけっこう力が要る。時々ワニに出会う。

次の日は、ピラルクーを釣りに、沼池を抜けて湖に入り時々大きなピラルクーが水面をバシッと叩く。小サバくらいの生餌を付けて数十分、私の鉤に引きがあり、引けども引けども、リールは空回り、とうとうバラしてしまった。ピラルクーはあまり大



村上ファミリー（前列左が村上佳和夫妻）

きすぎて、竿では釣りにくい。同僚が26キロのピラルクーを釣り（ピラルクーとしてはまだ幼魚、成魚となれば3メートル二百キロくらいになる淡水魚では世界最大）、夜、焼き魚パーティ。岸辺にライトを照らせば、あちこちにルビーのように赤くワニの目が光る。

次の日、近くの岸辺にポツと住むインジオとかコロンビアーノとかいう人を訪ねた。粗末なヤシの葉で屋根を葺いた家に妻と20歳くらいの息子と娘の4人家族、家の裏に少々の畑があり、野菜、マンジュッカ等を植えて、まったくの自給自足。薬草に詳しく、時々舟で遠くまで売りに行くという。

砂浜での焼き魚パーティに彼を招待した。話しているとヤマトダマシイとかサムライとかの言葉が出る。かつてコロンビア移民やペルー移民がアマゾンのゴム景気を求め、世にいうアマゾン下りの日系三世か四世と思われる。話しているうちに涙が出たようがなかった。

都会の生活か、アマゾンの奥地で自適して生活するのが幸せか考えさせられた。

帰りの途中、ノーベ・オリнда・ド・ノルテ市に上陸、一日過ごす。2万5千人ほどの町で、港では沢山のアサイヤシが収穫されていた。

旅の終わりは、マナウス市で2日間、市内観光、税制特区で世界企業が集まり、港には万トン級の貨物船が何隻も入っており活気ある人口200万人の都市です。

想いかなかった、アマゾンの釣りと船旅でした。

(むらかみ・よしかず ブラジル広島文化センター副会長、1941年因島市生まれ。1960年、19歳で単身ブラジルに移住。)

東京広島県人会と会長の思い出

倉重基己

本年、一般社団法人東京広島県人会が創立70周年の節目を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また、創立70周年の記念事業である1月24日の東京での「創立70周年記念新春懇親パーティー」と5月19日の広島での「創立70周年記念懇親会」はいずれも大盛況でありました。改めまして、同県人会の皆様のご郷・広島への思いの深さと共に、70年という歴史の重みを痛感させて頂きました。

さて、私が発行する『月刊経営者』と同県人会の皆様とのお付き合いですが、今から25年前の平成4年1月に開催された「在京広島県人会総会」取材させて頂いたことが始まりです。その1年前、弊誌連載企画「故郷・広島を想う」で三菱商事相談役でいらした田部文一郎さんをインタビュー取材させて頂きましたが、その直後に田部さんが同県人会第7代会長にご就任されました。それで、翌年から「同県人会総会」取材するようになりました。当時の総会は「1月10日夕刻、上野精養軒」が合い言葉で、当日は来賓として竹下虎之助広島県知事、檜山俊宏広島県議会議長、平岡敬広島市長、宮澤喜一内閣総理大臣、前年5年ぶりにリーグ優勝した広島カープの山本浩二監督らのご来席されました。今と違って、会場は狭かったものの、その分熱気がありました。以降、現在に至る25年間、私は毎年1月の「同県人会総会」と共に、5月と10月の「役員懇親会」取材させて頂きました。この間、同県人会では田部会長の後任として、平成6年から東映会長の岡田茂さんが第8代会長に、平成20年からは東京ドーム社長の林有厚さんが第9代会長に、そして4年前の平成25年からは、現在のアフラック（アメリカンファミリー生命保険）日本社創業者・最高顧問の大竹美喜さんが第10代会長にご就任されました。

ここからは前述した4名の県人会会長との思い出を、少し述べさせて頂きたいと思います。初めに、田部会長ですが、平成4年8月に、旧・広島一中の同級生で当時日本体育協会顧問でいらした藤田明副会長と特別企画『在京広島県人会正・副会長特別対談』を実施させて頂きました。対談では、一中の御先輩で「アムステルダム五輪」の三段跳びで日本人初の金メダルを獲得した織田幹雄さんのお話が始まり、話題が広島カープと大相撲の安芸乃島関になりますと、この年夏場まで4位と奮わないカープに対して「エースの川口君は去年は安心して見れたけど、今年を出ると打たれるからなあ」とため息味でしたが、安芸乃島の話になりますと「うん、いよいよ大関昇進が有力になったね」と実に嬉しそうに語っておられました。



田部文一郎会長、山本浩二監督、藤田明副会長（左から）

次に岡田会長ですが、ちょうど20年前の平成9年1月の「東京広島県人会創立50周年」を記念しまして、弊誌新年号において同県人会の正・副会長、幹事長（岡田会長、八木直彦日本製鋼所相談役、山口信夫旭化成会長、角田式美角栄ガス社長）による特別座談会を前年10月に開催させて頂きました。座談会では、皆さん旧知の友ということで岡田節が炸裂。

中でも、昭和40年頃の「広島県人会」の様相について、岡田会長が「当時の県人会は、まさに永野重雄さん（新日鉄会長）の独演会でね。永野さんが一声『はい、終わり！』と言うと、盛り上がっていた会合もさっと終わっていましたよ」と面白可笑しく語られまして、一同大爆笑になりました。



山口信夫副会長、岡田茂会長、
八木直彦副会長、数佐三郎常務理事（左から）

また、平成12年（2000年ミレニアム）の新年号におきまして、岡田会長と旧・広島一中、旧・広島高校の後輩で、当時近畿広島県人会会長でいらした井上義國ダイキン工業特別顧問との「東京・近畿両広島県人会会長の新春放談」を前年12月中旬に開催しました。一中・広高の先輩・後輩ということで、この時も岡田節が炸裂。一中の思い出話では、岡田会長が「何を隠そう、僕は5年生の時に副級長で『桜』の襟章を付けて下級生の風紀粛正のため、毎日精力的に活動していたよ」と言うと、井上会長も「岡田会長のような大柄で精悍な風貌の最上級生が立っていたら、さぞかし下級生はビビリ上がったでしょうね」と応えられまして、3人で大笑いしたことを覚えています。

このお二方には、2年後の平成14年8月29日に故郷・広島において、弊誌主催の『『元気を出そう広島』東京・近畿両広島県人会会長を囲んでの経済懇談会』にご出席賜りました。当日は、会場のリーガロイヤルホテル広島4階の「クリスタルルーム」に約280名の地元政財官界の方々にご参加頂き、御二方の基調講演と共に、懇親会で意見交換して頂きました。この時、岡田会長は講演の締めとして「広島

の皆さん、発想点を変えていきましょうや。そして、

たらももっとも賑やかな街になるはずだ。野村克也監督のように下ばかり向いてブツブツ言ってたんじゃあダメ。明るい顔してチャレンジしていこう」とまとめられました。実に爽快で味わい深いお話でありました。

その後も、岡田会長には、平成17年10月号の戦後60年特別企画として、旧・広島一中の後輩で当時近畿広島県人会会長の巻幡展男関西テレビ放送特別顧問と特別対談を1か月前の9月に開催させて頂きました。実は、この御二方は、かつて東映京都撮影所長、関テレ編成課長という40数年の深いお付き合いゆえ、対談はこれまで以上に爆笑のオンパレードでした。岡田会長が「そういえば、よく巻幡君のところへ『仕事をくれないか』と頭を下げに行ったよなあ」と言われると、すぐさま巻幡会長が「いえ、岡田会長が頭を下げられたことは一度もありませんでした」と反論。すると、観念されたのか「まあ、これは人間の性分っていうか、僕の場合は頼み事をしに行ったのに随分と威張っていたからなあ。ハハハ」と素っ気なく認められまして、一同大爆笑しました。

続いて、林会長ですが、平成15年12月に、旧・広島修道中の同級生で当時東京藝術大学学長でいらした平山郁夫先生との新春特別対談を開催しました。対談では、中学時代の寮生活や勤労動員でのお話、更には原爆投下直後の大変なご苦労話についてお話を頂きました。また、この時、林会長が経営される東京ドームと東京ドームホテル内にある平山先生作の2つの壁画について、その設置の秘話をお聞かせ頂きました。一つは、昭和63年3月に日本初の全天候型ドーム球場・東京ドームが完成した時に、ロビー中央入口の壁画に『日本の四季』と題したタテ3メートル、ヨコ55メートルの巨大な壁画でした。もう一つは、平成10年6月に東京ドームホテルが完成した時に、ロビー中央の柱壁面に『平和と繁栄』というタイトルの星屑の中に天女が舞う陶版壁画でした。2作品とも平山先生が親友の林会長が携わった2大事業をお祝いして創られた力作でした。御二方の「友情の絆」の深さを痛感しました。

3年後の平成18年4月に、同年5月に近畿広島

県人会の創立125周年を記念して、当時の平田浩同県人会会長との「東京・近畿両県人会会長特別対談」を実施させて頂きました。対談では、岡田会長の思い出話と共に、両県人会の相互交流や故郷・広島

の「スポーツ王国」復活への思いをお聞かせ頂きました。

そして大竹会長ですが、最初の対談は平成8年6月に昔から気心の知れた間柄の八谷泰史^{やすお}市長との特別対談を実施しました。この時は、私が質問する前に御二方がどんどんお話されるものですから、司会役の私は聞き役に徹することができました。

2度目は、平成14年新年号の特別企画としまして、秋葉忠利広島市長との新春特別対談を前年11月に実施しました。御二方は、大竹会長が外資系生保会社日本社の創業者であり、秋葉市長がニューヨーク州立大学講師やタフツ大学准教授を歴任された国際学者でして、まさに国際感覚に溢れたトップ同士の対談でした。対談では、2か月前に発生した「ニューヨーク同時多発テロ事件」の話になりますと、秋葉市長が「ニューヨークには知人・友人がたくさんいるので、彼らの安否確認で精一杯だった」と語ると、大竹会長も「事件当日、私はボストンの病院で手術を受けていて、術後に初めて事件のことを知って『冗談だろう』と思った」と語られました。改めて、「同テロ事件」のインパクトの大きさを痛感いたしました。



櫻井親広島商工会議所副会頭、秋葉忠利市長、
倉田桂二郎広島商工会議所専務理事、大竹美喜会長（左から）

3度目は、今から4年前の平成25年5月に開催される「近畿広島県人会創立130周年記念総会」に

合わせて、同年3月に大竹会長に大阪へお越し頂き、当時の豊松正文同県人会会長との「東京・近畿両県人会会長特別対談」を開催しました。対談では、御二方の広島時代の思い出話と大竹会長のアフラック日本社創業時のご苦労話と共に、今後の県人会の課題について、例えば年会費未納会員を整理するとか、全国の広島県人会の幹事の交流会を創設したいといった建設的なご意見を頂くことが出来ました。因みに、これが反映して、同年10月には「全国広島県人会世話人情報交換会」が大阪で開催されました。以降、年に1度、東京を中心に全国9つの県人会の世話人が集まって、意見交換と共に親交を深めておられます。

そうして、迎えた一般社団法人東京広島県人会の創立70周年を前にしまして、私は4度、大竹会長ご出席の「同県人会創立70周年記念正・副会長、幹事長座談会」を企画しました。座談会では、まず昨年25年ぶりにリーグ優勝した広島カーブの話で盛り上がりました。それぞれのカーブ愛のお話だけでなく、かつて弱かった頃のカーブの思い出話にも花が咲きました。次に、大竹会長から同県人会の沿革についてご説明頂いた後、それぞれの同県人会との馴れ初めをお聞かせ頂きました。その後、故郷・広島への提言として、瀬戸内観光振興として「せとうちDMO」の支援や「ひろしま さとやま未来博」の成功と中山間地域の活性化の期待、更には平成31年4月に大崎上島に開校予定の中・高一貫校「グローバル・リーダー育成校（GL校）」への期待や「医療クラスター」による先進医療センターの建設など、様々な角度から屈託のないご意見をお聞かせ頂きました。

最後になりますが、私自身こうして随分とご無理を申し上げながらも東京広島県人会の取材を4半世紀にわたって続けさせて頂いて参りました。改めて、歴代の県人会会長、幹事長、事務局の皆様には本当に感謝を申し上げますと共に、同県人会が今後益々ご繁栄されますことを切にお祈り申し上げたいと存じます。

（くらしげ・もとも「月刊経営者」発行人）

*写真提供：月刊経営者

広島宰相論

加藤友三郎

戦争と平和で日本を二度救った
広島出身初の総理大臣加藤友三郎
—その功績から、現在の日本の平和を考えよう—

田辺良平

1、加藤友三郎の生い立ち

加藤友三郎は1861（文久元）年2月22日広島藩十三石の武士であった加藤七郎兵衛の三男として生まれました。父は下級武士ではありませんが、藩校の助教授をつとめるほどの学識を有しており、この藩校が現在の修道学園へと発展しているのです。友三郎は幼年期にこの藩校で学んでいましたが、1872（明治5）年12歳のとき兄種之助に同行して上京、翌年海軍兵学校に入学、以後海軍一筋に生きていくのです。

兵学校入学時にはさほど目立った成績ではなかったのですが、卒業時には2番の成績でした。この間、兵学校の訓練の一環として度々海外への遠洋航海に出て外国事情を見聞したことで、その後の視野の拡大につながったようです。明治27、8年の「日清戦争」時には、巡洋艦「吉野」の砲術長として乗り組み、黄海海戦に参加して大きな戦功を挙げ、海軍内に加藤友三郎ありと広く知られるようになります。

2、日露戦争でわが国を勝利に導き、植民地化を防いだといえよう

明治30年代、ロシアは国策で旧満州（現中国東北部）に進出し、さらに朝鮮にも進出の気配を示したことから、日本はロシアの脅威に対処するために日英同盟を結ぶなど、外交政策でロシアの朝鮮への進

出を阻止する手段を講じましたが旨くことが運ばず、結局ロシアと戦うこととなったのですが、これが1904（明治37）年に起こった「日露戦争」です。

世界各国からは最強国といわれていたロシアを相手の戦で、日本の勝ち目は難しいとみられていました。それだけでなく軍備拡張で財政が苦しくなっていた時ですから、これ以上の戦費増加の余地はなかったのですが、英国などからの借款、米国への休戦仲介斡旋交渉など、事前準備に万全を期して戦争に踏み切ったのです。

強国ロシアを相手の戦いで開戦当初、日本は苦戦を強いられたのですが、陸軍の大きな犠牲を払っての活躍で1905（明治38）年1月には、ロシアの戦端基地である旅順の二百三高地を占領、同年5月の「日本海海戦」では、ロシアのバルチック艦隊をせん滅させることができて、日本の勝利で日露戦争は講和が結ばれました。この日本海海戦で連合艦隊の参謀長として、司令長官東郷平八郎に次ぐナンバー2の立場で実戦の指揮をとったのが加藤友三郎でした。この勝利により、わが国はロシアの脅威から免れ、植民地化を防ぐことができたともいえるもので、戦によって日本は救われたといえるわけです。

3、ワシントン軍縮会議の首席全権として出席

日清戦争、日露戦争に勝利して以降、わが国は国防強化の観点から軍備の増強をすすめてきましたが、この結果、軍事費は1921（大正10）年度には国家総予算の50%近くを占めるという異常事態となったのです。この軍備拡張はわが国のみならず、アメリカ・イギリスなど諸外国にも波及して、各国とも軍備増強による財政負担に耐えかねていました。このような状況を打開するためにアメリカの提案で主要海軍国9か国によって、1921（大正10）年11月から翌年2月までの間にわたって開催されたのが「ワシントン海軍軍縮会議」でした。

この会議の首席全権として、海軍大臣であった加藤友三郎が参加することになったのです。海軍大将であり海軍大臣が全権として参加することに議会で

は反対論もありましたが、この会議を成功させるのは加藤をおいてほかに人材はいないと、時の総理大臣原敬の判断と強い後押しで全権に決まり、アメリカに乗り込んだ加藤でしたが、ワシントンに着くと同時に、首相が東京駅頭で暗殺されたという報に接したのです。茫然とした加藤は、原首相のためにも会議を成功させなければならないという使命感を強くしたのです。

会議の冒頭でアメリカから、日本の海軍力を米英の10に対して6割とするように提案されました。この割合を巡って海軍内部では猛烈な反発の声が上がったのですが、もしこの提案を否決したら、わが国は、各国から好戦的な帝国主義国家とみなされるのではないかと、懸念して、加藤は軍部の反対を押し切って「わが国はアメリカの提案を主義において受託する」と会議の席で表明したのです。

この発言は各国に大きな共感を与え、わが国は軍国主義ではなく平和を求める国家であることを全世界に示すことができて、会議は成功裡に終了したのです。この時加藤は軍部に対して「国防は軍人の専有物ではない。国家の繁栄があってこそ可能なのだ」と言っています。その反面、海軍軍人の身であり、彼の今までの人生を支えてくれた海軍を縮小することは断腸の思いであり、人一倍骨身にこたえたようで、ワシントンに滞在中は終始腹痛に悩まされていたといわれています。それだけでなく平素から胃弱であった友三郎にとっては、ワシントンでの3カ月間は胃痛との戦いでもあったのですが、しかしそこは若い時から鍛えられた海軍精神で乗り切ったのです。

4、加藤友三郎内閣の手で軍縮が実行されて財政危機が救われた

1922（大正11）年6月、政友会の高橋是清内閣の後を受けて、海軍大将で海軍大臣をつとめていた加藤友三郎が、元老の推挙と政党政友会の強力な後押し、貴族院と衆議院両議員の大多数により、天皇の勅許を得て総理大臣に就任しました。政友会は全面的に友三郎を支える姿勢でしたが、憲政党は軍人内

明治以降、広島は過去三人の内閣総理大臣を輩出しました。広島県人では初の内閣総理大臣となった海軍軍人出身の加藤友三郎、そして戦後の高度経済成長政策を主導した池田勇人、さらに池田と同じ大蔵官僚出身で、池田と同じ政治的系譜に連なる宮澤喜一の三人です。三人を生んだ広島は政治風土、時代背景、そしてそれぞれが果たした政治的役割など、識者が描きます。

閣に反対しています。原敬内閣の成立で折角政党政治が確立されたのに、再び軍人内閣となることに異議をとらえたのでした。しかしワシントンでの「海軍軍縮条約」の精神を政策に生かせる適任者は友三郎以外には見当たらない、との多数の賛同を得て加藤友三郎内閣は成立したのです。加藤内閣に期待されたことは、軍備縮小による財政の立て直しでした。わが国の軍事費は総予算の50%近くにも及んでいて、破たんの危機に至っていたのです。

加藤内閣は、ワシントン軍縮会議での精神を忠実に実行に移し、軍艦の建造中止、軍事費の削減、財政に大きな負担をかけていたシベリアへの派遣軍隊の撤退、海軍のみならず陸軍の減員、財政の見直しのほか、行政改革による冗費の節約に努め、綱紀の肅正をはかり、削減した軍事費を文教や民生の充実に向けたのです。広島県民の長年の宿願であった広島高等学校が開校できたのも軍縮政策のおかげであったといえるのです。

ではなぜ加藤友三郎の手で軍縮を実現させることができたのかということですが、大正4（1915）年以降7年間海軍大臣として国政に関与して国家の様子を熟知していたこと、日露戦争という未曾有の大戦を実体験していたことで、戦略・戦術が豊富であったことから、連合艦隊司令長官東郷平八郎と並んで、軍部に対してカリスマ的存在であったこと、周辺への根回しに万全を期し、迅速な決断を行ったことが、強固な軍部の反対を押し切って軍縮を実現させることができた、といえるのではないかと思います。

このように加藤内閣は、ワシントン軍縮会議の精神を政策に生かし、軍縮を進めて財政の立て直しをはかり、わが国の財政破たんを救ったのです。日露戦争とワシントン軍縮会議という両面、つまり戦争と平和によってわが国を2度救ってくれた、といえるのです。

しかし惜しむらくは、総理就任1年2か月で病に倒れ1923（大正12）年8月24日、現職総理のまま死去したのです。享年63。加藤友三郎の死後、彼ほどのカリスマ的人材がいなかったことで、軍部が

暴走を始めて、ついには米英との戦争に突入となったのはご承知のとおりです。

5、銅像の建立が遅れた理由

加藤友三郎が亡くなって、彼の功績を讃えるために銅像が建立されたのは1935（昭和10）年11月のことです。なぜ没後12年間もできなかったのか大きな不思議と思われそうですが、まず一番の理由は、彼が亡くなって10日後に関東大震災が発生し、震災復興に集中されて銅像の建立どころではなかったということです。

二番目は、1930（昭和5）年に開催されたロンドンでの軍縮会議では、ワシントン会議のときの加藤友三郎ほどのカリスマ性のある全権がいなかったことで、この会議は必ずしも成功とはいえない状況で終結しているのです。これ以降、軍部がはびこるようになり、加藤友三郎につながる米英との協調による軍縮派が予備役に編入されて、軍備増強をはかる軍拡派が強い勢力をもつようになり、軍縮をすすめた加藤の銅像建立などは問題にもされなかったのです。

しかし、1932（昭和7）年の五・一五事件をきっかけに軍部の横暴が目に見えようになり、加藤友三郎の軍縮精神を見直そうとの意図から、広島財界



広島市中区の中央公園に立つ加藤友三郎像

人が中心となって銅像の建立がすすめられたのです。全国の70万人もの方から、当初の計画では3万5千円の募金目標に対して5万3千円も集まって、昭和10年11月に比治山に建立されました。この銅像も、太平洋戦争時の金属回収令で昭和18年10月には撤去されて、わずか8年間の寿命に終わったのです。跡には石の台座のみが残されているという状態でした。

2008（平成20）年8月、友三郎の没後85年を期して、広島市中区の中央公園の一角に、軍縮会議出席時の服装で銅像が復元されました。これを切っ掛けに、加藤友三郎顕彰会を立ち上げて、彼の国際協調による平和実現の功績を広める活動が行われるようになりました。この活動によって加藤友三郎の功績が理解されるようになり、海軍大将の身でありながら軍縮を断行したその決断力と勇気、国の将来を見据えた英知が見直されてきております。

平和都市を唱える広島にあっては、郷土出身で最も平和のために具体的に実行した人物として、その思想と行動力は広島人としては大いに誇りとしていいのではないかと思います。

（たなべ・りょうへい「加藤友三郎顕彰会」副理事長）



池田勇人は、1899（明治32）年12月3日、広島県竹原市に生まれました。

熊本の第五高等学校（五高）、京都帝国大学法学部をへて、1925（大正14）年、大蔵省に入省しま

す。その性格は大蔵省時代から、大ざっぱであり、大酒飲みであったことが知られています。

池田は、敗戦後、1947（昭和22）年2月に、第一次吉田茂内閣のもとで、大蔵事務次官に就任します。その後、昭和23年に48歳で退官し、昭和24年1月に行われた第24回衆議院議員選挙に初出馬して政界入りを果たしました。

その年2月、第三次吉田内閣が発足すると、池田は、なんと当選一回生にして、いきなり大蔵大臣に抜擢されます。

大蔵大臣に就任した池田は、戦後のインフレの鎮静をめざしたドッジ・ラインによる昭和24年度の超均衡予算を手がけます。シャウブ勧告に基づく税制改革など、占領下の経済政策を次々に実行していきます、その実力を発揮していきます。

しかし、ドッジ・ラインのもたらした不景気のなかで、昭和25年3月、池田は、「中小企業の一部倒産もやむをえない」と発言してしまいます。この発言は、国会で問題化し、野党から不信任案を出されますが、否決されます。ですが、池田は、それにも懲りませんでした。その年12月には、さらに「貧乏人は麦を食え」と放言します。

池田の舌禍癖はおさまりません。さらに、通産大臣だった昭和27年11月27日には、国会答弁中にまた失言してしまいます。

「中小企業の倒産、自殺も、やむをえない」何事も本音でいわないと気がすまない性格のなせることでした。このときには、ついに、衆議院本会議で、戦後初の閣僚不信任案可決を受けて、辞任せざるをえなくなります。

しかし、吉田茂総理は、そういうざつぱらんな性格の池田を寵愛し、対米折衝に何度も使います。

昭和32年、池田は、石橋湛山内閣でも大蔵大臣になります。つづく岸信介内閣では、国務大臣に就任。昭和34年の岸信介内閣改造でも、通産大臣に就任し、政界の階段を登りつめていきます。

池田は、東京新宿区信濃町の私邸で、毎朝決まって檜の風呂で身を清めます。

昭和35年春頃、朝風呂で身を清めたあと、廊下



式典で談笑する池田勇人と吉田茂元首相
(写真提供：衆議院議員寺田稔事務所)

を歩きながら腰を右手で何度か叩き、力強くいきました。

「おれがやらなきゃ」

池田は、昭和35年7月14日、狙いどおり総裁の座を勝ち取ります。

その夜、池田邸で側近で同じ大蔵省出身の大平正芳と宮澤喜一たちは、池田新内閣のキャッチフレーズをどうしようかと相談していました。

大平が言います。

「安保で荒れた世相を考えると、やはり大事なのは辛抱だな」

が、語呂が悪いから「忍耐」という高尚な言葉になります。

「寛容と忍耐」を掲げた池田低姿勢内閣は、こうして誕生したのです。前政権であった岸政権の安保改定をめぐる強引な手法からの反省でもあり、池田内閣は低姿勢を強調し、船出します。世間は、かつての失言にみる高姿勢な池田とのあまりのギャップにおどろいたと言います。

池田総理は、9月5日、「10年間に国民所得を2倍に引き上げる」という所得倍増計画を発表しました。

「政治とは国民生活を引き上げ、社会保障を充実することである。10年間に、一人当たりの国民所得を倍にするには、一年に7.2パーセントの経済成長が必要だ」という計算になるが、わたしは、所得倍

増を十年以内にやるといっているのだ。過去五年間を見ても、成長率は9パーセントを超えている。これから見て、今後9パーセントと見積もってなぜ悪いか。そうすることが本当だろう。過去の実績より、ちょっと低目に成長率を立てるのが忠実だと思う。過去の政府は、低い目、低い目に見ていたが、税の自然増収が一千億円も出るのは予算ではない。自信をもってやるのが政治家の任務だ」

安保で血まで流してけわしい対立を生んだ社会を、経済繁栄で安定に向かわせること。それが池田の意図でした。そして、それと同時に、これまで自分の積極策を否定してきた岸政治への痛烈な怒りが読みとれます。この池田の所得倍増計画によって、日本の政治は、「政治主義」から「経済主義」に重点が切り換えられ、高度経済成長への道を歩み出していくのです。

実際の経済は、予定より早く成長していきます。「所得倍増計画」で定めた軌道から大きくはずれ、10年を待たずして国民所得倍増が実現することになるのです。

昭和35年10月24日、池田は、衆議院を解散します。このとき、自民党は、テレビCMで売り込みました。

「わたしは、嘘は申しません」

「経済のことは、池田にお任せください」

このフレーズは、流行語になりました。

11月20日の投開票の結果、自民党の獲得議席は、昭和7年の政友会・犬養毅内閣の301議席に次ぐ296議席と憲政史上第2位の好調ぶりでした。

なお、広島をふるさととする池田は、常々口にしています。

「山より大きい猪（しし）は出ぬ」

これは、中国地方で古くからいわれていた言葉です。どのように大きな危機が襲いかかっても、その危機には限界がある。腹を据えれば、恐れることはないというニュアンスです。

池田は、この言葉を肝に銘じ、戦後の日本の経済復興のために、戦い抜いたのです。

(おおした・えいじ 作家)



宮澤喜一は、1919（大正8）年10月8日広島県福山市に生まれました。

東京帝国大学卒業後の1942（昭和17）年、郷里の大先輩である池田勇人の薦めで大蔵省に入省します。その後も、池田の引きによって、政界に進出し、経済企画庁長官、通産大臣、外務大臣、官房長官、大蔵大臣と要職を歴任していきます。安竹宮と称され、ライバル視された竹下登内閣では大蔵大臣兼副総理に就任します。

1991（平成3）年11月の自民党総裁選は、宮澤喜一、渡辺美智雄、三塚博の三人の派閥領袖たちで争われることとなります。

ですが焦点は、あくまでも最大派閥である竹下派の動向でした。このとき、竹下派の実力者である小沢一郎は、宮澤、三塚、渡辺の三候補者をそれぞれ事務所に呼びつけて、一人ひとりとの面談を実施しました。

小沢は、なによりも宮澤が確約した「政治改革は、廃案となった政治改革関連三法案をたたき台にして、一年後を目処に結論を出す」「PKO（国連平和維持活動）については、小沢調査会の意向を尊重する」のふたつの重大な言質に、心をくすぐられ、宮澤への支持を決めます。

小沢を寵愛していた竹下派の金丸信会長は、宣言しました。

「宮澤喜一君に、竹下派こぞって支持をいただきます」

宮澤総理は、戦後の保守政治家のなかで「護憲派の代表格」とみられていました。そのため、国際貢献については、総理就任前も、どちらかという経済面に力点を置いていました。

平成4年1月29日の施政方針演説に対する代表質問で、宮澤は、PKO協力法案について前向きな姿勢を見せざるをえませんでした。宮澤にとって、これは誤算でした。

「カンボジアでも国連が活動を開始するなど、国民の関心も高まっている。法案は、一日も早く成立をお願いしたい」

政府は法案成立を受けて、国連カンボジア暫定行政機構（UNTAC）によるPKOに参加するための第一次政府調査団を派遣しました。

宮澤総理は、7月の参院選で反対する社会党を押し切り勝利するや、満足そうにいいました。

「PKO協力法案は、国民に理解された」

が、その過程で派遣された文民警察官と国連ボランティアが殺害されてしまいます。

平成5年5月31日午後6時5分から、総理官邸の総理執務室で、テレビ朝日の「総理と語る」の収録が行われました。質問者は、田原総一郎です。宮澤は、田原とは親しく、気心が知れていました。まったく警戒心はなく、無防備でもありました。

田原が、宮澤に訊きました。

「政治改革は、今国会で……」

宮澤は、自信満々といった口調で言います。

「今国会で、どうしても政治改革を実現させなければならぬんです」

宮澤は思っていました。

〈なにかをしなくては、いけない。まず、会期を延長しよう。党内も、賛成派、反対派が激突して、どうしようもなくなっている。執行部も、どうしようもなくなっている。一度会期を延長して、一息入れるべきだろう〉

田原は、さらに突っ込みます。

「今度は、国民に嘘はつきませぬね」

嘘と言われたことに、宮澤はいささかムキになり、語気を強くします。

「わたしは、嘘をついたことはありません」

結果的に、この番組で宮澤が政治改革についてきっぱりと口にしたことが、宮澤政権の命を短くしてしまうこととなります。

宮澤自身は、実は熱病に冒されたような政治改革の流れについて違和感を覚えていました。

〈政治改革で、国から金をもらうことになるなんて、なんともだらしな話だ。これが自由民権の精神かね。そう苦々しくおもっていたが、反対でもしようなら、逆賊みたいにあつかわれる。マスメディアも、無責任にそう書く〉

宮澤の田原へのひと言が、自民政権を崩壊させてしまったのかもしれない。

6月17日午前、野党から宮澤内閣不信任案が提出されます。宮澤政権を支えた竹下派が分裂し、政治改革を強力に推進する小沢一郎が担いだ羽田派35人のうち、34人もが白票を投じます。

内閣不信任案は、予想を大幅に覆し、35票もの

大差で可決しました。政府は、これを受けて、衆議院の解散を決定します。

宮澤は、歯ざりしたい思いでした。

〈羽田さんと紙に書いてまで会期延長を約束したのに、結局は、小沢さんにひっくりかえされた。議運をはじめ全体が、動かなくなってしまった。それは、かえすがえすも誤算であった。羽田さんは、こういうことでは、これからも小沢さんに苦勞するぞ……〉

総選挙で自民党は敗北し、野に下ることになりました。

が、宮澤は、それで終わりませんでした。1998(平成10)年に小淵恵三内閣が発足すると、未曾有の経済危機に対処するため小淵総理は宮澤に大蔵大臣への就任を要請したのです。宮澤の蔵相就任は、戦前に活躍した高橋是清以来となる、異例の総理経験者の起用となります。「平成の高橋是清」の誕生です。

宮澤は、続く森内閣でも大蔵大臣に留任し、このときの省庁再編により、初代財務大臣となります。

宮澤自身は、政界引退後も、元総理、そして戦後政治の証言者、自民党護憲派の重鎮として、ご意見番となり、さまざまな形で活躍しました。

(おおした・えいじ 作家)



宮澤喜一 (写真提供：参議院議員宮沢洋一事務所)

わが愛しの広島県

広島弁で セリフを書く快感

池端俊策

私は呉市で生まれました。6歳の時父の転勤で京都府の舞鶴に引っ越し、小学3年生の途中までいて、再び呉へ帰りました。舞鶴滞在中私は京都弁に馴染めず、近所の子供たちとしゃべるのが億劫で、小学校へ上がるまでの一年間ぐらいは家の中で過ごすことが多かった記憶があります。その頃父に連れられてよく映画を観に行きました。父は私のために、ターザンとか、動物の出てくるアメリカ映画や、チャンバラのある日本の時代劇等を見せてくれましたが、父自身が観たい映画も時々混じっていました。小津安二郎作品の「東京物語」もそうでした。私は、その映画の良さが当然まだ理解できなかったのですが、主役のお夫婦が尾道の人で広島弁をしゃべるのが嬉しくて、東山千栄子演じる老婆が呉にいる私の祖母とダブリ、涙が出る程の郷愁を覚えました。

呉へ戻った私は高校までいて、大学で再び言葉の違う東京へ出てきました。私は父の影響も有り、映画やテレビの脚本を書く仕事に飛び込みましたが、登場人物のセリフを書いて人に読ませると「これ、東京言葉じゃないですよ」と首を傾げられることが多くありました。私の中にまだ広島弁の片鱗が残っていて、セリフの中に入り込んでいたのです。ある時シナリオ作家協会の忘年会で新藤兼人さんと同席し、深夜までお話を聴くことがあったのですが、笑ってしまうほど広島弁で滔滔と話されるのです。俺は広島県人だと誇っているようなしゃべり方なのです。しかし、これ程抜け切っていないと、やはりセリフを書かれる時“広島”が常に出てしまうのではないだろうかと思いました。言葉を武器とする商売ですから多少気になるころなのです。その後新藤さんと何度かお会いしましたが、そのことは聞きそび

れてしまいました。

近頃も、書いた脚本の中で一つ二つ広島弁風なニュアンスのあるセリフを書いて助手の人に指摘されたりします。亡くなった俳優の緒形拳さんがそれを面白がり「俺なんかはそういう郷里が無いからつまらねえよ」とおっしゃっていました。彼は江戸っ子なのです。「広島弁がバンバン出るドラマをやろうよ」と勧められ、呉の古い帽子屋を舞台にした「帽子」という話をNHKでやりました。とても気持ち良く書くことができました。なにしろ登場人物全員が広島弁なのです。緒形さんがロケで呉へ来られ、これがお前さんの故郷か、これが本物の広島弁か（正確には呉弁ですが）と嬉しそうに地元の人の会話に耳を傾けていた姿を思い出します。幸い「帽子」はでき上がりも良く、緒形さんの最後の主演作品ということもあって、たくさんの人に観ていただきお褒めの言葉もいただきました。自分の故郷を舞台に故郷の言葉で書いたものが評価されるというのはたいへん嬉しいものだと思えました。同時に、自分は東京で50年も暮らしているが、今でも広島弁の抜けきらない広島県人なのだと痛感もしました。そして、そのことが言葉を使って仕事をしている自分には大きな意味が有るのだということも感じた次第です。又いづれ、広島弁のドラマを書くつもりです。

（いけはた・しゅんさく 脚本家）

野球で日本を元気に

——カープの躍進と友に——

市野紀生

東京広島県人会が70周年をお迎えのこと、心からお祝い申し上げます。戦後の厳しい状況の中で県人会を立ち上げられ、今日まで70年、関係者の皆さまのご苦労に心から敬意を表する次第です。

愛しの広島県という表題を頂戴して改めて思うこ

とは、苦しかったことや悲しかったことが70年もたつと懐かしくまた愛しく思い出されます。私が小学校に入学したのが1947年、県人会創立の年です。私の住んでいた呉の状況は崩れかけた防空壕、1トン爆弾の投下で段々畑に空いた大きな穴、撃沈された戦艦青葉、空襲でやられ無残な状況の海軍工廠等々ひどいものでした。私は原爆が投下された8月6日は4歳半で呉にいましたがあの朝ピカ！という光と一呼吸おいてのドーンという音は鮮明に記憶しております。しかしあれが原爆だったと知ったのは小学校に入ってからでした。広島市・広島市民の悲惨な状況はその後多くの情報で知らされ戦争の怖さを改めて感じたものでした。

現在の広島市も呉市も立派に復興して、特別の記念碑（原爆記念碑・ドーム、資料館。大和ミュージアム等々）を除いて、戦後の面影はありません、しかし、今こうして平和で豊かな日本で暮らす私にとって、広島も呉も、子供心に刻み込まれた切なくも悲しい貴重な思い出であります。オバマ大統領の広島訪問の報道に接しても、コメントに窮する複雑な思いが有るのはなぜでしょう。

70年余の人生、いろいろな出来事がありました。上京して60年近く経ちますが、私の故郷はなんといっても広島県です。広島に関する新聞テレビの報道は真っ先に目を通しますし、広島カープの戦ぶりにも一喜一憂しております。また、毎年墓参のため必ず帰広いたしますが、先祖の墓前で手を合わせると忘れてはいけない両親への恩や、苦しかった昔の出来事を思い出させてくれます。そして、同郷の妻と「やっぱり、広島に帰るとほっとするのー」「わしらが幸せなんは先祖や先人のお蔭じゃけんのー」と話しております。

私は、会社の役を離れ、日本野球連盟の会長をしておりますが2020年の東京オリンピック・パラリンピックに野球・ソフトが正式種目に決まり、これを機会に少子化が進む状況にあっても野球・ソフトがこれまで以上に普及するよう願うこの頃です。

（いちの・のりお 公益財団法人日本野球連盟会長 東京ガス元会長）

東京広島県人会 シンボルマーク制作の前後

井山高秀

1996～7年にかけて、県人会を盛り上げようと会員の拡大が図られました。

毎月1度開かれていた幹事会（会議の名称は、忘れてしまったので定かではありません）では、椅子が足りないほど盛況で活気に溢れ、議論は毎回白熱していました。

そこでは、「県人会」と呼ばれていた呼称を、東京にある広島県人会ということで「東京広島県人会」と称するようになりました。

県人会の名称変更に伴い、新しい名簿作りから始まって、新規に会報を発刊するなど、視覚的に統一したイメージ作りが必要となり、シンボルマークの話が出てきました。その時、隣同士が肩をぶつけ合うような末席にいた私は、すぐに紅葉を中心とするイメージが湧き出て膨らみ、メモしたことを覚えています。翌日、図鑑を見ながら紅葉をスケッチし、東京都のシンボルマークであるイチョウの葉と組み合わせ、シンボルマークをデザインしました。

シンボルマークは、正立させると左に転がるように感じられるので、バランスを取るために右に2度傾け、イチョウの葉を紅葉の影のように扱いグラデーションで繋いで馴染ませ、紅葉を強調しています。



会員名簿は、B6判からA4判へと大型化し、Eメールアドレスなどの電子情報の掲載や増加する会員数への対応など、将来を見越したデザインレイアウトの準備を1997（平成9）年初夏から進めました。シンボルマークは、名簿の表紙や扉ページにレイアウトし、1998年からの総会・懇親会のお土産の一つとして、A4判サイズの東京広島県人会名簿を配布し始めました。

名簿や会報などを通じて、他地域の県人会との交流も盛んになりました。

2006（平成18）年には東京広島県人会の旗も制作し、2007年からの舞台に掲げられているのは、みなさんご承知のとおりです。

（いよま・たかひで デザインプロットスタジオ）

江戸時代の広島への思い

上田宗箇

東京広島県人会70周年おめでとうございます。

私ども上田流和風堂（上田家）と東京との御縁は江戸時代初期に始まります。始祖である上田宗箇の長男重秀が、当初芸州浅野家の証人（一種の人質）として永らく江戸城内の証人屋敷に住まわされていましたが、三代将軍家光の命により1632（寛永9）年、五千石の旗本として江戸幕府に仕え、以後明治維新まで10代236年にわたり仕えます。江戸上田家初代重秀が自らの菩提寺として重秀寺（現白金高輪）を建立、今日も上田流和風堂東京稽古場として御縁をいただいています。

東京広島県人会との御縁は岡田茂会長時代、総会・新年会で広島県の伝統文化として上田宗箇流の茶席をとの依頼があり、以来、林有厚会長、大竹美喜現会長と永きにわたり新年茶会を催させていただいており、ありがたく思っております。



重秀寺（白金高輪）の書院庭園中央の本尊石は上田流和風堂（広島市西区）より移築された

2000（平成12）年、上田宗箇没250年を記念し「秀吉・織部と上田宗箇展」が開催されました。この展覧会は広島県立美術館が企画し全国展開した初めての展覧会で、広島県立美術館・大丸大阪心齋橋店・日本橋三越本店に於いて日本経済新聞社・NHK等の主催で催され、12万人を超える入場者があり話題になりました。

日本橋三越本店の東京展を機会に、岡田茂東京広島県人会会長の音頭で上田宗箇流のお茶を楽しむ東京遠鐘クラブが発足、当初より熊平製作所会長熊平雅人氏に代表世話人を引き受けていただきました。年一、二度主催する茶会に熊平代表・岡田茂会長・林有厚会長・現大竹美喜会長と永きにわたり御出席いただきたいへん心強く、今日では百人を超える会員となりました。

1619（元和5）年、福島正則改易後、浅野長晟^{ながあきら}が安芸一国備後八郡42万6500石、水野勝成が備後10万石を知行し今日の広島県に入国致しました。

2年後が入国400年となります。

安芸の国、とりわけ広島市は昭和20年8月6日の原爆投下により旧市街地は一瞬にして破壊されました。その後数十年は、都市の復興に邁進するしかありませんでした。その結果文化的なことが後回しにならざるを得ないこととなり、広島は昭和20年以前の歴史を語る事が少ない時代が続きました。私の実感では20年くらい前から歴史や伝統文化の大切さが話されるようになったと思います。

2年後の入国400年の節目をむかえる2019年は広島県の歴史や文化を見直し次代に繋ぐ大切な機会と思っています。広島県や広島市、福山市や県内各市と我々広島県下に在住する人、あるいは広島県ゆかりの方々を力と力を合せて意義のある年にしたいと思います。

何卒東京広島県人会のお力をお貸しいただきたくよろしくよろしくお願い致します。

（うえだ・そうけい 茶道上田宗箇流家元）

時代とともに歩む 「東京広島県人会」

上田みどり

「東京広島県人会創立70周年」おめでとうございます。

広島県にゆかりのある人たちが東京で活躍され、このように全国一の規模を誇る会になりましたこと心よりお慶び申し上げます。

私が初めてこの県人会に入会したのは、2003（平成15）年、公選知事として第6代藤田雄山県知事の頃でした。県人会会長は求心力抜群の東映の故岡田茂社長、事務局長は岡田会長の朋友、新見さんでした。この頃の世話役は廣大付属中・高卒業の方々が多かったように記憶しています。開催場所は「赤坂プリンス」でした。出席者の多いのに驚き、身動きも儘ならないほどだったことを今でも記憶しています。広島県産を扱う売店は新宿にありました。

初入会の手続き下さったのが、付属に御縁のある矢吹千恵子さんでした。会終了後には、矢吹さんの御舘員の六本木のお店で、プロ並みのりっぱな歌声を聴かせていただきました。今は故人となられた「賀茂鶴」の石井泰行さんは、なじみのお店にご一緒し、政経界の方々についてお話しくれました。それぞれ親しい仲間が二次会と称して、銀座の小さ

なお店で再度お酒をくみかわし、互いの交友を温めあい、情報交換しました。会の世話役で、酒豪だった松島さんは、故郷を同じくする若者をサポートしてこられ、皆さんから愛されていました。「東京広島県人会」は情報共有の場として大切な役目を果たしていました。

遠い昔、「東京」は筆者の世代には、'60年代'遠い憧れの都市でした。高校卒業後、東京に進学したいと思いましたが、親は「嫁入り前の女子が一人暮らしなんてとんでもない」と一蹴しました。今では当然のように、東京は、多くの若者が故郷「広島」を飛び出し、自分を試し競う場を提供しています。

2016年の5月末には現職米大統領の広島訪問、秋には「カープ」のセ・リーグ優勝で、広島は湧きました。広島は被爆により、文化すべてを根こそぎ破壊されたかのように思われがちです。しかし広島人の心には、互いに愛しみ合う精神文化があります。先人のこうしたスピリットを礎に、これからも「東京広島県人会」が、心ある若者の背中を押して行ける場となるよう願っています。

（うえだ・みどり 広島経済大学名誉教授）

「我がいとしの広島県」

大林宣彦

原爆投下から数年間、わが広島に「良く利く頭痛薬・ピカドン」なる妙薬があったげな。いやいやかの「広島カープ」なる職業野球団がこの広島に生まれて、東京から名球団「読売ジャイアンツ」が来広するとなると、「巨人の原爆打線来る！」と敵の威力を称えたそう。当時の人気家電新製品の電気釜も、なにやら「原爆ナントカ」と喧伝されたとか。

つまり原爆の脅威や被爆の実態なんて、国家も学校の先生もちゃんと教えてはくれなかったから、人

びとはその威力にばかり憧れずらして、かかる事態と相成ったものらしい。

核被爆を最初に映画で語ったのは、わが広島生まれの新藤兼人監督による「原爆の子」。日本独立後の1952（昭和27）年、即ちGHQ・連合軍総司令部の占領政策による映画支配が終わってから、この国で原子爆弾による被爆の実態が、ようやく表現できるようになったのである。

この映画の製作時に、新藤監督は原爆の悲惨さを表現するのに、全裸の処女があゝの悪魔の如き閃光と爆風に晒される様を、ぜひとも実現させたいと願われた。すると広島市内のある女子高の校長先生が、校長命令で全校の生徒に全裸で出演させると仰った、というニュースが新聞で流れた。当時同じ高校生で県下の尾道市で暮らしていた僕は、この知らせにたいそう感動を受け、映画芸術の力と美しさを信じ得たことは忘れられない。

だがこの映画がカンヌ国際映画祭に出品されるや、日本の外務省から「受け付け拒否」の依頼が届いた、という話は良く知られる。カンヌが勝手に受け付けてくれたから、この映画のメッセージは世界に発信していったが、「日本は本当に独立したんだろうか?」、とあの時まだ子供だった僕が持った疑問は、いまなお解けぬままである。



オバマ大統領の広島訪問は、世界平和への第一歩である。その前年の8月15日、僕はパールハーバーで、同じく世界平和を願う長岡花火打ち上げに立ち合っていた。真珠湾奇襲攻撃のリーダー山本五十六の里・長岡市が、山本氏の不戦の願いを具現化しようと夢見続けた企画の実現である。僕はこの長岡魂を映画（「この空の花——長岡花火物語」）にし、それで参加したのだが、長岡市は2012（平成24）年、念願だったホノルル市と姉妹都市を締結した。

ところが、わが広島市も、既に1969（昭和44）年にホノルル市と初の姉妹都市を締結している。パールハーバーの「アリゾナ記念館」は、入口が長岡で出口が広島だ。

映画によって戦争から平和への道筋を考える表現者の一人あるこの僕にとって、世界を一つに結ぶ広島の人であることが、今やなによりの自慢である。

（おおばやし・のぶひこ 古里映画作家）



闘い、新たなライバルの出現など、辛いことも沢山経験しました。でもこうして多くの方に喜んでいただいている姿をみると、本当に嬉しく、諦めずに頑張ってきた良かった、と改めて実感しています。

小学生の頃は、家族の影響で、夏は水泳、冬はスキー、またバレーボールも行っていました。いつも兄姉の後ろをついて回り、特に姉をライバル視し一方的に競っていました。この水泳一筋ではなく他競技も行っていたことが、結果的に水泳に対して楽しく伸び伸びと取り組むことができたのかもしれません。

夏のスポーツも冬のスポーツも両方楽しむことができ、県全体でスポーツの盛んな広島だったからこそスポーツの基礎が培われたのかもしれません。

私が小学校3年生から10年間通っていた三次スイミングクラブは、勝ち負けではなく努力の過程を大切に、技術指導だけではなく家族のように接し、人として成長できる場でありました。そのお陰で、タイムが思うように伸びず苦しい時期もありましたが、現在に至るまで、水泳を続けることができました。

水泳を通し、成功したこと、失敗したこと、心が

折れたこと、最高の喜びなど多くのことを経験し、多くの方に支えていただきました。

今後はこれまでのキャリアを生かし、子供たちに「夢を持つこと」「何事にも挑戦し、諦めずに努力し続けること」などの大切さを伝えていきたいと考えています。それと同時に、東京広島県人会の皆さまとともに、私が生まれ育った広島の魅力も広め、郷土広島県と密接なる連携を持ち、その発展に寄与することにより、広島がさらに元気になるように取り組んでいきたいです。

最後に、東京広島県人会のご発展とご活躍を祈念し、創立80周年、100周年、さらにその先も続きますよう、心より願っております。70周年本当におめでとうございます。

（かねとう・りえ 水泳選手）

音楽の町 広島

中村 英

まだ広島が一面の焼け野が原だった1946（昭和21）年2月、焼け残った旧制広島高校講堂（現在の広島大学附属高・中学校講堂＝広島市南区翠町）で、戦後初のクラシックコンサートが開かれました。曲はシューベルトの「未完成交響曲」。導入部の低い死の砂漠を思わせる旋律、それが細かく波立つ旋律に変わり、さらに長調が明るく世界に広がっていく——「それは一人一人立ち上がってきて何とかしようという、自分たちの気持ちに非常にぴったりと合うものでした」と当時8歳だった東京広島県人会の松尾康二副会長は言います。

数ある曲の中からなぜこの曲だったのでしょうか。曲を選んだのは元広島高等師範附属中学校の音楽教師だった竹内尚一氏とされています。竹内先生は広

島高師附属中学校を卒業して、東京音楽学校に進み、一時、東京のオーケストラなどで活躍されておりました。

「竹内先生は、このクラシックコンサートのためにこの曲を選び、自らタクトを振りました。生き残りの我々の心情をそのまま映すものとして、これが一番良いと思われたのではないのでしょうか」と松尾副会長は回想しています。

その年の大晦日、猿猴橋近くの音楽茶房「ムシカ」から、ベートーベンの「第九」の旋律が流れました。雑音の混じるSPレコードでしたが、店に入りきれないほどの聴衆が集まり、あふれた人たちは雪の降る中、外で窓ガラスに耳を押しつけ、必死に漏れてくる旋律に耳を傾けました。「ムシカ」はその後もレコードコンサートにとどまらず、野外コンサートを主宰するなど、広島市内全域に活動を広げ、復興における文化活動の重要な拠点となりました。広島の人間なら誰でも知っている「ムシカ」伝説の由来です。

広島は非戦の誓い、戦争の廃絶を世界に訴えてきましたが、原爆投下から72年が過ぎた今、被爆世代は年々少なくなっています。「広島が『平和』を発信しようとするれば、反対の極にある悲劇性を強調せざるを得ず、それには『暗さ』が付きまといま。世代交代の時期である終戦70周年を区切りに、『平和であることは楽しい』という明るい発信があっても良いのではないのでしょうか」

「この目的を達成するためには、国境がなく、言語、宗教、民族の壁を乗り越え、調和を生む力がある音楽が最もふさわしい。音楽の共有によって『うらみの連鎖』を昇華させることができます」と松尾副会長は訴えます。

湯崎英彦県知事も「広島から世界へのメッセージを発信し、平和貢献活動を持続的に支援する仕組みを構築すること」が必要で、世界共通の言語である音楽によるコンサートを開催したいと活動しておら

希望を胸に諦めずに 努力しつづけること

金藤理絵

このたびは東京広島県人会創立70周年、まことにおめでとうございます。また、1月に行われた東京広島県人会に招待していただきありがとうございます。ここ関東においても、東京広島県人会の皆さまを通して地元の暖かさを感じ、私自身も喜びを再認識できました。多くの方からいただいたリオデジャネイロオリンピック金メダル獲得への祝福のお言葉に胸が熱くなりました。

これまでの競泳経験をふり返ってみると、中学、高校、大学、社会人とその都度素晴らしい成果を残すことができ、本当に幸せだと思える水泳人生でした。しかし途中途中には上手くいかないことや、誰よりもきつい練習に耐えたり、椎間板ヘルニアとの

れ、これは一連の「ピース・アーチ・ひろしま」として定着しつつあります。

松尾康二副会長は、「音楽は平和を運ぶ」を立ち上げました。そして優秀な演奏家を招いてコンサートを開いたり、市民から合唱団、オーケストラを募ったり、音楽によって「人の心に平和のとりでを築く」活動を展開していて、広島の音楽活動は新しい転換期を迎えていると言えます。

(なかむら・えい NPO「音楽は平和を運ぶ」常務理事)

夢の実現に向け 広島県人の熱き想い

原 晋

東京広島県人会が創立70周年を迎えられますこと、心からお祝い申し上げます。例年、1月に行われる東京広島県人会の新春懇親会に招待していただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

私は広島県三原市に生まれ、小学校時代から外で遊ぶことが大好きでソフトボールやかけっこをやっていました。小学1年生の時に足を骨折したことで、本来じっと我慢していることができない幼少期に、松葉づえでの生活は強制的に身動きができない状況となりました。晴れてギブスがとれた私は本能的に身体を動かすことに目覚めたのかもしれませんが。本格的な陸上競技の出会いは中学1年生の時だったと記憶しています。校内マラソン大会では3年間負け知らずでした。高校は自らの意志で駅伝の名門世羅高校に進学を決意いたしました。3年生の時に主将となり、全国高校駅伝で準優勝を勝ち取りました。以降中京大学を卒業して中国電力一期生として入社し競技を続けてきました。

そんな陸上競技の経験を持つ私ですが、青山学院大学陸上競技部監督として2016年度大学史上初と

なる「大学駅伝3冠」と「箱根駅伝3連覇」を同時達成という実績をあげることができているのは、実は中国電力陸上競技部時代の競技実績ではなく、引退後10年間中国電力でサラリーマン生活の中で培ったさまざまなノウハウが大きいのです。通常、陸上界で頑張った方が監督になるのが一般的な流れだと思いますが、私は10年間普通のサラリーマンをしていました。世の中の厳しさから得たものは大きく、当たり前となる前提条件「世の中があつて陸上界があることを」肌身で知り、今、陸上界で新しい風を吹かせていることにつながっていると思います。何事も順風満帆ではなく、幾多の試練や反省すべきことがあつて、努力を重ねていくことの大切さを、身をもって感じています。

今日東京広島県人会があるのも、多くの諸先輩方が広島への熱い想いを胸に、仲間との絆を大切に、知恵を出し合い^{ゼロ}から創り上げられ、こうして70年を迎えられたことと察します。駅伝の^{たすき}リレー同様一年一年の歴史を「繋げること」がとても大切なことだと思えます。

「華々しい成功の陰には、挫折とそこから這い上がる泥臭い努力がある」

「正しい方法で努力を続ければ、誰にでもチャンス



があるかもしれない」

このようなことを思つて、これからもさまざまな夢の実現に向けて努力していこうではありませんか。

最後に、2020年東京五輪まであと3年となりました。ふるさと広島県からも世界を目指す選手が続々と出てくることを期待しております。これからも広島県がますます魅力的な県として注目されるとともに、東京広島県人会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

(はら・すすむ 青山学院大学陸上競技部監督)

わが愛しの広島県

日高憲三

東京広島県人会の創立70周年にあたり、貢献もない私が登場させていただき、たいへん僭越に存じます。

今年、広島カープが優勝し家族一同大喜びしていますが、30年近く前、カープ最強の時代に紀伊国屋書店の田辺茂一社長から優勝の祝賀会をやらうといわれ銀座に繰り出して万歳と一夜飲み明かしたことを鮮明に覚えています。

広島についての思い出は限りないものですが、私の運命を決めた一事があります。いなか育ちで広島県立忠海高校を卒業し、のんびりとした環境で大学の試験地獄などない60年前、東京の大学を受験することを決め、高校の大先輩であり日本の有力政治家となられていた池田勇人先輩の所に、父などが深いご縁をいただいていた関係で、信濃町の池田邸を訪問させていただきました。当時から明治大学は広島県とたいへん縁が深く、私も明治大学は受けることにして、上京し、池田邸の大学受験に詳しく進学についての相談などを受けておられたOさんという秘書に報告をしました。明治大学政経学部はコミュ

ニケーション力を重要視して、面接試験があつたのですが、後から解かつたことは、同じく広島県(尾道市)出身の当時たいへん著名な政治評論家であり政治学者であつた藤原弘達先生の面接を受けました。履歴書を見て、「君は広島か？」と言われ「はいそうです」と答えると「はいよろしい」と全部で10秒もかからない面接でありました。そのことを池田邸のO秘書にご報告すると、「そうか、良かったね、それは合格したんだよ、広島に帰って通知を待ちなさい」と言われて不安な気持ちもありましたが、広島に帰り、合格証書も送られてきて、明治大学に入学したわけです。明治大学に8年間役員として入り理事長となつたのですが、あの時の藤原教授の「広島か？」と尋ねられたこと、そして郷土の大先輩の秘書O氏から、「もう他は受けなくていいではないか」といわれて、私はただ一つ明治大学しか受けていない経緯です。明治大学に入学し、母校の理事長になつたことについて広島の縁の深さになんとも言えない深い感慨を持ち使命感をもって職を続けました。私は養子として大学卒業後岡田から下町両国の日高家に入った男で、本籍が移つたせいか、広島の県人会という組織には10年前くらいに、「あなたが広島県人会に入つてないのはおかしい」と言われ、「判りました、よろしく」と言つて手続きをしました。広島で生まれ育っていなければおきなかつた人生を送り今日に至っています。原爆のこと、広島の人々、出雲神楽、事業経営、大学経営、教育のグローバル化と語りたいたいは尽きません。愛してやまない広島のこの会で、大竹会長他の方々のご教示をいただいて貢献し、東京広島県人会の発展を祈りたい気持ちでいっぱいです。

(ひだか・けんそう 明治大学前理事長、日本リック株式会社ファウンダー最高顧問)

〈インタビュー〉 広島県と広島カープ

松田 元

① 25年ぶりのリーグ優勝おめでとうございます。広島に生まれたカープは、今や日本全国各地にファンがいます。33年間にわたって球団経営一筋でこられて、今のカープへの思いをお聞かせください。

ありがとうございます。25年ぶりの優勝は、ほっとしたというのが実感でしょうか。本当に苦しい戦いの中で、監督・コーチ・選手がよく頑張ってくれました。

先人たちが苦勞してつくってこられた球団ですから、広島に健全な姿で存続させることを一番に考えて取り組んできました。やっとファンや地域のみなさんに少し恩返しができたと感じています。

② 即戦力の投手、将来性豊かな野手というドラフト戦略を取り続けてこられ、若手がたくましく成長し、また大リーグや他球団で活躍し復歸してきたベテランが心技両面で支柱となり、今季は特に生え抜きの選手が大活躍しました。企業経営にも通じるように思いますが、球団運営上のご苦勞をお教えてください。

被爆からわずか5年後に、リーグに参加する球団を設立した先人の苦勞を思えば、自分の苦勞はわずかなものだと思います。

球団運営上でいえば、やはり広島市で110万人、周辺人口を合わせて150万人の都市規模の中で球団を維持することは、大都市に比べて決して楽ではありません。大都市並みの観客動員を図るためには、シーズン中に何度も繰り返し球場に来てもらえるようにすることが、なにより大切なことだと思います。

広島という街は地方都市であるが故に、東京など

で活躍する即戦力の選手を獲得することが難しかった時代もあり、球団としては原石ともいえる高校生らを発掘し、育成していかざるを得なかったわけです。この球団方針が、ドラフトにおいて1位は即戦力投手を狙う一方で、2位以下は荒削りでも将来性豊かな野手に重きを置く近年のスタイルにつながっています。丸のほか菊池、鈴木誠也ら、昨季活躍した野手もこの球団方針の中で見いだされてきた選手です。

一度は離れた黒田と新井の復歸については、カープという独特の地方都市の球団に、郷愁に似た想いをもち続けてくれていたのだと思います。そんな2人がチームに貢献してくれたことが、優勝の大きな原動力の一つだったと思っています。

③ 親会社を持たない唯一の市民球団として、41年連続で黒字経営を続けてこられました。今ふり返られて何がポイントだったのでしょうか。

1975（昭和50）年の初優勝後の何年かは、巨人戦を中心としてテレビ放映料が年々上昇することで収入を確保してきました。けれど、それ以降の15年間は放映料がダウンする中、それに代わる収入源をグッズやその他のものに求めてきました。時代時代に応じて財源をいろんな形で入手することができたから、ここまで黒字経営が成り立っているのではないかと思います。

④ 市民球場での「たる募金」やマツダスタジアム建設での地元企業・団体、市民から多くの資金が提供されたと同様です。また今年のカープの優勝の経済効果について、地元のシンクタンクがおよそ320億円とも試算しています。他球団とは比べものにならないほどカープは地元密着度が高いと言われています。こうした風土はどのように醸成され、またどういった点にご苦勞されたのでしょうか。

カープがリーグに参加して今年で67年目を迎えますが、その歩みはまさに地域のみなさんの情熱に

支えられながら育まれたものです。そうした過程の中で培われてきたものだと思います。

球団には、県内外問わず地域からの要望などについてお手伝いさせていただく「地域担当部」という部署を置いています。例えば、試合日に球場内で特産品の販売や観光PRをしていただける場所を設けたりしています。私はカープのことを市民球団と呼ばず、地域球団と呼んでいます。これからも地域とのつながりが広がってほしいと思っています。

⑤ 「カープ女子」という言葉が生まれ、彼女たちの活動が全国的なニュースにもなり、カープの躍進に花を添えました。大きく増えた女性ファンが新しいエネルギーを生み出した形です。どのようにお考えになり、どのような手を打たれたのでしょうか。

女性ファンを獲得するために特別なキャンペーンやPRをしたわけではありませんが、2013（平成25）年あたりから神宮球場など関東の球場が赤く染まり女性ファンが増えてきました。首都圏にはカープを通じたコミュニティーがありますが、選手を発掘し育成するなど、コツコツ地道にやってきた姿勢にも共感が得られたのではないかと思います。

その後、2014年に関東のファンを対象に抽選で選ばれた150人を広島へ招待した「カープ女子野球観戦ツアー」や、2015年に関東、東海、関西の1300人のファンを貸切った新幹線で広島へ招待するなど、県外のファンの方向けにマツダスタジアムの楽しさを知っていただけるイベントを開催しました。こうした中で新たなコミュニティーも生まれてきたと思います。

⑥ カープの今後の夢についてお聞かせください。

昨年は25年ぶりに優勝しましたが、今年はゼロからのスタートです。ひとつひとつ勝利を積み重ねて優勝。CSを勝ち抜き、日本シリーズを勝って日本一になる。まずはリーグ連覇です。

（まつだ・はじめ 広島東洋カープオーナー）

広島に生まれて ——平和への祈りを舞踏に込めて——

森下洋子

東京広島県人会が70周年の節目の年を迎えられますこと、心よりお祝い申し上げます。広島に生まれ、3歳でクラシックバレエに出会い、ただただこの素晴らしいクラシックバレエを続けたいと一筋に歩んでまいりました。広島の皆さまには、いつもあたたかく支えていただき、感謝の思いでいっぱいです。

私の祖母は爆心地近くで被爆し、大きなやけどを負っておりました。でも、一切愚痴を言わない、動かない手でも、親指一本使えば洗濯ができると明るく笑い、平気で銭湯にも行く、その潔さ、そして生きていること、命に感謝して生きる生き方にたい



へん大きな影響を受けました。思えば、祖母のたくましさ、明るさはまさに広島県人の多くの先人、先輩方と心を同じくする輝きだったと思います。

幼い頃焼け野原だった広島は、数多くの先人、先輩方の命がけの御努力で大きな復興を遂げました。12歳で東京に上京しましたが、戻るたびに発展していく街の様子にいつも励まされてまいりました。

今年、舞踊歴65年目となりますが、平和への祈りを込めて踊り続けることは、私の使命だと感じております。私の背中に白い羽は生えておりませんが、広島に生まれたものとして、平和と美の使者として、舞台からあたたかい愛をお届けし、心と心を結び合わせることができたら、と強く願っております。

ふるさと広島の偉大な先人、先輩方につらなり、美しい未来をひらいていくことができますよう、私も毎日一年生の気持ちで、一步一步稽古を重ねていきたく思っています。

平和を祈り、前向きに明るく生きる広島県人の心が引き継がれますこと、さまざまな分野で広島県人たちが活躍していけますこと、そしてますますの広島県人会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(もりした・ようこ 松山バレエ団団長、プリマ バレリーナ)

＊

以下は、一般公募で寄稿された5名の方の広島県への想いです。

わしゃ広島で生まれて
良かったわい。
サンキュー広島。

吉田 充

私は、1963（昭和38）年11月に広島市民病院で、父 裕と母 千恵子の間に長男として生まれました。小さい頃は、頭が大きく、広島弁で母親から“かぶ

んす”と言われて育ちました。かなり頭が大きかった様で、よく頭から転んでいました。

また、小さい頃は、相当なガキ大将で、近所の子を集めて、悪さばかりしていました。例えば、父親が勤める会社に駐車してある車のキーを片っ端から抜き、そのキーを全部まとめて土の中に埋めて隠すとか。当然、この時は、父親から厳しく叱られました。

その後、中学・高校に上がるにつれて、広島を出てもっと都会に住みたいと思うようになりました。そこで、大学入学と同時に京都に住みました。その後、就職や転勤などで、各地を転々としましたが、辛い時、苦しい時には、いつも広島での楽しい思い出を思い出していました。

やはり、多感な時期を過ごした広島が私自身のベースを築いていると感じたのは、今回の広島カーブのセリーグ優勝の瞬間をテレビで観た時でした。その瞬間は、体が震えたと同時に、私は確信しました。私の体には、広島県人としてのDNAが脈々と受け継がれていると。そういえば、広島の地酒を飲むと、胃袋にすーっと入っていく感じがたまりません。喉に変なひっかかりもなく、自然に心の底から美味しいと感じます。また、1ヶ月に1回必ず広島風お好み焼きを食べたくなります。

今は、東京に住んでいるので、1年に1回年末年始ぐらいにしか帰省できませんが、帰省の日が近づくるとソワソワします。やっぱり、無意識のうちに、いつも広島のことを思い続けている。たとえ可愛いわが子のように。親しみやすく、気を使わないけどいつも真面目な広島県人が大好きです。歴史的にも、平清盛や村上水軍、毛利元就、池田隼人や宮澤喜一など個性的な人物が多いのも特徴です。また、北海道の開拓民をはじめ、ブラジルやハワイの移民など広島県人が多いと聞きます。そのフロンティア・スピリットは、広島赤ヘルカーブに通じるものがあります。情熱のレッドは、広島にふさわしいカラーです。

私は広島で生まれたことを誇りに思います。ここで、原爆の後、焼け野原から立ち上がった先輩の

方々に感謝の意を述べたいと思います。彼らが頑張って復興していただけたお陰で、今の広島があると思うと、これからも広島を陰ながら応援しなければと思います。

わしゃ広島で生まれて良かったわい。サンキュー広島。

＊かぶんすは、仮分数が語源。分子が分母と同じか大きい分数のこと。つまり、分子が大きいので、人間の体型に例えると、分子にあたる頭が大きいという意味となる。

(よしだ・みつる 東京都文京区)

私の人生の原点は
広島原爆である

萩原俊雄

今年全国的に酷暑の夏であった。

71年前の8月6日、暑い広島市の上空で人類史上初の原爆が投下された。

当時の私は7歳で被爆、NHK職員であった父をはじめ、8人の肉親を失った。

母の日記によると、「昭和20年8月6日敵機B29来襲、なんら警報もないのに新兵器の空中爆発により被爆、初めは家の近くに落ちたと思っていたが、広島市全市がやられたらしい。主人は全身火傷して翌日会社で死亡、母も全身火傷で後日死亡、姉親子、妹も黒コゲになって死んでいた。主人のもとに行き、足の一つもなでてあげたいと思うけど重傷の母と子供3人がいるので、どうすることもできない。本当に主人にすまない。無念の涙がほとぼしる。私の泣くのを見て子供たちがシクシク泣いている。私は子供が休んだあと、一人で思い切り泣く」…と。

背中一面に焼けただれた祖母は次々にウジ虫がわき、母は毎日、弁当箱一杯になるほど箸でウジ虫を

取って看病していたが、その苦しみの中で「早く太田川に流してくれ」と叫びながら40日後に苦痛にもだえ苦しみながら亡くなった。

赤ん坊をしっかり両手で抱きしめていた女性の死体、軌道から遠くへ飛ばされ黒コゲになった死体の缶詰のような電車。

熱さと痛さに耐えかねて、川に飛び込んだ人々、やがて川は死体で埋まり、その死体をかき分けて、赤黒い水を飲んで生き延びた私たち。

あの時私は「水をくれ」「お母さん水をちょうだい」と泣き叫びながら死んだ人々の声を、今も忘れることができない。

時代は移り、世界の中でも”平和日本”は定着し、世界一の長寿国となったが、私は心底から喜ぶことはできない。

愚かな一部の人間によって、平和な社会、人間の幸福、健康も、一瞬にして破壊されたことを体験し、あの時の母の嘆きと悲しみを忘れられない者として、一日たりとも不安を思わぬ日はない。

今も世界には、1万5,000発以上の核兵器が存在するという。再びこれを使用しないという保障もないし、常に核兵器使用を脅しの道具に使っている国もある。

チャーチル曰く「あらゆる戦争は人々の心の中で始まる」…と。

どんな人にも素晴らしい“心”がある。そして“創造力”もある。たとえ戦争を知らなくても、被爆体験が無くても、その“心”で“想像”して、一人一人の心に“戦争を憎み”“平和を愛する思想”を打ち立てたいものである。

(はぎわら・としお 東京都練馬区)

遠く離れて気がつく 故郷広島の恵まれた風土

山中 昇

広島を離れてから、いつの間にか45年も経過しました。

2016（平成28）年からカープの活躍もあり、新聞、テレビ、雑誌、インターネット上で、広島の話に事欠きません。そんな中、広島の良いところを見直してみました。

世界遺産は厳島神社と原爆ドームの2か所、国立公園は瀬戸内海国立公園、国定公園は比婆道後帝釈と西中国山地の2か所。歴史、文化に彩られ、南側は温暖な瀬戸内海、北は冬はスキーもできる山に囲まれ、風光明媚で、山の幸、海の幸に恵まれています。

広島お好み焼きは祭りの屋台も含めて至る所で食することができるほどの人気です。オタフクソースを常備するスーパーも増えました。

「なか卯」の人気メニューは「牡蠣とじ丼」。使っている牡蠣が広島産であることにこだわっています。お酒も有名ブランドがいくつもあります。

工業で見ても、広島は、中四国の要として西日本経済をけん引し、造船所やクルマのメーカーもあります。このように、広島には何でもあるのです。中にいるとわかりませんが、外から見るとその素晴らしさが良くわかります。

でも何と言っても広島県人にとっては、広島カープの存在が大きいと思うのです。私は瀬戸内海の島で生まれ育ち、18歳まで住んでいました。祖父は水商売をしていたのですが、島で一番税金を払い、一番カープに寄付をするのが自慢でした。カープが勝つと、いつの間にか料理が半値になったりしていました。

寄付すると、長細い厚手の紙に印刷された「カー

プ年鑑」がもらえます。前年の成績や選手のデータが全部入っていて、丸暗記していました。今は、ホームページでいつでも見ることができるので暗記が不要になり、その分記憶力が落ちた感じです。

カープは親会社がなく貧乏球団で、負けてばかり。そんな弱いカープを県民が寄付で（市民の浄財で）育てたという自負があります。そんな球団はどこにもないし、そんな県民もいないと思うのです。「わしらのカープ」です。筋金入りなのです！

（やまなか・のぼる 千葉県船橋市）

わたくしと広島

水馬義弘

戦後71年、父没後71年、私71歳。戦後と父没後と私は同い年。私の父は、広島県庁勤務（広島県庁原爆被災誌によると、被災時経済部第一課農務課35歳）時、8月6日（月）原爆に被災し翌月1日亡くなった。

父は被爆後長兄宛（韓国木浦警察署勤務）に原爆の大惨事・敗戦国日本の将来を案じ手紙を綴り、運よく長兄が日本に持ち帰り現在私の手許にあり家宝として私に生きる勇気を与えてくれている。

長兄に対する手紙の要旨は、● 敵米奴は八月六日遂に広島市に人道許す可ざる原子爆弾を使用被害に強大 ● 八時過ぎ事務に取り掛かる瞬間鼻先にてマグネシウムをたいした様なショックを受け何等の記憶もなく夕方まで川につかりこの世の生き地獄 ● 六日夜広島に仮宿七～九日芸備線塩町田幸役場でお世話になる（父は県北で農業指導していた縁か）・九日実家市村（御調町）に帰宅 ● 今月末全快見込み、全快次第早く出勤して食糧増産のためいっそう努力する ● 十五日大和民族の永久に忘れ得ざる四国共同宣言受託の御諮書が発表された

● 科学発達の前にはいかようにもならない。感涙とどめなく流れる ● 幸い生命をつなぎ与えられた何か大きい使命のある事を感じている。等々八月十九日付けであった。

父の身体は全身満身創痍で、長兄を安心させるため、今月末全快の方向と記したのだろう。被爆後約1ヶ月後9月1日亡くなった。私は10日後9月11日この世に生を享け、今日平凡のなか幸せに生きている。

当時35歳の男が、日本国の将来を案じ自分の仕事を通して豊かな国創りに立ち向かおうとする姿勢に感動するとともに父を誇りに思え感慨無量である。歴史とはいたずらで母親達は実家に疎開、単身赴任の父は8月5日実家に帰省していたが夜広島に帰り翌日被爆した。もし父が体調でも崩していたら生存していたことになる。広島は被爆後数十年間草木も生えぬ廃墟の街と言われていたが、賢明な市民の方達の壮絶な復興努力で見事に“世界平和の街”として輝いている。

毎年同窓会（広島支部）のため広島を訪れ、美しい広島を誇りに思い素晴らしい“ふるさと”に感謝する。今年は広島カープの優勝と嬉しい一年だった。いつぞや父の下宿先（広瀬北町五佐藤様）を訪ねてみたいと思っている。

広島県と東京広島県人会のますますのご発展を祈念致します。

（みずま・よしひろ 東京都日野市）

甦る広島

高田雅宏

25年ぶりのカープの優勝で皆が喜びに溢れ、ともに盛り上がる広島市の街の映像を、TVやネットで観ながらふと思う。

—広島とは、なんと素晴らしい街なのか、と。

温暖な気候と美しい自然、風光明媚な近隣の宮島・尾道、カープ・サンフレッチェに始まるプロスポーツ、美味しい食べ物、多くの世界企業 等々。

しかしなによりも、そこに居る人の生命の輝きが、私を奮い立たせる。

以前住んでいた海外で、たまにこう聞かれることがあった。

—「あなたは日本人ですね、日本のどちらから来られたのですか？」

そして答える、「I'm from Hiroshima、私はヒロシマの出身です」と。

これまで、ヒロシマを知らないという外国人には一度も会ったことはない。負の遺産ではあるが、これだけ知名度を持った都市も世界にはそうないだろう。

その私の答えの後、だいたい皆ちょっと驚き、なんとなく「悪いこと聞いてしまった」というふうな顔をされていた。特にアメリカではそうだった。いつの間にか私は、その答えの後に続けてこう言うようになっていた。

「いいところですよ。決して原爆だけじゃありません。できればいつかあなたも訪れてくれれば、とても嬉しく思います」と。

原爆によって一度は完全に叩きのめされ、一面が死者と瓦礫と、そして生き残るために人々がお互いを蹴落とし合う、荒んだ心に溢れていたあの広島市の街が、数十年を経て、川の青さと草木のみどり、そして生活を取り戻し、温かい人の心に包まれる美しい街に甦ったことが、広島出身者として、本当に嬉しく、誇りに思える。

この街と同じように、あの地獄を経て生き残った人々とその子孫は、その存在を通し、人間の強さ、たくましさ、そして生きることへの希望を伝えていくことだろう。

どんな理由でもいい。世界中の人々が広島を訪れ、この街に想いを寄せて欲しい。

（たかだ・まさひろ 東京都八王子市）

文学と音楽と広島

文学作品に少なからぬ舞台を提供している広島ですが、ここでは田山花袋かたいの小説『蒲団』ゆかりの府中市上下町と、そして広島と意外な結びつきのある夏目漱石を取り上げました。音楽では、広島育ちのシンガーソングライター吉田拓郎と広島交響楽団を取り上げます。

小説家田山花袋と 『備後の山中』 田山花袋と天領上下 守本祐子

「私はある事があって、福山から府中上下を三度へ出て、そして出雲に行ったことがある。…なぜこの山の中が私の心を惹いたかという、その山の中に上下という町があって、そこに私の弟子になった若い女がいた…(略) 私もその女が好きだった」

このように始まる田山花袋の紀行文『備後の山中』には、1906(明治39)年の府中市上下町の様子が描かれています。

「女が幼い時を過ごした小学校があったりした。警察署が町の曲り角のようなところであって、そこから商家の軒が両側に続いた。(略) —銀行と書いた大きな看板が右に見えたかと思うと、その隣の自転車の置いてある大きな店に車夫は梶棒を降ろした」

このなかの「女」と書かれているのは、明治37年に田山花袋に入門した上下町出身の小説家、岡田美知代のことです。現在の津田塾大学に通いながら花袋のもとで小説家の修行をしていた美知代が、のちに夫となる永代静雄ながよしおとの恋愛問題で父により上下



往時をしのばせる上下の町並 写真提供：上下歴史文化資料館

町に連れ返されていた時期でした。

上下町は1700(元禄13)年に徳川幕府の直轄地となり、1717(享保2)年には島根県の石見銀山大森代官所でばりの出張陣屋になるという歴史を持った町で、その後ろ盾もあり中国地方の山間にありながら、「上下銀」と呼ばれた金融システムで財を成した30軒を超える金融業で栄えた町でもありました。

その金融業者の一人が美知代の父の岡田胖はんじゅうろう十郎で、明治期の上下町の政治や産業に貢献した名士でした。

花袋は、可愛がっていた美知代に再び逢いたいという気持ちを抑えきれず、旅行記の取材という名目で、東京から汽車と人力車を乗り継いで上下にたどり着きました。この時のことは、「日本一周」という花袋の紀行文集にまとめられ、博文館より1914(大正3)年から1916(大正5)年にかけて刊行さ



岡田美知代(18歳の頃、尾道の写真館で撮影したもの)
写真提供：田山花袋記念文学館



旧岡田邸(元上下歴史文化資料館) 写真提供：上下歴史文化資料館

れました。

そしてこの頃の美知代をモデルに書いた小説が、花袋の代表作ともいえる『蒲団』で、主人公の横山芳子が故郷へ戻る経緯を小説にしたものでした。『蒲団』発表後の美知代は、モデルといわれ誤解の多い人生を歩みました。

「かわいそうな女だ。こうした立派な財産家に生まれながら、芸術を慕ったがために、いろいろな悲哀やら苦痛やらを味わわなければならないかと思うと、私はいつそうかわいそうになった。哀憐の情はみなぎるように私に押し寄せてきた。『それではごきげんよう』『さようなら』と分かれた。」

上下に2泊した田山花袋は岡田家を後にし、吉舎きさ、三次を通して出雲へ向いました。数日後、花袋は三次市から美知代にはがきを送っています。

「山中の 夕日白壁やすらかに 君が居まさんことをのみこそ」

花袋の心に残った白壁の町並みは、今もその風情を残しながら多くの旅人を迎えています。

(もりもと・ゆうこ 上下歴史文化資料館館長)

夏目漱石と 広島の多彩なご縁 小笠原臣也

東京広島県人会が創立70周年を迎えられた2017(平成29)年は、明治の文豪夏目漱石の生誕150年に当る。前年の2016(平成28)年は漱石の没後100年である。

これを機に漱石終焉の地(東京都新宿区)に漱石山房記念館が平成29年9月にオープンする運びとなり、漱石ゆかりの各地で記念事業や資料の収集などが行われている。

広島でも、2015(平成27)年6月、広島における漱石の足跡、関わりのある人物などを中心として資料を収集、整理し、発表する趣旨で「漱石と広島」の会(山本一隆会長)が発足し、世話人や約150人の会員の協力により、これまで殆ど知られていなかった漱石と広島の関係が掘り起こされ、資料の調査、収集及びその成果の発表や展示などの活動を行って

いる。

漱石は、1896（明治29）年俳人高浜虚子と宮島を訪れ、岩惣に一泊したが、当時の厳島神社は神仏分離の影響で大鳥居も社殿も白木だったことが判明した。二度目は、1909（明治42）年親友中村是公の招待による満韓旅行の帰路広島に寄り、市内見物のあと友人井原市次郎を訪れた。

漱石をめぐる広島人は意外に多く、縁が深い。第一漱石の妻鏡子は福山出身といわれている。鏡子の父中根重一は福山藩士の出で、明治政府で貴族院書記官長の要職に就いた。鏡子夫人についてはいろいろな世評があるが、漱石の神経衰弱と胃病に悩まされながら支え続けた内助の功は大きい。

前出の中村是公は広島市出身で、東大予備門以来生涯にわたって漱石を物心両面で支え続けた親友であり、満鉄総裁や東京市長などを歴任した。

漱石の東大での教え子の一人に広島市出身の児童文学者で「赤い鳥」を創刊した鈴木三重吉がいる。三重吉は漱石の門人の集い「木曜会」の常連だった。その三重吉と机を並べて漱石の警咳に接した加計正文は加計町（現安芸太田町）出身で、家業や町長を務めるかたわら書簡などで漱石と交流を続け、漱石の声を録音した蠟管（初期の円筒式レコード）をはじめ多くの貴重な資料を残した。残念ながら蠟管の



中村是公（左）と夏目漱石（右）、後列は犬塚信太郎。是公は南満洲鉄道総裁、信太郎は同理事だった。（明治天皇大喪の日、撮影・小川一真）写真提供：日本近代文学館

劣化で声の再生ができていない。

夏目家のかかりつけ医だった尼子四郎は戸河内町（現安芸太田町）の出身で同郷の富士川游、呉秀三らと芸備医学会を創設し、広島をはじめ全国の医学向上に努めた。その尼子四郎の仲介で漱石の診断をした呉秀三は、呉をルーツとする医家の出で、わが国精神病学の創始者である。

その他、夫津田青楓とともに漱石とさまざまな交流をした服飾研究家山脇敏子、東大で漱石に教わった後、呉一中の教師、世羅中校長を勤めた妹尾福松など多士済々である。

こうしたことを探求することは広島の歴史と文化を見つめ直す道でもある。

（おがさわら・しんや 元広島県副知事、「漱石と広島」の会参与）

広島交響楽団について

金田幸三

広島県は「スポーツ王国」といわれ、現在も野球のカープ、サッカーのサンフレッチェをはじめとして、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、女子ホッケーなどスポーツの盛んなところ。その一方で音楽を愛している土地柄でもあります。音楽高校がありました。素晴らしい音楽大学もあり俊英を送り出しています。燃えたぎる思いを内に秘めた熱い故郷です。

広島での交響楽運動は1907（明治40）年に日本では数少ない音楽教育機関として発足し、110年になります。被爆の惨禍さめやらぬ翌年の春には、早くもシューベルトの未完成交響曲が演奏されました。この文化の火を引き継ぎ、1963（昭和38）年に広島市民交響楽団が発足、その後広島交響楽団となり、1972（昭和47）年には中国・四国地方唯一のプロオーケストラとなりました。

広響は今までウィーン、フランス、サンクトペテ



東京公演（2015年、サントリーホール「平和の夕べ」コンサート）

ルブルク、韓国など4度の海外公演を行い、東京でも何度か公演を行っています。

最近では2015（平成27）年8月に「平和の夕べ」コンサートをサントリーホールで開催し、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、世界的なピアニストであるマルタ・アルゲリッチと協演して高い評価を得ました。

広響のキャッチフレーズは”Music for Peace～音楽で平和を～”で、被爆地ヒロシマにあるオーケストラとして、「音楽による平和発信」を活動の最も重要なビジョンとして掲げています。

また、「地域に根差した楽団」を目指し、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島とともにプロ3団体のコラボレーションによる社会貢献活動を行うとともに、学校や地域に出向いて演奏活動を行い、子供たちや地域の音楽を育む「“音楽の芽”プロジェクト」などにも取り組んでいます。

さらに「世界に通用する楽団」を目指し、秋山和慶を始め日本を代表する歴代の音楽監督のもとで音楽的にも成長し続けています。また世界の一流ソリストとの協演、域外や海外での演奏活動などにより楽団の真価を問うとともにレベルアップを図っています。

今年2017年度から下野竜也を音楽総監督に迎え、新たな広響がスタートします。24年ぶりの大阪公演やすみだトリフォニーホールの20周年記念平和

コンサートへの出演など広島県以外での演奏活動も展開し、更なる飛躍を図ってまいります。今後の広響の活動にご期待いただきますようお願いいたします。

（かねだ・こうぞう 公益社団法人広島交響楽協会理事長）

拓郎ファンとしての聖地巡礼

安西 巧

中学生のころ、擦り切れるほど聴いたレコードのひとつに吉田拓郎の「たくろう オン・ステージ第二集」という2枚組のライブ・アルバムがある。広島から上京して1年余りの拓郎が東京山手教会の地下にあった小劇場「渋谷ジャン・ジャン」で、3日間（1971年8月9～11日）連続で行ったミニコンサートを収録したもの。当時在籍していたエレクトレコード（日本最初のインディーズレーベルのレコード会社）が本人に無断で商品化したことなどから、72（昭和47）年12月の発売後まもなく生産中止となり、その後76年に同社が不渡り手形を出して倒産したこともあってCD化されていないため、現在入手は難しい。

最も印象に残っているのはA面最初の「準ちゃん

の与えた今日の吉田拓郎への多大なる影響」という曲。タイトルも非常に長いが、歌い終わるまで12分を超える大作である。拓郎は敬愛するボブ・ディランの「ハッティ・キャロルの寂しい死」のメロディーに乗せ、高校・大学時代の初恋の女性「準ちゃん」との思い出を歌い上げた。

“風の便りに広島のことを 耳にするたびに涙が落ちる……”

“僕の青春は恋と歌の旅 果てることなく 準ちゃん 君がどう変わっても 思い出だけは残る……”

広島から西へ約200キロ。福岡県北九州市で生まれ、育った筆者はこの歌から「多大なる影響」を受けた。中学2年生の時から幼馴染のメンバーでバンドを組み、自作の歌をカセットテープに録音して友人に配ったり、大学進学で上京してプロの道を探ったりしたのも、拓郎をはじめ当時の輝かしいニューミュージックの旗手たちに大いに触発されたからに他ならない。才能・技量ともに足元にも及ばなかった我々のバンドの夢は早々に潰えたが、拓郎がしばしば歌にしていた「広島」への憧れに似た想いはその後社会人になってからもくすぶり続けたように思う。

そんな「広島」への想いははっきり自覚したのは2015（平成27）年春、所属する新聞社で転勤の内示を受けた時である。経済専門紙の広島支局長としての仕事柄、マツダや中国電力のことも気になった

が、「広島」という言葉から真っ先に思い浮かんだのは拓郎の歌の数々のフレーズやメロディーだった。2015年4月に着任してから、拓郎が在学中に制作した初期の代表曲「今日までそして明日から」の歌碑がある広島修道大学（在学当時の名称は広島商科大学）や準ちゃんと出会った母校の広島県立皆実高校、大学時代にギター教室の教師を務め、卒業後の就職も内定していたという河合楽器製作所ミュージックショップ広島（2015年7月に移転）などを仕事の合間を縫って訪ねた。拓郎ファンにとってのいわば“聖地巡礼”を果たしたといってもいい。

拙著『広島はすごい』（新潮新書）でも紹介したが、拓郎は大学在学中に米軍岩国基地のクラブで演奏のアルバイトをしており、その際に白人兵と黒人兵の間の微妙な軋轢を実感したと後に話している。「準ちゃんの与えた…」でメロディーを拝借したディランの「ハッティ・キャロルの寂しい死」は1963（昭和38）年にボルティモアで起きた人種差別事件（24歳の白人の男が注文の酒がくるのが遅かったことを理由にメイドの黒人女性を撲殺した事件）を題材にしている。それから半世紀余り。戦後初めて被爆地・広島を訪れた現職米大統領が黒人のオバマ氏だったということも、個人的には感慨深いものがある。

（あんざい・たくみ 日本経済新聞社広島支局長）



吉田拓郎の「今日までそして明日から」の歌碑がある広島修道大学構内

東京で出会う広島の味



ひろしまブランドショップTAUは、2012（平成24）年7月に東京・銀座にオープンしました。

東京広島県人会の皆さまには、日頃からご来店いただき、ご支援くださいますことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

広島県ご出身、あるいは仕事や通学のご経験など、皆さまの広島県との関わりはさまざまであろうかと思いますが、TAUは皆さまにとっての懐かしい広島を東京に再現するだけでなく、旬の魅力もお伝えできる、さまざまなシーンで役に立つショップでありたいと考えています。

地下1階の創作和食レストランは、瀬戸内広島の新鮮な魚介類を揃えており、しっとり落ち着いた雰囲気の中で「本物」の味は、東京のお友達にも喜んでいただけます。

2階の本格お好み焼屋では、広島出身のお仲間とも、鉄板カウンターでの熱々のお好み焼きとカーブの話題で盛り上げられること請け合いです。3階の本格イタリアンでは、広島の食材を楽しみながらのカーブ観戦パブリックビューイングはいかがでしょう。併設イベントスペースでの広島出身有名人によるイベントも要チェックです。広島酒工房では、広島の銘酒や、三次・世羅のワイナリーから届いたワイン、焼酎、地ビールなど約150種類をご用意。蔵元と広

島の酒についての語らいができるプレミアム試飲会も好評です。

1階の物販フロアには、もみじ饅頭のほかに牡蠣やレモンといった広島を代表する特産品のほか、皆さまの懐かしい味も揃えています。また、ご出身の市町の物産展をご覧いただくと、普段地元でしか手に入らない商品に出会うことも。素敵な贈り物には広島が世界に誇る熊野筆をご検討ください。カーブ観戦前には、都内屈指の品数を誇るカーブコーナーも必見です。

TAUは、おかげさまで、2017（平成29）年7月に開館5周年を迎えました。今後とも、ブランドショップとして広島の魅力を発信するとともに、“東京で一番の広島ファン”である東京広島県人会の皆さまにふるさと広島の香りが届く（たう）よう、努めてまいります。

引き続きのご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

「TAU」は「たう」、届くという意味の広島の方言です。ショップや商品の詳しい情報は、以下のHPをご覧ください。

<http://www.tau-hiroshima.jp>



東京で出会える 広島のみあれこれ

熊本正巳
山根知之
日谷 潔

「TAU」のほかに、東京で出会える広島のみをお楽しみいただけるお店をご紹介します。

原則として、東京広島県人会の総会・懇親会にご協力いただいておりますお店を選んでご案内しています。

釜飯は「酔心」、日本酒は「酔心」って知っていましたか？

「酔心」：瀬戸内料理 安藝路「酔心」

<http://www.akiji.co.jp/>

名物の釜飯は東京で味わえる瀬戸内料理。炊きたては30分待ってでも食べたくなります。

新宿店：〒160-0022 東京都新宿区新宿3-15-17

伊勢丹会館地下1階 TEL：03-3352-8721

「酔心」：「酔心酒蔵」新橋店

<http://www.e-suishin.com/restaurants/shimbashi.html>

新橋SL広場からすぐ！ 横山大観が愛した広島銘酒「酔心」の蔵元直営のお店です。

新橋店：〒105-0004 東京都港区新橋2丁目6-9

TEL：03-3580-2455

「季彩膳 酔心」という直営店：東京駅店、神田店、横浜スカイビル店もあります。

●蔵元紹介（広島県酒造組合）

広島県酒造組合・広島県酒造共同組合から広島のみをご紹介します。

www.hirosake.or.jp/kuramoto/

「広島県の蔵元・地域別リスト」をクリック。

*各蔵元のとホームページにもリンクしていますので、詳しい内容はホームページでご覧ください。

瀬戸内料理を東京・銀座で味わうことができます。さらに池袋でも、神田淡路町でも!!

「瀬戸内料理 すみのえ」

<http://ginza-suminoe.com/>

「瀬戸内の魚介、広島のみ酒の魅力を伝えたくて」銀座8丁目に瀬戸田の旅館がお店を開店。

瀬戸内料理 すみのえ：〒104-0061 東京都中央区銀座8-7-18 月光荘ビル B1F TEL：03-3572-2155

「広島瀬戸内料理 雑草庵」

<http://www.aki-food.co.jp/>

芳醇な広島のみ酒と潮の香り漂う瀬戸内の魚を味わうことができる池袋西口の居酒屋。

雑草庵：〒171-0014 東京都豊島区池袋2-12-13

十二ビル TEL：03-3971-5350

「飲料亭」

http://www.chugoku-jozo.co.jp/company_ja/restaurant/

神田淡路町で広島のみ美味・美酒を味わえる。中国醸造直営で、蔵元直送のみ酒を楽しめます！

飲料亭：〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-1

神田クレストビル1F TEL：03-5296-7538

お好み焼きは20年以上続く老舗もあれば、新しく開店したお店もご紹介。

ひろしま・お好み焼き「凡」

<https://marugotonippon.com/tenant/detail/4003>

新宿区三栄町8-33から浅草まるごとにつぼん4階に移転した「ひろしまお好み焼き」専門店。

凡：〒111-0032 東京都台東区浅草2-6-7

まるごとにつぼん4F TEL：03-3845-9229

「八昌」

<https://tabelog.com/matome/50/>

広島県外で八昌の店名をもらったお店は3軒しかありません。その中の1軒が経堂の八昌です。

八昌：〒156-0052 東京都世田谷区経堂1-21-18

TEL：03-3428-8437

「れもん屋」

<https://tabelog.com/tokyo/A1305/A130503/13010968/>

高田馬場の路地裏の2階に佇む人気お好み焼き屋。25年もの間愛され続ける美味しさ。

れもん屋：〒171-0033 東京都豊島区高田3-11-18

TTAビル2F TEL：03-3209-9617

「カーブ 東京支店」

<https://tabelog.com/tokyo/A1310/A131002/13004170/>

ここのお客さんの半分が広島の人であることから地元広島のみ雰囲気と味を堪能できるお店。

カーブ 東京支店：〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5 保坂神田ビル TEL：03-5296-0080

鉄板焼き 広島お好み焼 「ぶち」恵比寿本店

<https://tabelog.com/tokyo/A1303/A130302/13141801/>

地元広島のみ農家さん直送食材を厳選して広島のみソルフードをお届け！ 予約必至の人気店。

ぶち：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-7-8

ニューライフ恵比寿2F TEL：03-3760-0555

「炎の鉄板」のサイトでさまざまなお好み焼きを検索することもできます！

http://www.chugoku-np.co.jp/blog/article/?category_id=202

おのみちラーメンを東京で味わうならこちら！

「おのみちのりこ家」

化学調味料は一切使わない「子供にも食べさせたい」安心の料理を提供しているお店。

おのみちのりこ家：店舗移転の予定のため住所・電話番号は記載を控させていただきます。「おのみちのりこ家」で検索していただき、移転先の住所にご確認の上、お訪ねください。

(くまもと・まさみ 東京広島県人会)

(やまね・ともゆき 東京広島県人会) (ひだに・きよし 東京広島県人会)

広島のみまだまだ 日谷 潔

東京にはここでご紹介したお店だけでなく、広島のみに出会えるお店がまだまだたくさんあります。

検索サイトで「広島県人 東京 お店」と検索すると「TAU」がトップに表示されますが、「東京で美味しい広島焼のお店10選」、「東京で広島県人が集う店」などが表示されます。さまざまな検索ワードを入力して探してみるのも楽しみのひとつでしょう。

2017年8月9日にオープンした広島県府中市のアンテナショップ「NEKI（ねき）」をご存知でしょうか。広島県の市町村が東京に出店したアンテナショップ第一号で、「備後府中焼き」と府中の特産品のお店です。

「備後府中焼き」の最大の特徴は「牛ミンチ肉」を入れて、中はフワッと外はカリッとした焼き上がりになっています。「第1回広島でつぼんグランプリ」で初代王者に輝きました。（*「ねき」は備後弁で、「そばに」という意味）

「NEKI」

<http://www.naturalart.co.jp/NEKI/>

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1

NBF小川町ビル1F TEL：03-6811-7980



「お好み焼き」だけではない新しい広島のみとして話題になっているのが、「汁なし担々麺」。

「汁なし担々麺」、「つけ麺」で検索してみると、続々と東京に進出している広島のみのお店があります。これからも新しい味がどんどん生まれてくることでしょう。ますます楽しみな広島グルメです。

その他、広島県人が集うお店やイベントもいろいろあります。時期を問わず、広島県に縁のある人たちが集い、知り合い、語り合うことができます。これも広島県人の魅力のひとつと言えるでしょう。

これからも「広島県」をキーワードに、いろいろな検索をして、郷土と繋がる楽しみの場所を増やしてみたいかがでしょう。

東京の中の広島県

東京と広島——決して近いとは言えない距離ですが、古くからその結びつきは様々な形でありました。東京にある広島県人の活動の足跡、その苦闘の跡、その拠点、あるいは意外な建築物など、「東京の中の広島」を探訪しました。

① 赤坂氷川神社と三次浅野藩

原田 泉

私の職場近くに赤坂氷川神社があります。1730（享保15）年に第8代将軍徳川吉宗により現在の赤坂6丁目に造営され、「江戸七氷川」の筆頭とされてきました。この場所にはかつて三次浅野藩の下屋敷がありました。

1701（元禄14）年3月14日、江戸城中「松之大廊下」での刃傷事件で、第5代将軍綱吉により即日切腹を申し渡された浅野長矩（内匠頭）。その妻、阿久利は三次浅野藩の初代藩主の三女でした。浅野長矩は赤穂浅野藩の上屋敷に戻ることなく、高輪の泉岳寺に埋葬されました。阿久利は三次浅野藩の下屋敷に引き取られて落飾し、瑠泉院となって夫の菩提を弔います。

この事件での将軍綱吉の対応は、「専断」として江戸庶民の口に登り、大名としては例のない庭先での切腹という結末で、主君を失ったことに対する抗議としての、赤穂浪士の吉良邸への討ち入りという一大事件に繋がりました。

「生類憐みの令」など、“綱吉の鬱屈した治政”を背景に、赤穂事件いわゆる「忠臣蔵」として人形浄瑠璃や歌舞伎、講談で人気を集め、江戸庶民が味方するところとなりました。三百年ほど前の江戸時代では価値観も異なりますが、赤穂浪士に対する共感は、今もドラマチックに私たちの胸を打ちます。



赤穂浅野藩の改易・御家取り潰しという突然の破綻に見舞われながら、その後の冷静な向き合い方など、苦悩しながらも進む道を選び取ってゆく瑠泉院の姿に、今の時代も女性として感銘を受けます。赤穂浅野藩の筆頭家老であった大石良雄（内蔵助）から瑠泉院に報告された「預置候金銀請払帳」（箱根神社所蔵）には、討ち入り計画に使われたとされる瑠泉院からの莫大な資金の収支が記されています。

綱吉の後を継いだ第6代将軍家宣は綱吉時代の大赦を行い、直後に浅野長広（大学、長矩の弟で後に養子）は、広島浅野藩へのお預けを赦され、事件から9年後に旗本に取り立てられ、事実上のお家再興となりました。また討ち入りした赤穂浪士の遺児についても、瑠泉院が働きかけていた赦免が既に実現していました。

故郷を離れ、長く東京で暮らしているいろいろなことに直面し、人生の重い荷物を抱えて生きてゆくこともあると思います。そのような時、私は思うのです。生まれ故郷の三次から遠く離れた江戸で、

人生の大きな波乱を受け止めて、自分の務めを果たすために生きた方がいたということ、かつての三次浅野藩邸であった赤坂の土地を舞台に、広島、三次浅野家と赤穂浅野家を繋ぎ、討ち入りという当時の大きな出来事を支えた瑠泉院という方がいたのだということ。

それは平凡な毎日であっても、故郷を離れて、ここ東京で生きていることの意義を少しばかり感じ、痛快に日々を支えてくれると感じています。

（はらだ・いずみ 東京広島県人会）



義士祭の提灯が並ぶ泉岳寺

② 瑠泉院・泉岳寺

緒方 徹

曹洞宗・江戸三か寺の一つとされる泉岳寺（東京都港区高輪2-11-1）には、国指定の史跡「浅野長矩墓および赤穂義士墓」があります。毎年12月と4月にいわゆる四十七士をたたえる義士祭が実施され、大勢の参拝客で賑わいます。この浅野長矩の墓のすぐ傍らに三次浅野藩の初代藩主の娘で、長矩の妻だった阿久利姫、後の瑠泉院の墓があります。1701（元禄14）年3月14日、長矩が江戸城内で吉良上野介に刃傷に及ぶと、幕府は即日切腹を命じ、赤穂藩は改易となります。阿久利姫は16日には、赤坂にあった三次浅野藩の下屋敷に引き取られ、落飾して



瑠泉院の墓

瑠泉院となり夫の菩提を弔いました。赤穂義士たちの討ち入りに当たって、瑠泉院は自分のいわゆる化粧料を資金として大石内蔵助に託し、義士の生活を陰ながら支えたとされています。また赤穂義士の遺児たちのうち、伊豆大島へ流された者の赦免にも尽力し、1706（宝永3）年8月に3名の恩赦に繋がったということです。浅野長矩の弟で後に長矩の養子となり事件に連座した浅野大学も、1710（宝永7）年には旗本に復することを許されて、赤穂浅野家が事実上再興しました。浅野大学もまた泉岳寺に眠っています。瑠泉院は三次浅野藩下屋敷で（現在の赤坂氷川神社あたり）生涯を送って、1714（正徳4）年41歳（46歳説もあり）で死去し、長矩の墓の隣に葬られました。生まれ故郷の三次市の鳳源寺には、瑠泉院を供養した五輪の遺髪塔があります。（参考 泉岳寺資料など）

*「阿久利姫」（あぐりひめ）の字は三次市の資料から採った。

（おがた・とおる 東京広島県人会）

③ 江戸上田家初代重秀が自らの菩提寺として建立した重秀寺

緒方 徹

広島「茶道 上田宗箇流」にゆかりの寺が港区にあります。

臨済宗妙心寺派の重秀寺（東京都港区白金2-1-



聴松亭



上田重秀の墓



築地本願寺



土生玄碩の碑



安芸廓亮大瀛の塔

6) で、浅野藩の家老で武家茶道の流祖でもあった上田宗箇の長男、上田重秀が1626(寛永3)年に今の港区六本木3丁目あたりに建てました。

重秀は將軍徳川家光に旗本として召し抱えられ、重秀寺は江戸上田家の菩提寺となりました。

重秀は1661(寛文元)年に70歳で没しますが、その後1694(元禄7)年に町医者町田玄信が現在地を買い求め寄進したことから移転しました。

現在の書院「聴松亭」は、茶室・数寄屋建築研究の第一人者で京都工芸繊維大学名誉教授、中村昌生氏の設計によるもので、茶室「不求庵」も付随しています。この書院で原則として毎月、「茶道 上田宗箇流」の稽古が行われ、上田宗箇御家元による直接の指導があります。

重秀寺は9年後の2026年に開基400年を迎えます。(参照 重秀寺HP)

(おがた・とおる 東京広島県人会)

一つは安芸・吉田村(現安芸高田市吉田町)出身の眼科医、土生玄碩の碑。それと安芸・筒賀村(現安芸太田町)出身の学僧、大瀛の碑。そして本堂の中にあるパイプオルガンです

【土生玄碩の碑】

江戸時代の眼科医土生玄碩はとても有名な人でした。技術と実績、それにともなう地位や名声、富を得ただけでなく、後述するシーボルト事件に連座して没落するなど、浮き沈み激しい劇的人生だったこと。さらに人気歌舞伎俳優と眼科医との友情物語として創作され、講談、浄瑠璃、舞台などで人気を博した演目「男の花道」で、主人公のモデルとされているからです。

玄碩は、1762(宝暦12)年、安芸国高田郡吉田村で代々眼科医をしていた家の長男として生まれました。諸国を巡って眼科医術を学びますが、京都での刑死者の眼球解剖は、日本眼科医学界初の試みとされています。大坂で開業し、視覚障害者の「石内障」(おそらく白内障)の手術を会得したことで名声を得て、42歳で広島藩の藩医に。さらに広島藩主浅野重晟の娘で南部藩主に嫁いだ教姫の眼病を、江戸で治癒させたことから一気に評判となりました。

1809(文化6)年には將軍徳川家斉に招かれ、翌年に江戸幕府の奥医師となって、百俵五人扶持と浅草に町屋敷を拝領するなど当時の眼科医の最高権威となりました。玄碩の財産は莫大なものとなり、大名や武家、町人、歌舞伎役者などに多額の金銭を貸し付けていたということです。

やがて当時長崎の出島にあったオランダ商館付き

の医師シーボルトから白内障等の新たな術方と瞳孔を拡げる薬を分与されましたが、使い切ると再度の分与を断られました。玄碩は窮余の策で、將軍拝領の葵の紋付きを差し出しました。拝領品を他に譲ることは將軍を愚弄することになり、打ち首も覚悟しなければなりません。しかし治療の進展を期す玄碩に、ためらいはありませんでした。シーボルトは日本に生ずる瞳孔を拡げる効能をもつ薬草を教え、玄碩はその薬を使って手術に成功しました。

しかし1828(文政11)年、シーボルトの荷物に国外持ち出しが厳重に禁じられていた高い精度の日本地図があることが発覚し大事件に発展しました。「シーボルト事件」です。その後のシーボルト邸で、將軍拝領の葵の紋服が見つかったため、土生玄碩は事件に連座して財産没収となり、投獄されて失脚しました。

1837(天保8)年、將軍徳川家慶の眼病を玄碩の息子の玄昌が治療し、その功績によって奥医師となったことをきっかけに、玄碩は許され、木場に居を構えて眼科を開業しました。その後、玄碩の医院は隆盛を極めたということです。玄碩は1848(嘉永元)年に87歳で死去し、築地本願寺中眞龍寺に葬られました。(1928年、区画整理のため改葬)

(参考資料 東京都指定旧跡・東京都教育委員会、日本医科伝・吉村昭、長崎薬学史の研究・長崎大学薬学部、長崎大学医学部創立150周年記念誌、都立薬用植物園の妖精達)

【安芸廓亮大瀛の塔】

広島県西部の浄土真宗の門徒は「安芸門徒」と呼ばれ、信仰が厚いことで知られていますが、僧侶の学問のレベルも高く「芸轍」といわれて尊敬を集めていました。江戸時代後期に活躍した大瀛もそうした「芸轍」の一人です。

1759(宝暦9)年生まれの学僧、大瀛は、安芸・筒賀村(現安芸太田町)出身です。医師の息子だった大瀛は、11歳で得度し広島で学んだあと、1776(安永5)年以降は、京都の西本願寺の学林にたびたび上がり真宗学の研鑽に励みました。そして広島県内の寺院で住職を歴任した後、広島城の西に学寮を作り子弟の養成に努力しました。

こうしたなかで、西本願寺の教団史上最も重大な論争とされる「三業惑乱」事件が起きます。本来なら教団の考え方を護るべき中央の学僧、特に最高責任者が、新しい解釈を唱え始めたのです。これに対して大瀛など地方を中心とした学僧は激しく反論し、僧侶だけでなく全国の門徒を巻き込んで混乱が拡大して、ついには幕府が介入する事態に発展しました。

双方の論議の中心人物が江戸に呼び出されて寺社奉行の取り調べを受けることになったのですが、このさなかの1804(文化元)年6月、持病が悪化した大瀛は築地本願寺で客死しました。それからおよそ2年後に寺社奉行は大瀛などの主張が正しいという裁定を下し、西本願寺宗主がそれを追認する形で決

④ 築地本願寺にある 広島ゆかりのもの 大江和正・緒方静子

多くの観光客が訪れる銀座。特に銀座4丁目の交差点は外国人も含め、いつも大賑わいです。ここから歩いて10分弱のところ、インド風の建築でも知られる築地本願寺があります。ここに広島ゆかりのものがあるのです。

着しました。

江戸時代という状況の中で、在野の一地方、郷土広島出身の僧侶が、全国の人々の信仰の重さを背負って熱弁をふるい、中央の考えを正した出来事とされ大きな評価を受けました。「安芸廓亮大瀛」と書かれた築地本願寺の墓碑は、大瀛の偉業を讃えて建てられたものです。毎年、祥月命日の6月11日には、広島ゆかりの門信徒もたくさん参加して法要が行われています。

また、大瀛の出生地や住職を務めた寺院など県内数カ所にも墓碑があります。

【パイプオルガン】

築地本願寺の正面石段を上がって本堂に入り、ふり返ると頭の上の左右に大きな銀色のパイプが並んでいます。お寺には珍しいパイプオルガンです。実は広島にゆかりがあるのです。

このパイプオルガンを1970（昭和45）年に寄進したのは、当時の賀茂郡志和町（現東広島市）出身で浄土真宗の僧侶であった沼田恵範師が中心となって設立された公益財団法人「仏教伝道協会」です。沼田氏は世界的精密測定機器メーカーである株式会社ミットヨの創業者です。西洋音楽を取り入れ情操面から現代人に仏教をアプローチしようと考えた沼田氏の願いのもとで、パイプオルガンが贈られました。

ドイツのヴァルカー社製で、築地本願寺の本堂用に特別に設計されています。左右に配置されたパイプは6つの山を描いていて「南・無・阿・弥・陀・仏」の6つの文字を表し、表面に並んだパイプの数は左右48本ずつで、浄土真宗の聖典にある「四十八願」を意味しています。パイプオルガンの演奏台



築地本願寺本堂のパイプオルガン

は本堂入り口左側のボックスにあり、毎月コンサートが開かれています。約2000本のパイプからあふれる音色は、降ってくるように本堂を包み込み参拝者を魅了しています。熱心な仏教徒であった沼田氏の深い思いが感じられます。

沼田恵範師は東京広島県人会の会員でしたが、1994（平成6）年逝去されました。またご子息のミットヨ相談役（前会長）の沼田智秀氏も仏教伝道協会の会長で、東京広島県人会の会員でしたが、2017（平成29）年2月逝去されました。

（おおえ・かずまさ 築地本願寺・首都圏都市開教専従員）・（おがた・しずこ 東京広島県人会）

⑤

福山藩江戸藩校 誠之館跡

増井博文

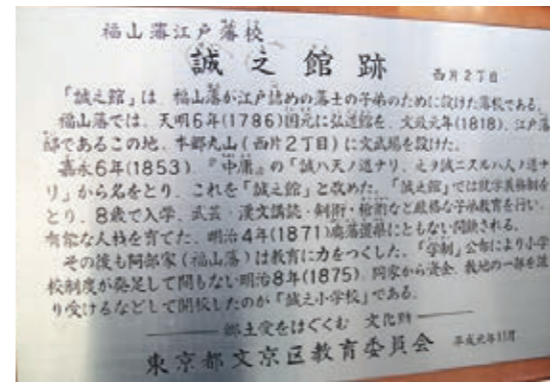
福山藩では、1786（天明6）年、国元に弘道館を、1818（文政元）年、江戸藩邸である本郷丸山（現在の西片二丁目）に、江戸詰めの藩士の子弟のための藩校として、武芸・漢文講読・剣術・槍術などの教育を行うための「誠之館」を設立しました。

現在は、その跡地に、ゆかりの名称を持つ「（文京区立）誠之小学校」が設置されており、同校のホームページでは、その歴史が次のように紹介されています。

“誠之小学校は、開校140年目、20学級、児童約700名、教職員70数名の活気あふれる学校です。

「人権尊重及び「誠之人道」の精神をふまえ、豊かな心と生涯学び続ける意欲をもち、たくましく心身の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する」を教育目標とし、保護者・地域・卒業生の方々のご理解とご協力をいただき、教育活動を進めています。

「誠之人道」とは、「（誠は天の道なり）之を誠にするは人の道なり」という意味です。校名の「誠之」という語は、儒学の古典『中庸』の「誠者天之道也、誠之者人之道也」から採られたもので、幕府筆頭老中（老中主座）として日米通商修交条約の締結遂行にも当たった福山藩第7代藩主阿部正弘公が、本



誠之小学校校門前の案内板

校の前身、福山藩丸山中屋敷（江戸の藩邸）の藩校の校名として採用したものです。”（以上ホームページから引用）

また校門の前には「福山藩江戸藩校 誠之館跡」という、東京都文京区教育委員会による「郷土愛をはぐくむ文化財」としての案内板が掲げられています。

（ますい・ひろふみ 広島県東京事務所）

⑥

横山大観記念館

山根知之

東京の景勝地として知られる台東区池之端。その中心には、不忍池を擁する上野恩賜公園があり、休日には、多くの人々が訪れます。その不忍池の西側に日本画の巨匠、横山大観の生前の住まいと旧蔵品を保存している、横山大観記念館があります。ここを訪れる人の中には、横山大観のかつての住まいや作品を堪能するとともに、広島県三原市を懐かしく思い出す人がいると思います。広島県三原市の銘酒「酔心」こそ、横山大観が終生愛飲したお酒だからです。

横山大観は1868（明治元）年9月18日水戸藩士酒井捨彦の長男として誕生しました。幼名は秀蔵といい、後に秀磨と改名。1888（明治21）年母方の姻戚横山家を継ぎました。そして明治26年東京美術学校を卒業。明治30年29歳の時より“大観”の号

を用い始めました。

その後、東京美術学校の校長だった岡倉天心や兄弟弟子の菱田春草らとともに明治31年日本美術院を創立。「朦朧体」と呼ばれる新しい画風を創り出し多くの作品を画き上げました。そして1958（昭和33）年2月26日、数え年91歳で死去しました。（参考：酔心山根本店ホームページ）

横山大観が、今は、記念館となっている場所に居を構えたのは、1909（明治42）年のことです。昭和20年の空襲で建屋が焼失しましたが、その土台を生かし、昭和29年に新居が再建されました。（参考：横山大観記念館展示案内）

さて、いよいよ、横山大観と酔心の深い縁について、紐解いていきます。大観とのつながりが深かったのは酔心蔵元三代目当主の山根薫で、出会いは昭和初期にさかのぼります。

酔心山根本店（蔵元）の東京販売店にいつも酒を買にくる上品な女性がいました。どなたかと、店の人が尋ねましたところ横山大観の夫人だという。興味を持った山根薫が大観の自宅に伺い酒造りの話をしましたところ、名人は名人を知ることか、たちまち意気投合。『酒づくりも、絵をかくのも芸術だ』と大観は大いに共鳴しました。感動した山根薫社長は、一生の飲み分を約束しました。この約束は、1958（昭和33）年に大観が永眠するまで続きました。

酔心をこよなく愛した横山大観ですが、酒を呑んで筆を執ることは一度もなく、「私は大酒呑みではなく、ただ酒を愛するだけです。酒徒という言葉が



横山大観記念館・正面入口

ありますが、私はそれだけです。」と人に話していたといわれています（参考：(株)酔心山根本店HP）

大観記念館の玄関に入って左手すぐには、客間があり、多くの客人が訪れたとのこと。また、奥には、ごく親しい人だけを通す部屋があります。大観が、お酒を飲んだ部屋は、おそらくこれらの部屋と思われ、筆者も感慨深いものがありました。二階にあがると、実際に絵をかいていた部屋があります。窓からは、不忍池と上野の山の景色が広がる素晴らしい眺めの部屋で、ここから多くの大作が生まれたのです。

横山大観記念館は、日本画の巨匠としての横山大観を満喫するとともに、酒徒としての横山大観に思いをいたし、大観愛飲の銘酒「酔心」を通じて、広島を大いに感じることでできる場所なのです。

(やまね・ともゆき 株式会社山根東京本社)



竹林寺から移築された三重塔

池のそばの高台に建つ三重塔（国の登録有形文化財）は、実は広島県賀茂郡入野（現東広島市）の竹林寺から移築されたものです。塔は大正年間に強風で三層目が大破していたそうですが、1925（大正14）年藤田男爵が譲り受け、椿山荘に移し復元修理しました。

竹林寺は 紀元700年代に行基が創建したという伝承のある古刹で、三重塔は同800年代の建築ではないかと推定されています。

藤田ファミリーの一人で元藤田観光（株）社員の藤田基彦さんは、移築の背景について「明治維新後の廃仏毀釈で、多くの寺が衰退、経営的に苦しくなり、寺の書画、秘仏、建物などを手放さざるをえなくなったということがありました。三重塔にもそうした背景があったのではないのでしょうか」と語っています。

三重塔は太平洋戦争の末期、椿山荘が空襲の被害を大きく受けた時も、焼けることなく残りました。

また、東日本大震災の地震当日は、解体修理中でしたが、この時も無事でした。

約1200年の時を経て、三重塔は強風大破、移築、空襲、地震…などさまざまな試練に遭いながらも、その優美な姿をみせています。

今ホテル従業員の胸に光る金色の胸章、それは三重塔をデザインしたものです。約90年前、広島県から移りきた三重塔はこのホテルのシンボルでもあるのです。

(やました・やすのり 東京広島県人会)

⑧

なかむら ぜこう はねざわ
中村是公と羽澤ガーデン

金森貴哉

東京広島県人会は2017（平成29）年で70周年を迎えます。1947（昭和22）年3月22日に、主賓、池田隼人、谷川昇、伊藤隆二（当日欠席）で総勢37名の県人会春季大会が、日本工業会で開催されたのち、何度となく会場になってきたのは、港区広尾にあった羽澤ガーデンです。

昭和30年代には将棋や囲碁の名人戦の第1局の会場となり、大山康晴と升田幸三戦や趙治勲と小林光一戦が行われ、またレストランや結婚式場としてたいへん人気を博していました。

この羽澤ガーデンは、中村是公の邸宅であったことをご存知でしょうか。

中村是公は、1867（慶応3）年広島市佐伯区五日市町に生まれ、大蔵官僚をへて41歳で満鉄第2代総裁となります。初代は、明治から大正にかけ閣僚を歴任し、現代の東京都市計画の骨格を作った後藤新平。中村是公はその右腕であったようです。1924（大正13）年10月に第9代東京市長（現在の東京都知事）となり、前年の関東大震災で崩壊した東京の復興の責任を担っていきます。菊池寛は「満鉄外史」で、「すべての仕事をばたばたと着手したのは中村2代目からである」と書いており、満鉄や東京で後藤新平の作った骨格を実現していく有能



羽澤ガーデンでは広島県人会の役員懇親会がしばしば開かれた

な実務家であったようです。

羽澤ガーデンは、1915（大正4）年に中村是公が自邸として建設。1927（昭和2）年に亡くなったあと持ち主が変わりましたが、レストランになってのち東京広島県人会の懇親会が幾度となく開催されたのも、広島の縁といえましょう。2005（平成17）年に閉鎖され、今は高級マンションに変わってしまったのは残念なことです。

また、中村是公は夏目漱石と第一高等中学（のちの一高）の同期で、死ぬまで「お前」と呼びあう仲であったといわれ、有名な小説『ころ』の友人Kの背景設定は中村是公であったといわれています。

広島県は、中村是公（ぜこう・よしこと）のような偉大な人を、昔から輩出し続けているお国柄です。その気質が今後も引き継がれていくことを祈念致します。

(かなもり・たかや 東京広島県人会幹事長代理)

⑨

瀬越憲作と日本棋院

山下靖典

J Rと地下鉄の市ヶ谷駅からほど近い坂の途中に、わが国の囲碁界の総本山ともいべき日本棋院があります。

広島県佐伯郡能美町（現江田島市）出身の、囲碁名誉九段瀬越憲作（1889-1967年）は日本棋院の初代理事長を戦後間もなくから1948（昭和23）年まで務めました。

瀬越の生まれ育った旧三高村は能美の中でも特に囲碁、とりわけ賭碁が盛んなところであったといえます。なにしろ狭い村に13人ものプロの賭碁棋士がおり、このため「三高に行って賭碁打つな」という言い伝えさえあったそうです。知らずに行って賭碁を打つと身ぐるみ剥がされる…といわれたものだったといえます（能美町出身で瀬越の内弟子となった三王裕孝九段の話）

子供の頃からこうした環境で育った瀬越は6歳く

⑦

ホテル椿山荘東京の三重塔

山下靖典

東京・文京区関口の閑静な住宅地の一角に高級ホテル、ホテル椿山荘東京があります。結婚式場、客室などの施設と美しい庭園を備え持つことで知られています。

椿山荘の名は、ここに屋敷を構えた明治の元勲、山縣有朋が、1878（明治11）年この地を買い求め庭園・邸宅を築き、それまでこの一帯が「つばきやま」と呼ばれていたことから付けたとされています。

ここには明治天皇、大正天皇を始め時の要人たちがしばしば訪れて、重要会議なども催したそうです。1918（大正7）年、山縣と同じ長州系の藤田財閥の二代目当主、藤田平太郎男爵が譲り受け、東京の別邸としました。

戦後結婚式場として営業を開始、その後ホテルも併設しました。

庭園は広大で、山あり、谷あり、池あり、滝ありと変化に富んでいます。

らいから祖父について囲碁を習い始め、小学校の上級生では初段相当にまで腕を上げていました。広島一中（現国泰寺高校）卒業後、20歳で父と親しかった政治家、望月圭介に連れられて上京、囲碁結社方円社に入門しました。当時、同社は坊門（本因坊一門）と対抗していました。憲作はすぐに三段を得て、天才青年棋士現ると騒がれました。

1942（昭和17）年には八段に昇進、この間坊門と方円社を統合して日本棋院を作ることに尽力しました。

広島と瀬越と囲碁の関係で今も記憶されているのは、1945（昭和20）年8月6日の、いわゆる原爆対局でしょう。

戦災で東京の赤坂溜池にあった日本棋院の建物も消失、第3期本因坊戦第2局は瀬越の奔走で広島市郊外五日市の吉見園で行われました。橋本宇太郎本因坊対岩本薫七段の対局の最中に投下された原爆は、広島の街を破壊、対局者、観戦者、碁石、みな爆風で吹き飛ばされました。生き延びた対局者は四散した碁石を拾い集め、試合を再開。結局、岩本七段が勝利しました。

瀬越の囲碁界への貢献は、なんとといっても多くの弟子を育てたことでしょう。前述の橋本、三王を始め呉清源らの名だたる棋士を育てました。また戦前から囲碁の国際化に力を注ぎ、中国、台湾、ハワイなどを訪問し、囲碁交流を行いました。

さらに、江戸時代に江戸城で打たれた囲碁の棋譜を集めた「御城碁譜」（全10巻）の刊行など、囲碁文化の保存にも尽くしています。

1955（昭和30）年引退し、名誉九段が贈られました。1967（昭和42）年7月、83歳でこの世を去り



ました。

江戸時代の囲碁棋士で、当時比類なき棋力をうたわれた14世本因坊跡目秀策は 広島・因島の出身です。本因坊の名前は今も囲碁のビッグタイトルである本因坊戦として残っています。

4世道策から21世秀哉までの歴代本因坊家の墓は東京・巣鴨の本妙寺にあります。囲碁ファンにとっての「聖地」です。

（やました・やすのり 東京広島県人会）

⑩

升田幸三と将棋会館

山下靖典

囲碁とくれば将棋ですね。広島と将棋棋士といえ、なんとといっても升田幸三でしょう。

口ひげ、もじゃもじゃ頭、羽織袴、ドスの利いた声——豪放磊落な性格、独特の風貌、スタイルに加えて「攻めの升田将棋」の棋風は強く将棋ファンにいまも印象付けられています。

升田幸三は1914（大正3）年広島県双三郡三良坂町（現三次市）に生まれました。子供の頃から剣士を夢見ていましたが、怪我をして断念、長兄静夫に教わった将棋に熱中するようになりました。

1932（昭和7）年、プロ棋士目指して郷里を出奔、まず広島市に向かいます。この時、母親の物差しの裏に書き置きしたのが「この幸三、名人に香車を引いて勝ったら大阪に行く」という言葉です。

「香車を引く」とは名人への挑戦者が香車を落とすこと。強いとされる名人に格下の挑戦者が駒を落として勝つ——という将来への決意表明でした。「大阪に行く」とは、当時升田は広島市にも名人がいるものと思っていて、これを破って名人のいる大阪に進出するという姿を頭に描いていたのでした。

広島市には名人はいなかったものの、ついで大阪に進出、木見金治郎九段に弟子入りします。ここで後輩弟子が、後に終生のライバルとなる大山康晴15世名人（1923-1992年）です。



1934（昭和9）年に初段となったのを皮切りにメキメキ頭角を表し、昭和22年8段、昭和33年9段となり、1979（昭和54）年引退しました。

生涯544勝371敗、勝率0.591、名人2期、9段2期、王将3期の輝かしい成績を残しています。

同門のライバル大山と覇権を争った20年間は升田・大山時代として二人がファンの人気を二分しました。升田の豪放に対し、大山の端正な雰囲気、棋風も升田の攻めに対し大山の受けと対照的でした。勝敗は96勝70敗で、大山の勝ちとなっています。

しかし、升田が大山に挑戦した昭和31年の王将戦で、升田が大山に香車を落として勝ちました。これは王将戦などでは、3勝差がつくと残りの試合は勝っている方が香車落ちと平手交互で戦うというルールに則ったものでした。

郷里を出奔する際に書き残した「名人に香車を引いて…」の言葉はおおよそ四半世紀ぶりに実現したのでした。ちなみに、名人に香車を引いて勝ったのは未だ升田だけだそうです。

升田は強いだけでなく新手の開発にも力を注ぎ、升田式石田流、雀刺し、棒銀などの戦法を編み出しています。

JR千駄ヶ谷駅に近い将棋界の総本山、将棋会館、将棋連盟の本部があります。この一階ロビーにあるのは大山の銅像です。戦後一時期連盟の関西本部長を務めた以外に会長などを経験しなかった升田に対し、大山は会長を務めています。ここにも升田の生き方がある意味で反映されているのかもしれませんが。

（やました・やすのり 東京広島県人会）

⑪

林芙美子記念館

緒方静子

「私は宿命的に放浪者である」代表作の『放浪記』（新版）の冒頭にこう記した作家の林芙美子は、13歳から当時の尾道市立高等女学校（現県立尾道東高校）を卒業するまで、多感な時代を尾道で過ごしました。

「海が見えた。海が見える。五年振りに見る尾道の海はなつかしい」『放浪記』の一節で美しい空と柔らかな瀬戸の海を持つ尾道をこのように表現しています。また初めての自伝的短編「風琴と魚の町」では、より詳しく芙美子の心の故郷であった尾道の風景が描かれています。

当時の市立尾道小学校（現市立土堂小学校）や市立高等女学校の教師たちから文才を認められた林芙美子は、18歳の時から地方新聞に詩や短歌を投稿するようになります。高等女学校を卒業した後は上京してさまざまな辛酸をなめながら作家として大成功し、膨大な著作を残してゆきます。

林芙美子は、晩年を当時の東京・下落合で暮らし、1939（昭和14）年には土地を購入して自らも積極的に建築に携わって広い自宅を建てました。この家は、現在新宿区立「林芙美子記念館」として保存、公開されています。生活する棟と画家であった夫の



林芙美子記念館

りよくびん
緑 敏のアトリエ棟を建てた林芙美子は、自ら建築の勉強を重ねたほか、設計者や作業員を連れて京都の民家、材木を見学に行くなど格別の思い入れを込めたということです。

この家は数寄屋造りの京風の特徴を備えています。暮らしやすさを考えて、客間よりも茶の間や風呂、台所など生活の場に費用をかけました。林芙美子は、当初納戸として作られた部屋を書斎として使い、執筆に集中しました。作品が仕上がると自分で部屋の掃除をし、普段は家族にも部屋の中のものに手を触れさせなかったということです。この部屋からは、半障子を通して庭の風景が見えます。この庭には芙美子が好きだった石榴や寒椿、かるみやなどの木々が植えられています。「風琴と魚の町」では、芙美子がモデルとされる主人公が住んでいた尾道の家に4~5本の石榴の木があり、「二階の縁の障子をあけると、その石榴の木と井戸が真下に見えた」と書かれています。今でも「石榴の家」と呼ばれるこの尾道の家の庭と、芙美子の自宅の庭の風景が重なって見えます。芙美子はこの家で暮らしながら、『うず潮』や『浮雲』『晚菊』などの名作を発表しますが、1951（昭和26）年6月28日に47歳で急逝し、新聞連載中だった『めし』が絶筆となりました。告別式は、川端康成が葬儀委員長となって自宅で執り行われ、近在の市民も大勢参加したということです。

（おがた・しずこ 東京広島県人会）



芙美子が愛用した書斎

〈番外編〉 広大生の孤独

千野信浩

大学卒業して3年、久しぶりに顔を合わせた広島大学の上京組同級生が5人、皆がみな映画を趣味としていました。私はいま50代半ば、つまり30年ちょっと前の話です。

その頃、映画が流行していたわけでもなく、5人が映画のサークル出身者だというわけでもありません。友達と出会う機会も余裕もない新社会人にとっては、映画が数少ない手軽な一人遊びの道具であり、その結果だったのです。

ただでさえ東京における広大生の影は薄い。30年前の就職事情はというと、大手民間企業は旧帝大と東京の有名私立大中心で、門戸すら開いていない企業がたくさんありました。東京に行くだけでも結構な労力が必要でした。広大生の就職意識も、公務員や主に西日本の地元回帰志向が強かったように思います。

要するに、上京組はいまよりも遙かに少数派で孤独だったのです。

「あなたのような地方の方がなぜ東京の会社に？」などというのは序の口、「わあ、ワタシ、田舎者って初めて見たあ」なんて失礼極まりないことを言われたことも一再ならずです。地方の人とは出身大学で決められるのだと、そのころ知りました。

群れようにも仲間がいない、孤独な広大生は大学の名前を口にするのも減り、一人でたくましく生きる社会人として育っていくしかなかったのです。

「人に頼らないたくましさ」、なにを大げさにとと思われるかもしれませんが、私が見る限り、ある年齢以上の広大生は他の有名大学卒業者とは明らかに違う、共通の空気をまとっています。それは多少ひねくれた誇りでもあります。

それから30年たって時代も状況も大きく変わってきました。通信や交通、経営手法などの革新によって、企業の採用は全国一円に広がっていきます。それにつれて、東京の広大生も増え、若い世代は屈託なく、社

会人としてのキャリアを積むようになりました。

そして広島大学が東京・田町に活動拠点を設けます。

これからの広大と広大生が、東京でどのような立ち位置を獲得していくのか、期待は大きくなるばかりです。ただひとつだけ、自分たちが味わった孤独を後輩たちには味わわせたくはない。自分たちのミッションはこれだ。

東京にも広大がある、広大生がいる、そして仲間になれる。

広島大学東京オフィスを拠点にして、2016（平成28）年11月から新しい同窓会組織、広島大学関東ネットワークが活動を開始しています。



（上）広大卒業生、勝手にカープ優勝祝賀会（2016年9月17日、銀座TAU）
（下）「新卒者と若手OBの懇談会～東京広大会 ハジメの一步～」
（2016年6月、広島大学東京オフィス）



目標はふたつだけ。

「後輩を助ける」「友達を作る」。

30年前の渴望の中身を、そのまま活動方針にしました。

（ちの・のぶひろ 広島大学総合科学部卒業生）

「オフィス短信」

広島大学東京オフィスはJR山手線の田町駅の芝浦口から徒歩2分のところにあります。広島大学は積極的に産学官連携を推進しており、東京オフィスは関東の窓口としての機能を持っています。共同研究や講演の依頼、技術相談、資料請求等、お気軽にスタッフにご相談ください。

また各種資料も取り揃えていますので、近くにおいでの際にはお立ち寄りください。お待ちしております。

広島大学東京オフィス所長
長谷川泰二

〒108-0023
東京都港区芝浦3-3-6（JR田町駅芝浦口徒歩2分）
キャンパスイノベーションセンター409号室
TEL：03-5440-9065
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/tokyo>



広島県 お国じまん

広島県統計協会調べ

*下段の「熊野筆」「仁方やすり」「瀬戸内レモン」「牡蠣」の解説は編集委員会が作成したものです。



けんみん文化祭ひろしま
「ブンカッキー」

全国1位の主な工業製品(出荷金額) 平成26年

やすり 5.8億円 全国シェア 70.9%	その他の綿広幅系染織物 107.9億円 全国シェア 66.5%	圧延機械,同附属装置 410.8億円 全国シェア 65.6%	その他の研削と石 212.1億円 全国シェア 63.0%
武器(賃加工) 19.5億円 全国シェア 56.9%	鋼製外国船舶の改造・修理 60.6億円 全国シェア 54.0%	携帯電話機, PHS電話機 2,236.2億円 全国シェア 52.1%	針・ピン・ホック・スナップ・同関連品(賃加工) 9.3億円 全国シェア 49.8%
天井走行クレーン 209.8億円 全国シェア 43.0%	印刷・製本・紙工機器の部分品・取付具・附属品 317.1億円 全国シェア 41.3%	工業用スポンジ製品 168.8億円 全国シェア 39.8%	プラスチック加工機械・同附属装置・同部分品・取付具・附属品(賃加工) 62.1億円 全国シェア 39.6%
紙工機械 155.9億円 全国シェア 35.3%	組立用装置 636.8億円 全国シェア 34.1%	織物製成人女子・少女用スカート・ズボン 79.5億円 全国シェア 33.8%	毛筆, 絵画用品(賃加工) 2.0億円 全国シェア 33.6%
毛筆, その他の絵画用品 43.8億円 全国シェア 32.3%	その他の酵母剤 121.7億円 全国シェア 31.8%	銅・同合金铸件(賃加工) 7.8億円 全国シェア 31.3%	遮断器 480.7億円 全国シェア 29.6%

資料：経済産業省「平成26年工業統計調査」

注1：従業者4人以上の事業所が対象。

注2：広島県の出荷額が秘匿の品目については、全国1位であっても除いている。平成26年は、この外に51品目が全国1位となった。

【熊野筆(くまのふで)】安芸郡熊野町で作られる熊野筆は、江戸時代、農閑期の収入源として、奈良から筆や墨を仕入れて売ったことが始まりです。その後、広島藩の御用筆司の指導や筑前博多、摂津や奈良から技術を導入し、本格的な筆づくりが根づきました。

戦後は毛筆の技法を生かした画筆や化粧筆によって新しい市場を開き、毛筆と共に熊野町の大きな支えになっています。

【仁方やすり(にがたやすり)】呉市仁方町とやすりの繋がり、江戸時代末期に村民が大坂でやすりの製造技術を習得したことによります。その後、やすり製造は農村鍛冶の副業として行われ、家内工業として発展しました。戦時中には、呉の陸・海軍工廠の指定工場となり、生産量が飛躍的に伸びました。

近年では、ヘルスケア用品の爪やすり・踵やすりなど、やすりの未来も広がっています。

全国的に生産順位の高い農水産物(収穫量・生産量・漁獲量) 平成25~27年

ネーブルオレンジ(25年) 2,948.0t 全国第1位 シェア40.1%	レモン(25年) 5,753.3t 全国第1位 シェア60.9%	秋植えばれいしょ(26年) 2,090t 全国第3位 シェア4.5%
ハルミ(25年) 1,957.1t 全国第1位 シェア32.6%	ハッサク(25年) 7,161.9t 全国第2位 シェア20.2%	くわい(26年) 168t 全国第1位 シェア55.8%
不知火(デコボン)(25年) 4,467.7t 全国第4位 シェア9.4%	みかん(27年) 31,700.0t 全国第7位 シェア4.1%	わけぎ(26年) 740t 全国第1位 シェア60.9%
たちうお(27年) 7百t 全国第3位 シェア9.9%	くろだい・へだい(27年) 3百t 全国第2位 シェア9.7%	鶏卵(27年) 131,796t 全国第4位 シェア5.2%
	かき類養殖(27年) 1,068百t 全国第1位 シェア65.1%	

注1：農産物とかき類は収穫量、鶏卵は生産量、たちうお、くろだい・へだいは漁獲量。
注2：みかんの収穫量及び鶏卵の生産量は第1報、たちうお、くろだい・へだいの漁獲量及びかき類の収穫量は概数。

資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」「作物統計調査」「地域特産野菜生産状況調査」「畜産物流通調査」「漁業・養殖業生産統計」

【瀬戸内レモン】広島県のレモン栽培は大崎下島大長村(現呉市豊町)が最初で、1898(明治31)年、和歌山から購入したネーブルの苗木に混入していたレモンの苗木を試植したのが始まりだそうです。

瀬戸内海の気候がレモン栽培に適していたことと、明治末期から大正にかけて価格が高騰したため大長村を中心に急激に普及し、1914(大正3)年には栽培面積11haになりました。その後、瀬戸田地区でも急速に栽培が増え、1963(昭和38)年には栽培面積70ha、生産量は全国の50%を占めるまでになりました。

ところが、昭和39年の「レモンの輸入自由化」と昭和51年・56年の寒波により広島県のレモン栽培は壊滅的な打撃を受けました。しかし、輸入レモンに防かび剤の使用が分かると、安全で新鮮な国産レモンが見直され、今日の隆盛に至っています。

【牡蠣(カキ)】広島湾一帯で縄文時代からカキが食べられていたことは、貝塚が証明してくれます。

カキ養殖がいつ頃始まったかは不明ですが、室町時代の末頃に安芸国で我が国最初の養殖法が考案されたとする説や、江戸時代のはじめ頃に、仁保村湖崎(現南区仁保)で従来の石蒔養殖に代わるひび建養殖法が開発されたなど、諸説があります。

その後1926(大正15)年に垂下養殖法が開発され、浜養殖から沖合養殖に転じました。戦後は、垂下式は杭打式から筏式へ移り、養殖場も広島湾から周辺海域へと拡大していき、全国有数の産地となりました。

カキ料理には、土手鍋、カキの殻焼き、カキフライなどがあり、いずれも冬の広島を代表する味覚です。

広島県の魅力再発見

金森貴哉・日谷潔

●歴史が教えてくれる観光スポット

広島「縮景園」は、2020（平成32）年に400周年を迎える日本有数の大名庭園です。

1620（元和6）年広島藩初代藩主浅野長晟^{ながあきら}の命により、武將茶人上田宗箇^{そうこ}が藩主別邸を作庭したものを起源とします。

大名庭園は江戸時代に最盛期を迎えますが、縮景園は現存する庭園の中でも、群馬の楽山園、香川の栗林公園と並ぶ最も古いもののひとつです。造営当時の名称は泉水屋敷。1758（宝暦8）年に京都から庭師清水七郎右衛門を呼び寄せ大改修を行い、1783（天明3）年に完成しました。その後大火をへて1940（昭和15）年に浅野家から広島県に寄付されたのち、県立美術館が建てられました。

県立美術館の場所にあった「観古館」は1913（大正2）年に縮景園内に建てられた個人美術館で、日本で最も古い私立美術館といわれる東京の大倉集古館（現在ホテルオークラ内）よりも4年早く作られていたこととなります。

その他にも広島県内には、多くの歴史的建造物があります。なかでも国宝に指定された建造物が七つもあるのを、ご存知でしょうか。

- 「厳島神社」（室町後期・廿日市市宮島町）
- 「向上寺三重塔」（室町中期・尾道市瀬戸田町）
- 「浄土寺多宝塔」（鎌倉後期・尾道市東久保町）
- 「浄土寺本堂」（鎌倉後期・尾道市東久保町）
- 「不動院金堂」（室町後期・広島市東区牛田新町）
- 「明王院五重塔」（室町前期・福山市草戸町）
- 「明王院本堂」（鎌倉後期・福山市草戸町）

いずれも鎌倉後期から室町後期にかけて作られた日本を代表する寺社です。原爆で焼失する前まで国宝だった広島城、伏見城の遺構が残る福山城、北前航路の風待ち港・御手洗（大崎下島）、竹原など、歴史的視野からの観光資源も期待されています。

（かなもり・たかや 東京広島県人会幹事長代理）

●海外の眼が教えてくれる新たな観光スポット

1996（平成8）年に世界文化遺産に登録をされた「原爆ドーム」や「厳島神社」は世界的に有名で、毎年、多くの外国人観光客が訪れています。

「平和宣言都市広島」は、第44代米国大統領バラク・オバマ氏の訪問によって、さらに世界の注目を集めるようになりました。広島を訪れる誰もが快適に生活できるようにする「ユニヴァーサルデザイン」のモデルとなる街への発展も期待されています。

さて、SNSの普及に加え、広島港（宇品・五日市）に海外からのクルーズ客船が寄港するようになった今日、意外な観光スポットが注目を集めるようになりました。

たとえば特別名勝「三段峡」は、フランスの「ブルーガイド」で最高格付けの「三ツ星」を獲得しました。また日本の棚田百選のひとつ「井仁^{いに}の棚田」（山県郡安芸太田町）は、アメリカCNN「Japan's 31 most beautiful places」に「厳島神社」とともに選定されました。毒ガスの記憶が残る大久野島は、「兎の島」としてSNSで紹介されると、海外から多くの外国人観光客が訪れるようになりました。

さらに、文化庁が認定をする「日本遺産」には、呉市が2016（平成28）年に「日本近代化の躍動を体感できるまち」として認定され、尾道市は2015（平成27）年に「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭都市」、2016（平成28）年に「“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島——よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶——」と、2年連続して認定されました。特に尾道は、サイクリストに人気第1位となる「しまなみ海道」の起点にあたり、海外からの訪問客でにぎわっています。

JR西日本が運行を開始した「TWILIGHT EXPRESS 瑞風 MIZUKAZE」も「宮島口駅」「尾道駅」に停車することも新たな話題です。

（ひだに・きよし 東京広島県人会）

一般社団法人

東京広島県人会 70年のあゆみ



【凡例】

年表の記事は、スペースの都合で以下のように略称（太字）にした。

知事：広島県知事／**全国高校駅伝**：全国高等学校駅伝競走／**選抜甲子園**：選抜高等学校野球大会／**夏の甲子園**：全国高等学校野球選手権大会／**サッカー天皇杯**：天皇杯全日本サッカー大会／**JSL**：日本サッカーリーグ／**バレーボール全日本**：バレーボール全日本実業団選手権／**黒鷲旗バレーボール**：黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会／**春高バレー**：全国高等学校バレーボール選抜優勝大会／**高校サッカー**：全国中等学校蹴球選手権大会（1925～1947年）全国高等学校蹴球選手権大会（1948～1965年）全国高等学校サッカー選手権大会（1966年～）

なお、各スポーツ大会で特に明示していない場合は、男子の大会である。

年表頁の「世界と日本の出来事」欄は、『脳を活性化する 自分史年表』（出窓社）を、また「広島県の出来事」欄は、『戦後五十年広島県政のあゆみ』（編集・発行：広島県、1996年3月発行）を参考にした。また、東京広島県人会の活動は、当時の会議議事録、懇親会の開催記録等を参考にした。

昭和20年
1945

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・13 三河地震（東海地方に大地震、死者2306人） 3・10 東京大空襲 （死者約10万人） 6・23 沖縄守備隊全滅 （牛島司令官自決） 8・6 B29広島に原爆投下（9日長崎に投下） 8・15 「終戦の詔」玉音放送（太平洋戦争終わる） 8・28 連合国総司令部（GHQ）横浜に設置 9・17 枕崎台風（死者・行方不明者3756人） 11・1 東京日比谷で飢餓対策国民大会開催 ◆内閣総理大臣：小磯国昭／鈴木貫太郎／東久邇宮稔彦王／幣原喜重郎	3・19 呉軍港空襲（7月29日まで6回の大規模空襲） 4・3 広島市で学童疎開が始まる 7・27 日立造船向島工場に空襲 8・6 広島市に原爆投下 （死者12.2万人） 8・8 福山大空襲（国宝福山城天守閣焼失） 9・17 枕崎台風（県内の死者・行方不明者2012人） 10・6 米占領軍輸送船団が広島湾入港（進駐開始） 12・8 「広島県戦災都市復興委員会」初会合 ◆知事（官選）：松村光磨／大塚惟精／高野源進／児玉九一／楠瀬常猪

昭和21年
1946

1・1 天皇「人間宣言」 2・25 新円発行（日銀、百円札、十円札を発行） 4・30 経済同友会発足 5・3 極東国際軍事裁判（東京裁判）が開廷 8・9 第1回国民体育大会夏季大会開催（～11）。 8・16 経済団体連合会発足 11・3 日本国憲法公布 （22年5月3日施行） 12・21 南海道大地震（M8.1、死者・行方不明1464人） ◆内閣総理大臣：幣原喜重郎／吉田茂① ○流行歌：リンゴの唄、悲しき竹笛、東京の花売り娘	1・— 広島復興局が開設される 2・1 英連邦占領軍先遣隊と海軍部隊、呉に入港 2・13 英連邦占領軍主力部隊、呉入港 3・7 広島県の占領業務は米軍から英連邦占領軍へ 4・1 旧呉海軍工廠跡に播磨造船呉船渠（ドック）開設 4・— 広島市の都市ガス再開 8・6 慈仙寺の鼻で、慰霊祭が行われる 10・— 広島市復興都市計画策定 ◆知事（官選）：楠瀬常猪 ○広島市の水道、7割まで復旧、人口17万人に回復
---	--

昭和22年
1947


1・30 GHQ全官公労ゼネストに中止命令 2・25 国鉄八高線で脱線転覆事故（死者184人） 4・1 6・3・3制スタート （国民学校は小学校へ） 5・3 日本国憲法施行 7・20 主食の運配は全国平均10日 8・14 浅間山が噴火（登山者20余人が死亡） 9・14 キャスリーン台風 （死者2247人） 11・25 第1回共同募金始まる ◆内閣総理大臣：吉田茂①／片山哲 ○流行歌：啼くな小鳩よ、夜霧のブルース、星の流れに	3・31 第一回広島県農地委員会開催 4・5 広島県知事に楠瀬常猪、広島市長に濱井信三当選 8・6 第一回広島平和祭・慰霊祭（慈仙寺の鼻）、濱井信三市長「平和宣言」を発表 10・1 臨時国勢調査（広島県の人口：201万1498人） 12・5 天皇が広島に巡幸 、大竹国立病院の被爆患者を見舞う。7日、県庁等を訪問 ◆知事（官選）：楠瀬常猪／武若時一郎／楠瀬常猪（初代公選知事） ○第26回高校サッカーで広島高師付中が優勝
---	--

昭和23年
1948

1・26 帝銀事件（帝銀推名町支店で行員12人が毒殺） 4・1 GHQ祝祭日の国旗掲揚を許可 4・1 新制高校（全日制・定時制）が発足 4・28 サマータイム制実施（1952年に廃止） 6・23 昭和電工事件（日野原社長が贈賄容疑で逮捕） 6・28 福井大地震（M7.3、死者3895人） 10・1 警視庁初の犯罪専用電話「110番」を開設 11・12 極東国際軍事裁判で戦犯25人に有罪判決 ◆内閣総理大臣：片山哲／芦田均／吉田茂② ○流行歌：東京ブギウギ、湯の町エレジー、異国の丘	1・1 広島港・呉港が軍港から貿易港へ 4・1 広島県立医科大学（旧制・呉市阿賀町）が開学 9・11 太田川放水路工事が再開 9・— 広島復興委員会（後広島建設委員会）設置 10・3 第1回広島県高等学校総合体育大会開催（～17） 10・13 ヘレン・ケラー来広（11年ぶり）、広島市戦災死没者供養塔と宮島を訪問（その後、長崎へ） ◆知事：楠瀬常猪 ○第27回高校サッカーで鯉城高校（旧広島一中、現国泰寺高校）優勝
---	--

*昭和22年8月6日の広島平和祭では、式典のほか市内各所で盆踊りや仮装行列なども催され、市民に希望を与えた。

東京広島県人会の活動

<p>●「東京広島県人会」再発足前夜</p> <p>東京の広島県人会がいつ発足したかは、記録がなく定かではないが、現存する昭和14年5月発行の『東京市広島県人会会員名簿』によると、広島県出身の役人と縁故者に限定した親睦会だった。</p>  <p>『東京市広島県人会会員名簿』（タテ110mm×ヨコ145mm、全22ページの小冊子）</p> <p>会則には「本会ハ東京市役所、区役所所属公所及ピ市立学校ニ奉職スルモノ並ニ東京都名誉職其ノ他関係アルモノニテ県出身者及縁故者ヲ以テ組織ス」とある。構成は、名誉会長は頼母木桂吉、会長谷川昇、名誉会員に丸山鶴吉、賀屋興宣ら15名、会員数300人強、会費は年50銭だった。</p> <p>東京広島県人会が再発足したのは、戦災の爪痕があらちらに残る昭和22年3月のことである。春季総会が有楽町の日本工業会で37名の出席で開催された。会費が一般と学生と分かれていることから、役人に限定した戦前の県人会とは異なり、広く一般に開かれた県人会といえる。現在の東京広島県人会は、この年を初年度として、2017年に70周年を迎えた。</p>	<p>3・22 東京広島県人会（以下県人会）春季大会（総会）日本工業会（有楽町）にて開催 主賓：池田勇人、谷川昇、伊藤隆二（欠） 出席者37名、会費：一般200円・学生100円</p> <p>7・27 大臣・両院議員・東京都知事の祝賀大会 日本工業会にて、出席者60名（発信300名）</p> <p>11・20 県人会秋季大会（総会） 日本工業会にて、出席62名（発信一千名）</p> <p>12・16 県人会理事会</p>
<p>1・10 県人会新春宴会 日本工業会にて、出席者67名（外手伝2名）（発信350名） *山田理事から赤飯150名分、ソギ箱・箸一式の寄付があった</p> <p>12・8 県人会秋季懇親会 出席88名（発信500名）</p>	

●もうひとつの『広島県人名簿』

東京市広島県人会が、広島県出身の役人に限定した親睦会だったのに対し、当時、東京に在住する広島県出身者を広く網羅した名簿が出版されていた。

『広島県人名簿 昭和十五年版』（発行・東京芸備社、発行人兼編集人・手島益雄、定価壱円）である。
 （*当時の物価：もりそば15銭、銭湯7銭）



掲載されている県人数は約2,100人、それぞれ氏名・現住所・電話・職業・出身地が記載されている。
 職業も政治家・官吏・教員・軍人・商工業者・画家・著述業など多岐にわたっている。

本書の「はしがき」によると、主に広島県関係の集会の案内状を出す折に重宝されていたようである。

主な県人としては、池田勇人（大蔵省事務官）、東谷傳次郎（会計検査院総務課長）、大妻コタカ（大妻高等女学校校長）、賀屋興宣（北支開発会社総裁）、谷川昇（東京市役所監査局区政課長）、頼母木桂吉（東京市長）、永野護（実業家）、長崎英造（旭石油株式会社社長）、山根泰二（「酔心」東京支店）、丸山鶴吉（貴族院議員）、富士川游（医学博士）、浅野長武（浅野家16代当主）、平櫛田中（彫刻家）、細田民樹（著述業）などの名前がある。

●県人会事務所の新設と変遷

1947（昭和22）年5月、県人会の事務所を芸備銀行（現広島銀行）伊藤豊副頭取の自宅（品川区上大崎5丁目）に置いた。

その後、昭和24年10月に文京区大原に移り、銀行の東京支店ができてからは、その宿舎で県人会の段取りを行い、鉄鋼ビルへ移ったという。なお、芸備銀行が行名変更して広島銀行となったのは昭和25年8月のことである。

昭和24年
1949

昭和25年
1950

昭和26年
1951

昭和27年
1952

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・26 法隆寺の金堂炎上 3・7 GHQ経済顧問ドッジが日本経済安定策を提示 7・5 下山事件 (下山定期国鉄総裁の行方不明・轢死体) 7・15 三鷹事件 (国鉄三鷹駅で無人電車暴走6人死亡) 8・17 松川事件 (東北線松川—金谷川間で列車転覆) 8・31 キティ台風 (死者135人) 10・1 中華人民共和国成立 11・3 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞 ◆内閣総理大臣：吉田茂②／吉田茂③ ○流行歌：青い山脈、長崎の鐘、銀座カンカン娘	4・1 広島市制60周年、開府360周年 4・— 広島女学院大学開設 (広島県内に本部を置く私立大学で最も早い新制大学) 5・31 国立広島大学発足 (国立学校設置法による) 6・23 第一回広島県美術展開催 7・14 原爆傷害調査委員会 (ABCC) 開所式 8・6 「広島平和記念都市建設法」公布 9・28 広島野球倶楽部設立、球団名「広島カープ」 ◆知事：楠瀬常猪 ○第29回サッカー天皇杯に東洋工業蹴球部初出場、第3位 (5-3日鉄二瀬)
1・7 聖徳太子像の1000円札発行 6・1 外食券なしで、米以外の主食販売が自由化 6・6 マッカーサー、共産党幹部24人の追放を指令 (レッドパージ) 6・25 朝鮮戦争勃発 7・2 国宝・金閣寺が寺僧の放火で全焼 8・10 警察予備隊設置 (自衛隊の前身) 10・13 公職追放解除 (追放された約20万人が復帰) ◆内閣総理大臣：吉田茂③ ○流行歌：夜来香、買物ブギ、東京キッド、あざみの歌	1・15 プロ野球球団「広島カープ」結成 4・1 県立広島女子短期大学、尾道市立短期大学開設 5・18 瀬戸内海国立公園に宮島を追加 (当初は備讃瀬戸のみだった) 6・28 呉市で旧軍港市転換法施行 6・— マツダ初の小型4輪トラックCA車発売 8・23 警察予備隊江田島学校開設 10・1 国勢調査実施 (広島県の人口：208万1967人) ◆知事：楠瀬常猪 ○広島市の人口は約29万人まで回復○第1回全国高校駅伝で世羅高校優勝
1・3 第1回NHK紅白歌合戦放送 4・2 五百円札発行。 4・11 マッカーサー連合軍最高司令官を罷免される 4・24 桜木町事件 (横浜桜木町駅で国電火災死者106人) 9・8 対日講和条約・日米安全保障条約調印 10・14 ルース台風 (死者・行方不明者約1万2000人) 10・25 日航第1号機「もく星号」就航 (東京・大阪間) ◆内閣総理大臣：吉田茂③ ○流行歌：上海帰りのリル、野球小僧、あの丘越えて	1・19 広島港・呉港・尾道糸崎港、重要港湾に指定 4・12 縮景園開園 (原爆による焼失から復旧) 5・— 中国電力株式会社設立 9・21 第6回国民体育大会 (広島国体) 開催 (夏季：9/21~9/24、秋季：10/27~10/31) *広島国体開催に合わせて仮設の広島城天守閣が建てられ、夜はライトアップされた。国体終了後解体された。 11・3 広島県立児童図書館閉館 ◆知事：大原博夫 ○第2回全国高校駅伝で世羅高校2連勝○田中茂樹が第55回ボストンマラソンで優勝
1・18 韓国、周辺海域に李承晩ラインの設定を宣言 4・1 琉球政府発足 4・9 日航「もく星号」大島三原山で遭難 4・28 サンフランシスコ講和条約発効 (日本の主権回復) 5・1 血のメーデー事件 (死者2人、負傷者2300人) 7・1 羽田空港返還 (東京国際空港としてスタート) 9・17 明神礁爆発 (伊豆諸島青ヶ島沖で海底火山爆発) ◆内閣総理大臣：吉田茂③／吉田茂④ ○流行歌：テネシーワルツ、リング追分、お祭マンボ	3・31 広島平和記念都市建設の特別都市計画決定 5・6 海上保安大学呉に編入後、初の入学式 8・6 原爆死没者慰霊碑除幕 (平和記念公園) 8・23 第一回広島県中学校総合体育大会開催 10・1 県内初の民放、ラジオ中国 (RCC) 開局 11・3 広島市で「世界連邦アジア会議」開催 11・22 厳島神社の彩絵繪扇・太刀が国宝に指定 ◆知事：大原博夫 ○第31回高校サッカーで修道高校初優勝○檜原静、第19回世界卓球選手権 (ボンベイ) で金メダル (日本人初)

*1952年10月5日RCC開局後、初めて広島カープの公式戦 (対大洋ホエールズ戦、広島県総合グランド野球場) がラジオ中継された。

東京広島県人会の活動
2・9 県人会理事会 (広島県東京出張所) 県人会春季懇親会の打ち合わせ 5・23 県人会理事会 (広島県東京出張所) 6・12 県人会春季懇親会 (羽澤ガーデン) 出席166名 主賓：池田勇人蔵相
1・29 広島県人会春季大会 (雅叙園) 以下、申し合わせ事項 1、当会を社団法人とする。1、当会を会費制とする。1、当会に会長制を設けること。 1、当会員の名簿を作成すること。 9・10 『広島県人名簿』 (広島県東京事務所発行) 刊行 *会員数999名 12・12 県人会世話人会 *長崎英造氏への初代会長要請が決まる 12・15 長崎英造氏に要請し快諾を得る
3・28 県人会世話人会 (広島県東京事務所) 総会について協議 4・21 県人会総会 (上野精養軒) 会費400円 「広島県人会規約」を制定し、初代会長に長崎英造就任 8・12 公職追放解除の祝賀会 (羽澤ガーデン) 出席116名 (公職追放解除者29名、役員67名、その他20名) ◆会長：長崎英造
1・10 県人会総会 (上野精養軒) 会費500円 (年会費200円を除く) *この年、広島県東京事務所沖野所長と安藤主事が、巣鴨拘置所横の外務省連絡の塚本氏と面談し、戦犯として巣鴨に拘置中の広島県人の慰問として県人会からの贈呈品を手渡す。贈呈品は、書籍、煙草、便箋、切手類などであった。 ◆会長：長崎英造

●戦後初の『広島県人名簿』発行

昭和25年9月に『広島県人名簿 昭和二十五年度』(発行所・広島県東京事務所) が刊行された。掲載人数は約千人。戦前の役人限定の名簿ではなく、広く一般に開かれたものになっている。判型や組体裁が酷似していることから東京芸備社の『広島県人名簿 昭和十五年版』を踏襲したものと思われる。



本名簿には東京芸備社版に加えて、沖野哲雄 (広島県東京事務所長)、河原崎國太郎 (俳優)、呉文炳 (日大総長)、佐藤守良 (永野護事務所)、砂原美智子 (声楽家)、角泰枝 (女優)、津田野敬一 (芸備協会常務理事)、道面豊信 (味の素社長)、永野重雄 (富士製鉄社長)、瀬尾弘吉、八田一郎 (日本アマレス協会会長)、藤田定一 (藤田組社長)、福原麟太郎、増岡登作 (増岡組社長)、宮澤弘、森戸辰男 (広島大学総長)、二葉あき子 (歌手)、若杉慧 (作家) などの名前が見える。

●『広島県人名簿』「はしがき」

このたびの戦争で、あとかたもなくなった東京の街々も、砲煙がおさまつて見ると、いつしかこの土地を愛し懐かしむ人々が帰って居て新しい都の建設にいそしんでおります。わたくし達もまたその中の一人であります、折にふれ想はれるのはわが國「広島」のことであります。五市、十六郡、廣ぼう八千四百四拾平方杆、人口二百四萬餘。漸く復興の實を結んでまいりました故郷の山河は、わたくしたちの胸に實にしっかりと畫かれております。こうした私達の思いは、いつしか解合い交を求めてその数は千餘人を超え、県人も回を重ねること而三度に及び、益々盛大になってまいりました。このたび、これを機会に広島県人名簿を上梓することになりました。幸いに諸の机邊に備えられ、その叱正を俟つて完璧を期したいと念願しております。

昭和二十五年 秋

●初代会長・長崎英造 (ながさき・えいそう)

在任期間：1951 (昭和26) 年4月~1953年4月 (急逝)



1881年、広島市堺町生まれ。大蔵省から鈴木商店。現日本化薬創業、広島大学設立委員長、吉田内閣経済顧問、日本証券投資協会会長、日経連顧問を歴任。会長就任時は、日本証券投資協会会長。

昭和28年
1953

昭和29年
1954

昭和30年
1955

昭和31年
1956

世界と日本の出来事	広島県の出来事
2・1 NHK東京地区でテレビ本放送開始 3・5 スターリン暴落 （ソ連首相の死去で株価大暴落） 4・27 阿蘇山大爆発 （修学旅行の高校生ら5人死亡） 6・13 内灘闘争 （米軍の内灘試験場無期限使用に反対し内灘村民坐り込み） 8・1 金15年ぶりに自由販売 9・15 日航機初めて国際線に就航 10・31 都内に赤色の委託公衆電話機（赤電話）登場 ◆内閣総理大臣：吉田茂④／吉田茂⑤ ○流行歌：君の名は、津軽のふるさと、石狩エレジー	3・31 尾道市の浄土寺本堂・多宝塔、福山市の明王院五重塔が国宝に指定 4・1 広島大学に大学院併置 5・1 因島市市制施行 8・1 広島大学医学部発足（県立医科大学一部移管） 11・14 県、原爆ドームを広島市へ譲渡 ◆知事：大原博夫 ○第32回高校サッカーで東千田高校初優勝（岸和田高校と両校優勝）
1・2 二重橋事件（新年参賀で二重橋が大混乱16人圧死） 2・22 テレビ受信契約1万突破 3・1 ビキニ水爆実験でマグロ漁船・第五福竜丸が被爆 （死の灰） 7・1 自衛隊発足 （防衛2法が施行） 9・26 洞爺丸遭難事故（台風で青函連絡船洞爺丸沈没、死者・行方不明1175人） 12・27 主婦連の“10円牛乳”発売 ◆内閣総理大臣：吉田茂⑤／鳩山一郎① ○流行歌：お富さん、岸壁の母、原爆許すまじ	3・31 三次市、松永市、府中市、庄原市市制施行 3・31 瀬戸内海観光博覧会（尾道市中心）開催 4・1 広島市平和記念公園完成 5・一 県立広島農業短期大学開設 8・6 広島平和記念聖堂完工 8・6 原水爆禁止広島平和大会開催（県議会・原子兵器禁止と被爆者援護を決議） 9・1 大竹市市制施行 ◆知事：大原博夫／大原博夫② ○来日中のジョー・ディマジオとマリリン・モンロー夫妻が来広
5・8 砂川基地闘争始まる（立川基地拡張反対運動） 6・1 初の「1円」アルミ貨発行 7・22 日本共産党が第6回全国協議会（六全協）開催 8・6 第1回原水爆禁止世界大会 8・一 森永ヒ素ミルク事件（27府県で死亡130人、患者1万2000人） 12・14 建設省全国で住宅270万8000戸不足と発表住宅難深刻 ◆内閣総理大臣：鳩山一郎①／鳩山一郎②／鳩山一郎③ ○流行歌：この世の花、別れの一本杉、カスバの女	5・30 広島平和記念館落成 6・22 厳島神社の金銅密教法具が国宝に指定 7・29 広島バスターミナル開業（一般バスターミナルとしては日本初） 8・6 第1回原水爆禁止世界大会、広島市で開催（海外代表35人を含む約2000人が参加） 8・24 広島平和記念資料館（原爆資料館）開館 10・1 国勢調査実施（広島県の人口：214万9044人） ◆知事：大原博夫②
3・19 日本住宅公団初の入居者募集 5・24 売春防止法公布（33年4月1日施行） 10・11 延暦寺火災（比叡山延暦寺の大講堂・鐘楼・木彫り仏像14体が焼失。原因は放火） 11・19 東海道本線的全線電化完成 12・12 日ソ国交回復 （日ソ共同宣言の批准書交換） 12・26 興安丸、ソ連からの最後の集団帰国者1025人を乗せ舞鶴に入港 ◆内閣総理大臣：鳩山一郎③／石橋湛山 ○流行歌：ここに幸あり、若いお巡りさん、哀愁列車	3・21 NHK広島放送局がテレビ放送を開始 4・21 広島県庁が基町に移転 9・11 広島原爆病院開院 *広島赤十字病院の構内に「被爆者の健康管理と疾病の診断と治療のため」開院。診療開始（20日） 11・22 英連邦軍撤退完了式（軍司令部） ◆知事：大原博夫② ○メルボルン五輪に長沼健・小沢通宏・下村幸男（サッカー）、田中敬子（女子体操）出場○全日本9人制バレーボール実業団選手権で帝人三原初優勝

東京広島県人会の活動
1・10 県人会総会（上野精養軒） 1・10 『在京広島縣人名簿』（広島縣人会発行）再刊 4・29 長崎英造会長急逝（永野重雄副会長が代行） 12・1 県人会常務理事会 29年度春季総会について *2代目会長に丸山鶴吉氏を推挙 *役員会（副会長以下）の「巣鴨県人慰問」前年に続いて書籍、煙草、便箋、切手類贈呈（在巣鴨拘置県人29名、11月14日現在） ◆会長：長崎英造／永野重雄代行
1・11 県人会役員会 1・15 県人会総会（上野精養軒）出席254名 来賓：大原博夫知事、大妻コタカ、平柳田中、東谷傳次郎ら 3・4 県人会懇親会（羽澤ガーデン） *丸山鶴吉会長就任祝い懇親会 3・30 尾道市主催「瀬戸内海観光博覧会」の後援決定 8・6 原爆犠牲者平和法要並びに追悼集会に供物 11・19 県人会常務理事会 ◆会長：丸山鶴吉
1・7 県人会役員会 1・10 県人会総会（上野精養軒） 来賓：大原博夫知事ら 1・26 県人会常務理事・監事会（虎ノ門晩翠軒） 5・10 松本俊一氏日ソ交渉特命全権任命歡送会 8・一 南カリフォルニア州広島県人会50人來日 *創立50年行事として來日した一行は、都内、皇居、日光、雅叙園（泊）、熱海、伊勢神宮、広島原爆慰霊塔参拝、厳島神社を巡り帰国した。 ◆会長：丸山鶴吉
1・10 県人会春季総会（上野精養軒） 丸山鶴吉氏が会長に再選 2・20 丸山鶴吉会長逝去（代行・永野重雄氏） 11・9 県人会常任理事会 12・18 県人会常務理事会（広島県東京事務所） *32年度春季総会で野村秀雄氏を会長に推挙 ◆会長：丸山鶴吉／永野重雄代行

●「広島県人会規約」

第一条 本會は広島県人会と称し、東京都内及びその近県在住の県人で組織する。
 第二条 本會は會員相互の親睦を図り、郷土広島と密接な連絡を保ちその発展に寄與する事を目的とする。
 第三条 本會は前条の目的を達成する爲左の事項を行う。
 一、諸集會の開催
 二、郷土発展に関する諸事業の援助
 三、広島県内各行政機関並びに事業団体との連絡
 四、県人名簿並びに會誌の発行
 五、其他の必要と認めたる事項
 第四条 本會に左の役員を置き、任期は二ケ年とする。但し重任を妨げない。
 會長 壹名 副會長 若干名
 常務理事 若干名 理事 若干名
 幹事 若干名 評議員 若干名
 第五条 會長及び副會長は總會に於て推挙する。常務理事、理事、幹事及び評議員は會長が委嘱する。
 第六条 本會に顧問を置く事ができる。顧問は會長の推薦による。
 第七条 毎年一回定例總會を開催し、必要あるときは臨時會を開催する。理事会及び評議員會は隨時これを開催する。
 第八条 本會の會費は年會費及臨時會費とする。
 第九条 本會の決算は監事の監査を経て總會に報告する。
 第十条 本會則は總會の決議を経て変更することができる。（『在京広島縣人名簿』昭和28年版より。*この昭和28年版から「広島県人会規約」が県人名簿に掲載されるようになった）

●第2代会長・丸山鶴吉（まるやま・つるきち）

在任期間：1954（昭和29）年1月～1956年2月（急逝）



1883年、沼隈郡松永村（現福山市松永町）生まれ。内務省から東京市助役、ジュネーブ海軍軍縮會議全権隨員、警視總監、宮城県知事を歴任。戦後、公職追放解除後に武蔵野美術大学学長。会長就任時は武蔵野美術大学学長。

●県人会、賀屋興宣氏らを巣鴨プリズンに見舞う

1955年（昭和30年）9月、東京裁判でA級戦犯として終身刑の判決を受け、巣鴨プリズンで服役していた賀屋興宣氏が仮釈放され、出所した。

県人会は賀屋氏をはじめ、服役していた広島県出身者に対する面会や切手、週刊誌などを差し入れる救援活動を行っていた。

昭和32年
1957

昭和33年
1958

昭和34年
1959

昭和35年
1960

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・29 南極予備観測隊オングル島に上陸「昭和基地」開設 1・30 ジラード事件（群馬県相馬ヶ原の米軍射撃場で米兵が農婦を射殺） 3・8 日本が国際連合に加盟 8・27 東海村原子力研究所で初の“原子の火”ともる 10・1 5000円札新登場（12・11、100円硬貨発行） 10・4 初の人工衛星（ソ連「スプートニク1号」） ◆内閣総理大臣：石橋湛山／岸信介① ○流行歌：東京のバスガール、チャンチキおけさ	3・31 「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」公布 被爆者健康手帳交付を開始（施行は4・1） 4・12 第五北川丸、三原沖で沈没（定員の3倍の乗客） 7・22 広島市民球場 完成（24日、初ナイター） 10・9 インドのネルー首相が来広。広島平和記念公園で開かれた市民歓迎集会に出席し、慰霊碑に花束を供え、原爆犠牲者の冥福を祈った。 10・20 広島城天守閣再建工事開始 ◆知事：大原博夫② ○第39回夏の甲子園で広島商業高校優勝
3・9 海底トンネル「関門国道トンネル」開通 6・24 阿蘇山大爆発（死者12人） 9・26 狩野川台風（狩野川の氾濫で関東地方が被災。死者・行方不明1269人、負傷者1138人） 11・1 東海道線ビジネス特急「こだま」運転開始 12・1 1万円札登場 （表・聖徳太子、裏・彩紋） 12・23 東京タワー完工 、高さ333mで世界一 ◆内閣総理大臣：岸信介①／岸信介② ○流行歌：花笠道中、有楽町で逢いましょう、からたち日記	2・8 不動院金堂（広島市）、向上寺三重塔（瀬戸田町）国宝に指定 3・26 広島城天守閣の復元工事完了（工期5ヶ月） 4・1 広島復興大博覧会開幕（～5月20日、入場者数は約87万人） 5・5 原爆の子の像、除幕式（平和公園） 6・20 原水爆禁止を訴える初の平和行進出発（広島・東京） 11・3 竹原市市制施行 ◆知事：大原博夫②／大原博夫③
1・1 メートル法、新国民健康保険法施行 1・14 第3次南極観測隊昭和基地着（カラフト犬の太郎・次郎の生存確認） 4・10 皇太子・美智子妃結婚 4・16 国民年金法公布（11月1日施行） 9・26 伊勢湾台風 （死者・行方不明5098人） 11・2 水俣病問題深刻化（漁民1500人と警官隊衝突） 11・19 三池争議始まる（三井鉱山指名解雇強行） ◆内閣総理大臣：岸信介② ○流行歌：南国土佐を後にして、古城、黒い花びら	3・18 広島県議会、平和県に関する宣言を決議 4・1 ラジオ中国がテレビ放送開始 5・21 県立宮島水族館完成 11・9 呉市広町の旧第11航空廠跡地の一部を呉市・近畿大学・中国工業へ払い下げ決定 ◆知事：大原博夫③ ○第10回高校駅伝で西条農業高校 初優勝
1・12 貿易・為替自由化の基本方針決定 5・19 自民党、新安保条約を衆院で単独強行採決 5・24 チリ沖地震で津波襲来（死者139人） 6・15 安保条約反対闘争 （東大生・樺美智子死亡） 6・23 新安保条約発効 9・10 NHKと民放4局カラーテレビ本放送開始 10・12 浅沼社会党委員長刺殺 （3党首立ち会い演説会で、17歳の右翼少年が刺殺） ◆内閣総理大臣：岸信介②／池田勇人①／池田勇人② ○流行歌：誰よりも君を愛す、潮来笠、ダンチョネ節	3・4 広島港新設1万トンパスに大型船初接岸 4・1 広島商科大学（現・広島修道大学）開設 4・8 広島県立図書館、新館開館（広島市上流川町、現広島市中区上職町） 8・6 県・広島市合同の平和記念慰霊式典挙行 10・1 国勢調査実施（広島県の人口：218万4043人） ◆知事：大原博夫③ ○ローマ五輪に池田敬子（女子体操）、木原征治（ホッケー）出場 ○松永塩田の廃田式が行われる（廃止前は産出量2万2,000t、総面積128ha）

東京広島県人会の活動
1・10 県人会春季総会（上野精養軒） 第3代会長に野村秀雄氏就任 ＊永野護副会長の渡米壮行会を兼ねる 2・5 県人会役員会 ＊東谷傳次郎常務理事渡欧壮行会 8・3 原爆追悼会（築地本願寺） 12・6 県人会役員会 ◆会長：野村秀雄
1・26 県人会役員会 2・4 県人会役員会 ＊野村秀雄会長の第8代NHK会長就任祝い（出席265名） 3・25 『広島懸人会役員名簿』発行 12・16 県人会役員会（広島県東京事務所） ◆会長：野村秀雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒） 第4代会長に東谷傳次郎就任 『県人名簿』2000部作成 8・10 原爆慰霊祭（浅草観音寺） 12・16 県人会役員会 ◆会長：野村秀雄／東谷傳次郎
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席233名 2・15 臨時県人会（赤坂千代新） ＊大原博夫知事を招待 7・27 県人会役員会（築地新小松） ＊池田勇人、首相就任祝賀会を兼ねる 8・21 池田勇人首相へ記念品贈呈（京人形） 12・12 県人会役員会（広島県東京事務所） ＊36年度春季総会について。収支報告。 ◆会長：東谷傳次郎

●第3代会長・野村秀雄（のむら・ひでお）

在任期間：1957（昭和32）年1月～1959年1月



1888年、双三郡原村（現三次市）生まれ。中央新聞、国民新聞、朝日新聞編集局長、熊本日日新聞社長を経て第8代NHK会長。会長就任時は、熊本日日新聞社長を辞した後である。

●『広島懸人会役員名簿』刊行

1958（昭和33）年3月には『広島懸人名簿』と同じ体裁で、役員名簿が出版されている。

これによると、会長・野村秀雄、副会長・桜田武、永野重雄、顧問・浅野長武、阿倍正直、常務理事・内海丁三以下10名、理事・池田勇人以下29名、幹事・伊藤豊以下5名、評議員・阿部豊以下209名となっている。いずれも政財界、官界、法曹界、教育界、言論界などの錚々たる顔ぶれである。

その他、理事の瀬越憲作（棋士）、児玉希望（日本画家）、評議員の井伏鱒二（作家）、大谷冽子（声楽家）、杉村春子（女優）、砂原美智子（声楽家）、千葉早智子（女優）、平柳田中（彫刻家）、福原麟太郎（英文学者）、二葉あき子（歌手）、細田民樹（作家）、湊邦三（作家）、名井万亀（洋画家）、山脇敏子（山脇服飾美術学院院長）などの名前もある。

●第4代会長・東谷傳次郎（とうたに・でんじろう）

在任期間：1959（昭和34）年1月～1969年1月



1894年、安佐郡福木村（現広島市）生まれ。会計検査院長、芸備協会理事長、飯能ゴルフクラブ初代理事長。就任時は会計検査院院長。

昭和36年
1961

昭和37年
1962

昭和38年
1963

昭和39年
1964

世界と日本の出来事	広島県の出来事
6・21 小児マヒ患者1月以来1000人を突破 7・31 日本最古の市電京都北野線の“チンチン電車”廃止 8・13 ベルリンの壁 （東ドイツ政府、西ベルリンへの通路を封鎖） 9・16 第2室戸台風（死者・行方不明202人） 10・25 九州、四国、関西各地で豪雨被害（大分市の電車生埋め事故など死者109人） ◆内閣総理大臣：池田勇人② ○流行歌：君恋し、上を向いて歩こう、ソーラン渡り鳥	4・1 広島大学に原爆放射能医学研究所を設置 4・25 広島原爆被爆者福祉センター落成 9・15 広島空港（西区観音地区）開港 10・1 国鉄山陽本線、倉敷・三原間が電化 10・7 福山臨海工業地帯建設局設置 10・16 日本鋼管福山製鉄所立地決定調印 12・4 音戸大橋（呉市・倉橋島）開通 ◆知事：大原博夫③ ○第40回高校サッカーで修道高校優勝（2度目）
2・1 東京都世界初の1000万都市に 5・3 三河島事故 （常磐線で列車二重衝突、死者160人） 5・17 サリドマイド系睡眠薬、薬禍問題で出荷中止 6・10 日本最長の北陸トンネル開通（1万3869m） 8・13 堀江謙一ヨットで太平洋単独横断に成功 8・24 三宅島噴火（伊豆七島の三宅島の雄山が大噴火） 10・22 キューバ危機 （ミサイル発射基地建設をめぐる米ソの緊張、核戦争危機） ◆内閣総理大臣：池田勇人② ○流行歌：いつでも夢を、王将、可愛いベイビー	6・2 県立体育館開館 6・10 山陽本線、三原・広島間が電化 8・6 広島で原水禁国民大会開催 9・1 広島テレビ放送開局（日本テレビ放送網系・フジテレビジョン系のクロスネット局として開局） 10・1 山陽本線、広島・小郡間が電化 ◆知事：大原博夫③／永野厳雄 ○全国実業団バレーボールリーグで帝人三原初優勝○東洋工業蹴球部が国民体育大会優勝、全国実業団優勝
1・23 北陸地方に豪雪（死者・行方不明84人） 2・28 “昭和の巖窟王”吉田石松に無罪判決 5・1 狭山事件 （埼玉県狭山市の女子高生が誘拐殺人） 6・5 関西電力黒部川第4発電所（黒四ダム）完工 7・15 名神高速道路（尼崎・栗東）開通 11・9 国鉄鶴見事故（電車二重衝突、死者161人） 11・9 三井三池炭鉱爆発事故 （死者・重軽傷者1297人） 11・23 ケネディ大統領暗殺 ◆内閣総理大臣：池田勇人②／池田勇人③ ○流行歌：こんにちは赤ちゃん、高校三年生	1・一 県北で豪雪被害（死者7人・負傷者22人） 4・1 福山港が重要港湾に指定 4・1 広島工業大学、エリザベト音楽大学開設 5・9 竹原市で第二回科学者京都会議開催（第2回科学者京都会議声明を発表） 7・1 大久野島・国民休暇村オープン（県内初） 7・12 備後地区、工業整備特別地域に指定 9・1 広島・東京間直通航空便就航 11・14 日本鋼管福山製鉄所起工式 ◆知事：永野厳雄
4・1 海外旅行完全自由化（観光旅行いつでもOK） 6・16 新潟地震（M7.5、死者26人、負傷者447人） 8・2 ベトナム戦争始まる （トンキン湾事件） 9・17 東京モノレール開業（浜松町ー羽田間13.1km） 10・1 東海遺新幹線開業（東京ー新大阪） 10・10 第18回オリンピック東京大会開幕 （～10・24） 11・12 米原潜シードラゴン号佐世保入港反対デモ ◆内閣総理大臣：池田勇人③／佐藤栄作① ○流行歌：愛と死を見つめて、東京五輪音頭、夜明けのうた	1・25 財団法人広島県開発公社設立 4・1 呉工業高等専門学校開校 4・一 第1回広島県身体障害者スポーツ大会開催 5・26 明王院本堂（福山市）国宝に指定 7・13 県の鳥に「アビ」を指定 ◆知事：永野厳雄 ○東京五輪で、中谷雄英（柔道）、藤本佑子（バレーボール女子）金メダル、猫田勝敏・森山輝久（バレーボール男子）、池田敬子・相原俊子（体操女子団体）銅メダル、木原征治（ホッケー）出場○第15回高校駅伝で盈進高校初優勝

東京広島県人会の活動
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席320名 来賓：池田勇人首相、大原博夫知事 2・5 県人会常務理事会（築地新小松） ＊婦人入会推進について提言 9・30 35年度収支報告（広島空港開所式花輪代、広島女子郷友会への補助金など） 10・5 県人会役員会（化学工業会館） ＊会員数2,915名（9月30日現在） 12・12 県人会役員会（広島県東京事務所） ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席350名 来賓：池田勇人首相、大原博夫知事、灘尾弘吉厚生大臣 映画「ひろしま」上映 6・20 永野厳雄広島県知事就任祝（築地新小松） 12・6 県人会役員会（ホテルオークラ） ＊会員数2,050名（11月30日現在） ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席380名 2・18 県人会役員会（東急国際ホテル） ＊広島県北部地帯の豪雪被害、お見舞い電報 10・15 県人会役員会（築地新小松） 12・4 県人会役員会（広島県東京事務所） ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席359名 来賓：池田勇人首相、賀屋興宣法相、灘尾弘吉文相、宮澤喜一経企庁長官、永野厳雄知事ら 2・7 県人会役員会 6・一 東谷傳次郎会長宛に「平和の灯」建設基金の要請 6・20 野村秀雄前会長逝去 11・27 県人会役員会 40年度春季総会について ◆会長：東谷傳次郎

●東京広島県人会と広島県東京事務所

東京広島県人会の活動拠点がいつ頃から広島県東京事務所に置かれるようになったかは定かでない。しかし、昭和28年度版の『在京広島県人名簿』には、発行所：千代田区霞ヶ関3-4広島県東京事務所内・広島県人会と印刷されていることから、初代会長が選ばれ、「広島県人会規約」が制定された昭和26年頃からと推定される。

以後、東京広島県人会は広島県東京事務所の協力を得ながら、今日まで活動を続けている。

●広島県東京事務所の変遷

1948（昭和23）年

2月 東京連絡所を設置。目黒区中目黒3丁目。
 ＊国立広島総合大学設立事務所と併設。
 中央区日本橋通3丁目2番地山巴ビルに移転。

9月 名称を広島県東京出張所に改称。

11月 事務所を千代田区霞ヶ関 3-4 日本化学工業会館2階に移転。

1950（昭和25）年

1月 名称を広島県東京事務所に改称

1960（昭和35）年

11月 事務所を港区麻布市兵衛町1-3の仮事務所に移転。＊日本化学工業会館を東京倶楽部ビルとして新築のため。

1964（昭和39）年

10月 事務所を千代田区霞ヶ関 3-4 東京倶楽部ビル5階に移転。

1967（昭和42）年

4月 国際観光会館にあった広島県物産東京事務所を廃止し東京事務所に統合。

1990（平成2）年

4月 国際観光会館内の事務室を改装し、東京情報センターとして使用。

1993（平成5）年

10月 事務所を東京倶楽部ビル5階から2階へ移転。

2005（平成17）年

2月 事務所を所在地（港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー22階）に移転。

●県人会総会のにぎわい

1963（昭和28）年の県人会総会は、前年発足した池田第2次改造内閣と広島県知事の就任祝い、文化勲章受賞祝いを兼ねて行われた。来賓：池田勇人首相、重政誠之農林大臣、重政庸徳参議院副議長、賀屋興宣自民党政調会長、名川保男国家公安委員、宮澤喜一経済企画庁長官、永野厳雄（広島県知事）、平櫛田中（文化勲章受章）

昭和40年
1965

昭和41年
1966

昭和42年
1967

昭和43年
1968

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・11 初のスモッグ警報（東京で日本初の警報発令） 3・6 山陽特殊製鋼倒産、戦後最大の倒産 5・28 大蔵省・日銀一証券へ異例の無担保無制限融資を決定 6・22 日韓基本条約と関係4協定調印 7・27 静岡県登呂遺跡で弥生時代の水田跡発見 10・21 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞 11・19 政府不況対策に国債発行（戦後初の赤字国債） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作① ○流行歌：柔、学生時代、新聞少年、まつのき小唄	2・27 備後地区工業整備特別地域整備基本計画承認 4・1 広島女子大学開学 5・14 太田川放水路（祇園・大芝水門完成）通水 8・13 池田勇人前総理死去（享年65） 8・23 池田勇人前総理県民葬（竹原市吉名町） 12・12 草戸千軒町遺跡（福山市）の本格発掘調査開始 ◆知事：永野厳雄 ○第45回サッカー天皇杯で東洋工業優勝○第1回JSLで東洋工業初優勝○鶴岡一人、野球殿堂入り
2・4 全日空ボーイング727羽田沖に墜落 3・4 カナダ航空DC8羽田空港の防潮堤に衝突炎上 3・5 BOACボーイング707富士山上空で空中分解 6・30 ザ・ビートルズ来日 （エレキプーム最高潮） 8・5 田中彰治事件（国際興業の小佐野賢治会長を恐喝） 11・13 全日空YS11松山空港沖へ墜落（50人全員死亡） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作①（自由民主党） ○流行歌：霧氷、悲しい酒、函館の女、バラが咲いた	4・— 広島文教女子大学、安田女子大学開設 4・1 福山港、国際港として開港 5・1 福山市・松永市が合併し福山市となる（中国地方初の市同士の合併） 8・26 日本鋼管福山製鉄所操業開始 9・12 県の木に「もみじ」選定 11・15 福山城天守閣・伏見御殿御湯殿・月見櫓の再建完成 12・20 新広島バイパス（海田町大正から観音）開通 ◆県知事：永野厳雄／永野厳雄② ○東洋工業JSL優勝
2・11 初の建国記念日 4・15 東京都知事に美濃部亮吉当選 （革新都政誕生） 4・— イタイイタイ病・阿賀野川水銀中毒事件の原因工場廃水 8・8 米軍タンク車衝突炎上事故（新宿駅構内） 9・1 四日市ぜんそく患者初の大气汚染公害訴訟 10・8 第1次羽田闘争（首相の東南アジア訪問阻止闘争） 11・12 第2次羽田闘争（全学連と警官隊が衝突） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作①／佐藤栄作② ○流行歌：ブルーシャトウ、小指の思い出、銀色の道	4・1 広島経済大学、広島電機大学開校 5・— マツダ、初のロータリーエンジン搭載車コスモスポーツ発表 6・1 自動車のナンバープレートに福山ナンバー登場 7・8 呉市等沿岸部豪雨災害（死者159人） 8・5 原爆ドーム保存工事完工 *太田川放水路完成（山手川拡幅・福島川埋め立て） ◆県知事：永野厳雄② ○第46回高校サッカーで山陽高校初優勝○第47回サッカー天皇杯・JSL東洋工業が優勝○第12回全日本実業団駅伝で電電中国が初優勝
1・19 米原子力空母エンダプライズの入港反対運動 5・16 十勝沖地震（死者48人、重軽傷者671人） 6・26 小笠原復帰 （小笠原諸島が東京都小笠原村に） 8・8 日本初の心臓移植手術（札幌医大の和田教授） 8・18 飛騨川バス転落事故 10・17 川端康成ノーベル文学賞受賞 10・21 新宿騒乱事件 （全学連学生らが新宿駅に放火） 12・10 三億円事件 （ニセ白バイ警官に3億円を奪われる） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作② ○流行歌：天使の誘惑、星影のワルツ、受験生ブルース	3・4 尾道大橋（尾道市・向島）開通 4・1 広島県史編纂事業開始（昭和59年終了） 4・20 広島平和記念公園で原爆死没者名簿初公開 7・16 県章制定 9・21 広島県立美術館開館 ◆知事：永野厳雄② ○メキシコ五輪で、猫田勝敏（バレーボール男子）銀メダル、小城得達・桑原榮之・宮本輝紀・森孝慈・渡辺正（サッカー）銅メダル、石田義久（ハンマー投）、早稲田昇・田口信教（水泳）出場○東洋工業JSL優勝（4連覇、JSL最高記録）

東京広島県人会の活動
1・10 県人会総会（上野精養軒）出席281人（案内状1,648通、出席回答355人） 2・11 県人会役員会（築地新小松）40年総会の結果報告 8・13 池田勇人前首相の逝去に伴い献花 8・23 池田勇人前総理の県民葬へ供花 10・26 県人会役員会 11・30 『県人会名簿』発注 12・2 県人会役員会（築地新小松） ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会総会（上野精養軒）出席341人 3・8 県人会役員会（広島県東京事務所）41年度総会報告ほか 5・20 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン）永野厳雄知事ら出席68人 5・25 広島県女子郷友会を支援 10・26 県人会役員会（築地新小松） 11・2 県人会役員会（築地新小松）42年度総会の運営と役員改選について ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会総会（上野精養軒）出席277人 5・16 理事・監事評議員懇親会（羽澤ガーデン）出席66人 来賓：灘尾文相、宮澤経企庁長官、永野知事ら 5・27 広島県女子郷友会総会に県人会から賛助金支出 11・2 県人会役員会（築地新小松） *役員会費を常務理事・監事と理事・評議員の二本立てとすることが決算報告で決定 12・11 県人会役員会（広島県東京事務所） ◆会長：東谷傳次郎
1・10 県人会総会（上野精養軒）出席者363人 会費一人1400円、年会費300円 3・8 県人会役員会（築地新小松）総会結果報告など 5・8 県人会理事監事評議員懇親会（羽澤ガーデン）会費一人1200円 12・10 県人会役員会（商工会館） *新会長に永野重雄氏、東谷会長の顧問案決まる 44年度総会について（総会会費一人1500円に） ◆会長：東谷傳次郎

●広島県女子郷友会

広島県女子郷友会は、遠く広島県から上京して学ぶ女子学生の支援を目的に作られた支援団体で、その歴史は古く明治30年まで溯る。

女子郷友会が総会を開催するにあたり、県人会が支援するようになったのは、記録上は昭和35年からである。昭和42年5月には、女子郷友会代表世話人の大妻コタカ、藤井とら両氏の要請で、県人会から3万円の賛助金を支出している。

また、昭和44年5月には女子郷友会世話人代表内海丁三氏から例年通りの支援を願う陳述書が届いている。

●広島県出身の文化勲章受賞者（その1）

受賞年1944年

高橋順次郎（たかくす・じゅんじろう）

東京帝国大学名誉教授 仏教学 インド哲学
 出身：御調郡八幡村（現三原市）

受賞年1955年

増本量（ますもと・はかる）

東北大学名誉教授 金属学
 出身：安芸郡矢賀村（現広島市東区矢賀町）

受賞年1962年

平櫛田中（ひらくし・でんちゅう）

東京藝大名誉教授 彫刻家
 出身：岡山県後月郡（現井原市）
 *平櫛田中は、岡山県後月郡（現井原市）に生まれ、幼少期に広島県沼隈郡今津村（現福山市今津町）の平櫛家の養子になった。広島県人会の初期からの会員であり、文化勲章受章の祝賀も広島県人会で行っていることから、ここに記載した。

受賞年1966年

井伏鱒二（いぶせ・ますじ）

小説家
 出身：安那郡賀茂村（現福山市）

昭和44年
1969

昭和45年
1970

昭和46年
1971

昭和47年
1972

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・18 東大安田講堂の封鎖解除に機動隊導入 4・7 連続ピストル事件の容疑者永山則夫を逮捕 5・26 東名高速道路全線開通 6・28 新宿西口地下広場事件 7・21 人類初の月面着陸（米宇宙船アポロ11号） 10・21 国際反戦デー（反共産党系学生のゲリラ活動で1,505人逮捕） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作②（自由民主党） ○流行歌：いいじゃないの幸せなら、夜明けのスカット、港町ブルース	1・10 西中国山地、国定公園指定 1・23 大気汚染で初の緊急警報発令。福山市7か所で大気汚染調査 3・1 東広島駅（貨物駅、現広島貨物ターミナル駅）開業 7・27 本郷線（現可部線）加計・三段峡間開通 10・6 第1回広島県芸術祭（広島青少年センター） ◆知事：永野厳雄② ○第49回サッカー天皇杯で東洋工業優勝○第14回全日本実業団駅伝で東洋工業初優勝○田部武雄、野球殿堂入り
3・14 日本万国博開幕（77ヵ国参加） 3・31 日航「よど号」事件（赤軍派がハイジャック） 4・8 大阪市天六の地下鉄工事現場でガス爆発事故 8・2 歩行者天国（銀座・新宿・池袋・浅草） 11・14 東京で初のウーマン・リブ大会 11・25 三島事件（東京市ヶ谷の自衛隊に乱入の三島由起夫ら2人割腹自殺） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作②／佐藤栄作③ ○流行歌：今日でお別れ、希望、知床旅情、白い蝶のサンバ	1・4 広島湾の公害調査（汚染度は4年前の10倍） 6・1 公害紛争処理法公布 10・1 国勢調査実施、広島県の人口：243万6135人 10・1 国鉄呉線の電化完成 10・11 県立産業館開館 12・1 広島ホームテレビ開局 ◆知事：永野厳雄②／永野厳雄③ ○第15回全日本実業団駅伝で電電中国優勝（2回目）○東洋工業JSL優勝（5度目JSL最高優勝回数記録）
2・22 成田空港建設工事で第1回強制代執行 6・5 東京新宿に京王プラザホテル開業 7・3 東亜国内航YS-11「ばんだい号」墜落事故 7・30 岩手県雫石上空で全日空機と自衛隊機が衝突 9・27 天皇・皇后ヨーロッパ7ヵ国親善訪問の旅へ 12・20 ドルショック（初の円切上げ1ドル308円に、円の変動相場制へ） 12・24 クリスマス・ツリー爆弾が爆発 ◆内閣総理大臣：佐藤栄作③ ○流行歌：また逢う日まで、花嫁、わたしの城下町	4・1 竹原港、貿易港として開港 4・16 昭和天皇・皇后、初原爆死没者慰霊碑参拝 4・27 呉市林野火災（346haの焼失、消防士18人死亡） 7・17 比婆山山麓に県民の森オープン 8・6 佐藤栄作首相平和祈念式典参列（歴代首相初） ◆知事：永野厳雄③ ○第16回全日本実業団駅伝で東洋工業優勝（2回目）○東洋工業蹴球部が「東洋工業サッカー部」に改称
1・14 元日本兵の横井庄一グアム島で発見 2・19 浅間山荘事件（連合赤軍5人軽井沢の山荘に人質と籠城） 3・7 連合赤軍の妙義山中大量リンチ事件発覚 3・26 奈良県の高松塚古墳発掘で極彩色の壁画を発見 5・13 大阪の千日デパートビル火災（118人死亡） 5・15 沖縄施政権返還、沖縄県発足 9・29 日中国交正常化（パンダブーム） ◆内閣総理大臣：佐藤栄作③／田中角栄①／田中角栄② ○流行歌：喝采、瀬戸の花嫁、結婚しようよ、岸壁の母	2・18 広島大学学長、無期限ストに機動隊導入要請 4・— 沖野島大橋（能美島・沖野島）開通 7・9 県北一帯に豪雨（死者35人、全壊家屋349戸） 7・27 高根大橋（生口島・高根島）開通 9・— 広島交響楽団誕生（県内初のプロ楽団） ◆知事：永野厳雄③ ○ミュンヘン五輪で田口信教（100m平泳ぎ）、川口孝夫（柔道）、猫田勝敏・西本哲雄（バレーボール男子）金メダル、田口信教（男子200m平泳）銅メダル、石田義久（ハンマー投）、友永義治（陸上400m）、采谷義秋（男子マラソン）出場○第3回春高バレーで 崇徳高校初優勝○第23回高校駅伝で世羅高校優勝（21年ぶり3回目）○石本秀一、野球殿堂入り

東京広島県人会の活動
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席298人 来賓：永野厳雄知事、福原麟太郎氏ら 新会長人事が承認された 3・6 県人会役員会（広島県東京事務所） 5・8 県人会理事監事評議員懇親会（羽澤ガーデン） 5・12 広島県女子郷友会から賛助金の要請 ◆会長：東谷傳次郎／永野重雄
1・10 県人会総会（上野精養軒）出席298名 来賓：熊野逸馬県議会副議長（代理出席）ら 3・10 県人会役員会（築地新小松） ＊杉村春子（理事）主演、文学座と俳優座提携公演「冬の花—ひろしまの心—」の支援 5・15 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン）出席58名 来賓：永野厳雄知事ら 6・20 広島女子郷友会総会に賛助金 11・24 県人会役員会 ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席306名 「平和記念都市ひろしま」「秋の中国路」上映 6・4 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） 来賓：永野厳雄知事ら 10・27 広島県立図書館長から県人名簿の寄贈要請 12・1 県人会役員会（広島県東京事務所） 47年度総会運営について ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席274名 来賓：永野厳雄知事、西田修一県議会議長、森戸辰男氏ら 「四季のひろしま」「みどりゆたかに」上映 5・10 広島県女子郷友会に賛助金 5・30 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） 来賓：萩原幸雄副知事ら 11・28 県人会役員会（広島県東京事務所） 48年度総会、県人名簿発刊、役員委嘱など ◆会長：永野重雄

●第5代会長・永野重雄（ながの・しげお）

在任期間：1969（昭和44）年1月～1984年5月（逝去）



1900年島根県松江市生まれ。広島市育ち。富士製鉄社長、日商会頭、日本鉄鋼連盟会長、新日鉄会長。会長就任時は、日本鉄鋼連盟会長。

●初期の『広島県人名簿』

- ・『昭和二十五年度 広島縣人名簿』（発行所：広島縣東京事務所、昭和25年9月10日発行）
- ・『昭和二十八年一月 在京 広島縣人名簿』（発行所：広島縣人会、昭和28年1月10日発行）
- ・『広島縣人名簿 昭和三十年版』（発行所：広島県人会、昭和30年発行）＊奥付欠落
- ・『昭和三十一年一月 広島県人名簿（追録）』（発行所：広島県人会、昭和31年1月10日発行）
- ・『広島縣人名簿 昭和三十二年版』（発行所：広島県人会、昭和32年1月10日発行）
- ・『昭和三十三年一月 在京広島県人名簿（追録）』（発行所：広島縣人會、昭和33年3月25日発行）
- ・『広島縣人名簿 昭和三十四年版』（発行所：広島県人会、昭和34年1月10日発行）



県人名簿は、会からの連絡や会員間の親睦等に利用された。判型は全てB6判だが、書名等の表記は一定していなかった。



広島県人名簿の合本（判型はB6判で、平成6年まで同じ体裁で作成された。左端は平成7・8年のB6横判）東京広島県人会蔵

昭和48年
1973

昭和49年
1974

昭和50年
1975

昭和51年
1976

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・27 パリでベトナム和平協定調印 7・20 日航機ハイジャック（犯人はパレスチナ・ゲリラ5人、うち一人は日本人） 8・8 金大中氏事件 （韓国の前大統領候補を拉致） 10・6 第4次中東戦争勃発 10・23 江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞 10・25 オイルショック （約10%の原油供給削減） 11・29 大洋デパート火災（熊本市でデパート全焼） ◆内閣総理大臣：田中角栄② ○流行歌：夜空、神田川、心の旅、てんとう虫のサンバ	2・8 広島大学、統合移転（賀茂郡西条町）決定 2・17 広島カキから高濃度カドミウム検出 3・31 広島県土地開発公社設立 4・一 広島商科大学、広島修道大学に改称 7・1 県立吉田少年の家開所 10・28 早瀬大橋（江田島・呉市倉橋島）完成 11・8 日本鋼管福山に世界一の高炉完成 ◆知事：永野厳雄③／宮澤弘 ○第55回夏の甲子園で広島商業優勝○采谷義秋、第73回ボストンマラソンで優勝
3・10 ルバング島で小野田寛郎元陸軍少尉を救出 4・11 春闘史上最大のゼネスト 8・15 文世光事件（韓国の朴大統領、狙撃され夫人死亡） 8・30 三菱重工ビル（東京・丸の内）爆破事件 9・13 ハーグ事件（オランダの仏大使館に日本赤軍らが侵入立て籠もり） 10・8 佐藤栄作前首相ノーベル平和賞受賞 11・26 田中首相金脈問題で辞意表明 ◆内閣総理大臣：田中角栄②／三木武夫 ○流行歌：襟裳岬、ひと夏の経験、傷だらけのローラ	4・1 福山グリーンライン（後山道路）全線開通 4・2 国道2号線西広島バイパス開通 4・20 東広島市市制施行 4・一 県内の高校進学率、全国一位に 5・29 広島呉道路（仁保・坂）供用開始 9・1 広島運転免許センター開設 10・10 広島センタービル3階に広島バスセンター開業 ◆知事：宮澤弘 ○福山市民球場完成○第25回高校駅伝で世羅高校優勝（2年ぶり4回目）○藤村富美男、野球殿堂入り
1・1 青木湖バス転落事故 3・10 新幹線博多まで開通 4・30 ベトナム戦争終結 （北軍、サイゴン制圧） 5・7 エリザベス英女王夫妻来日 5・16 日本女子登山隊、女性初のエベレスト登頂 5・19 連続企業爆破事件の容疑者8人一斉逮捕 7・19 沖縄海洋博覧会開幕 8・4 日本赤軍、マレーシア大使館等を占拠 ◆内閣総理大臣：三木武夫 ○流行歌：シクラメンのかほり、なごり雪	3・10 山陽新幹線岡山・博多間が開業（広島駅開業） 4・1 福山大学開学 5・12 国道54号三次バイパス開通 6・12 持光寺（尾道市）絹本著色普賢延命像が国宝に 10・1 テレビ新広島開局 10・1 国勢調査実施（広島県人口：264万6324人） 10・15 広島東洋カープ、セリーグ初優勝 ◆知事：宮澤弘 ○第6回春高バレーで崇徳高校優勝（2回目）
1・31 鹿児島で五つ子誕生 2・4 米上院外交委員の公聴会でロッキード事件の疑惑明るみに 7・27 ロッキード事件、田中角栄前首相逮捕 9・6 ソ連のミグ25函館空港に強行着陸 10・22 京都地裁の鬼頭史郎判事補の「ニセ電話事件」発覚 10・29 酒田大火（1059棟が全焼、3300人が被災） ◆内閣総理大臣：三木武夫／福田赳夫 ○流行歌：北の宿から、ペッパー警部、北酒場	1・23 安浦地区を大規模年金保養基地に指定 3・29 賀茂学園都市整備事業、基本計画認可 3・31 『原爆三十年—広島県の戦後史—』『広島県庁原爆被災誌』発行 3・31 県財政2年連続赤字決算（税収の大幅減） 12・17 芦田川河口堰完工 ◆知事：宮澤弘 ○モントリオール五輪で藤本俊（体操団体）金メダル、猫田勝敏・西本哲雄（バレーボール男子）4位○第48回選抜甲子園で崇徳高校初優勝

東京広島県人会の活動
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席259名 来賓：西田修一県議会議長ら 「四季の広島」「宮島」上映 6・7 県人会役員会（羽澤ガーデン） 来賓：永野厳雄知事ら 6・19～24 広島県名士書道墨行展（永野会長出品） 8・21 日本青年団体連合会と懇談 11・13 県人会役員会（広島県東京事務所） 49年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席301名 「広島その変貌」「宮島」上映 6・3 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） *宮澤弘知事、県議会議期中のため欠席 11・25 県人会役員会（広島県東京事務所） 50年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など *文化功労者杉村春子氏、並びに日本芸術院会員奥田元宋氏へのお祝いを検討 ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席299名 来賓：宮澤喜一外相、宮澤弘知事、西田修一県議会議長ら 「ひろしま その青春譜」上映 4・9 県人会役員会（広島県東京事務所） 6・3 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） 来賓：宮澤弘知事、荒木武広島市長ら 11・5 県人会役員会（広島県東京事務所） 51年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会（上野精養軒）出席306名 来賓：宮澤弘知事、佐藤進県議会議長ら 「福山 そこに花の心をみた」「潮騒の路」上映 5・27 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） 来賓：宮澤弘知事ら *「広島県人昭和会」設立について報告 7・17 「広島県人昭和会」設立総会（原宿南国酒家） 11・5 県人会役員会（広島県東京事務所） 52年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長：永野重雄

●上野精養軒と広島県人会

上野精養軒は、1876（明治9）年、上野公園開設に伴い、精養軒（築地）の支店として開業したが、関東大震災で築地本店が焼失したため、その後は上野が本店となった。

広島県人会が総会の会場としたのは、1951（昭和26）年4月の春季総会が最初である。この総会で長崎英造氏が初代会長に就任し、「広島県人会規約」が制定された。

以来、1993（平成5）年、第7代田部文一郎会長時代までの42年間、県人会の春季総会の会場として利用された。1992（平成4）年1月の総会では、前年就任したばかりの宮澤喜一首相が出席するというので、警察と入念な打ち合わせがされたことが記録に残っている。

県人会総会を上野精養軒で開催するようになった経緯は定かでないが、『昭和二十五年度 広島縣人名簿』には、上野精養軒専務取締役の三井慶夫氏（旧広島一中出身）の名前がある。



上野精養軒・旧館大宴会場（昭和34年頃まで集会和宴会に使われた）
写真提供：(株) 精養軒

昭和52年
1977

昭和53年
1978

昭和54年
1979

昭和55年
1980

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・4 青酸コーラ事件 2・20 青梅マラソンに参加者10万人 5・24 慶大商学部入試問題の漏洩事件 7・14 初の静止気象衛星「ひまわり」米ケープカナベラルから打上げ 8・7 有珠山が大噴火(住民6400人が避難生活) 9・28 日本赤軍日航機をハイジャック 11・15 新潟市で中学生横田めぐみさん行方不明 ◆内閣総理大臣:福田赳夫 ○流行歌:勝手にしやがれ、津軽海峡冬景色、北国の春	3・2 大崎広域農道開通 5・3 第1回ひろしまフラワーフェスティバル開催 7・21 いこいの村ひろしま戸河内町完成 8・3 原水爆禁止統一世界大会国際会議、広島で開催 ◆知事:宮澤弘/宮澤弘② ○第2回日本ハンドボールリーグ 湧永薬品初優勝
1・14 伊豆大島近海で地震(M7、死者25人) 5・20 新東京国際空港(成田)開港 6・12 宮城県沖地震(M7.5、死者28人、負傷者1万1028人) 7・24 円急騰、初の1ドル200円突破(199円10銭) 8・12 日中平和友好条約調印 9・19 埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣から「雄略天皇」の名を解読 ◆内閣総理大臣:福田赳夫/大平正芳① ○流行歌:UFO、微笑みがえし、青葉城恋歌	4・1 県立身体障害者リハビリテーションセンター開設(東広島市) 10・28 中国自動車道(北房IC・三次IC)開通 11・1 廿日市木材港開港 11・3 ひろしま美術館開館(広島銀行百周年記念事業) ◆知事:宮澤弘② ○浜崎真二、野球殿堂入り
1・13 国公立大学初の共通一次試験 1・26 三菱銀行北畠支店、猟銃人質事件 2・11 ホメイニ師指導のイラン革命成立 3・28 米スリーマイル島で原子力発電所の事故 7・11 東名高速日本坂トンネル事故 9・8 日本鉄建公団カラ出張で4億円のヤミ給与 12・4 政界に広がったKDD事件発覚 12・27 ソ連、アフガニスタンに侵攻 ◆内閣総理大臣:大平正芳①/大平正芳② ○流行歌:魅せられて、YOUNG MAN、舟歌	4・28 みよし風土記の丘、歴史民俗資料館開館 8・15 広島空港(広島・東京)、ジェット便就航 10・13 蒲刈大橋(上蒲刈島・下蒲刈島)開通 10・18 中国自動車道(三次IC・千代田IC)開通 11・4 広島東洋カープ、初の日本一 ◆知事:宮澤弘② ○第50回都市対抗野球で広島市・三菱重工広島初優勝○広島東洋カープ・セリーグ優勝(2回目)、初の日本一
4・25 東京銀座で1億円の落し物 5・25 光州事件 (韓国で反政府デモに戒厳軍突入) 7・3 「イエスの方舟」の集団失踪中の女性保護 8・19 新宿バス放火事件 (停車中のバスに放火、死者6人、重軽傷者13人) 9・22 イラン・イラク戦争勃発(停戦は1988年) 10・1 富士産婦人科病院乱診事件(院長逮捕) 11・20 川治温泉でホテル火災(45人焼死) ◆内閣総理大臣:大平正芳②/鈴木善幸 ○流行歌:雨の慕情、恋人よ、昴、ランナウェイ	3・31 三菱重工広島造船所、新造船部門から撤退 4・1 広島市が政令指定都市に移行(全国で10番目) 4・7 三次家畜市場落成 5・22 ホノルル広島県人会25周年記念行事(知事・県議会議長出席) 7・18 吾妻帝釈国民休暇村、吾妻山地区オープン 10・1 国勢調査実施(広島県人口:273万9161人) 11・— マツダ「ファミリア」第1回日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 ◆知事:宮澤弘② ○広島東洋カープ日本一(2回目)

東京広島県人会の活動
1・10 県人会春季総会(上野精養軒)出席301名 来賓:藤田正明国務大臣、宮澤弘知事、西田修一県議会議長ら 4・28 賀屋興宣氏(県人会理事)逝去 6・1 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン) 来賓:宮澤弘知事ら 11・11 県人会役員会(広島県東京事務所) 53年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長:永野重雄
1・10 県人会春季総会(上野精養軒)出席288名 来賓:宮澤弘知事、西田修一県議会議長ら「瀬戸内海の味」「いつくしま合戦」上映 6・1 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン) 来賓:宮澤弘知事ら 11・15 県人会役員会(広島県東京事務所) 54年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長:永野重雄
1・10 県人会春季総会(上野精養軒)出席261名 来賓:宮澤弘知事、児玉秀一県議会議長ら「第二回フラワーフェスティバル」上映 5・31 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン) 来賓:竹下虎之助副知事ら 11・9 県人会役員会(広島県東京事務所) 55年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長:永野重雄
1・10 県人会春季総会(上野精養軒) 来賓:宮澤弘知事、児玉秀一県議会議長、荒木武広島市長、古葉竹識監督、山本浩二選手、衣笠祥雄選手ら 6・2 広島県人昭和会幹事会(赤坂小洞天) 6・4 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン) 来賓:宮澤弘知事ら 11・14 県人会役員会(広島県東京事務所) 56年度総会、県人会名簿発刊、役員委嘱など ◆会長:永野重雄

●羽澤ガーデンと広島県人会

広島出身の官僚・政治家、中村是公が、1915(大正4)年に港区広尾の丘陵に築いた私邸は、是公の没後、所有者が変遷し、戦後は羽澤という地名から「羽澤ガーデン」という高級料亭になった。約三千坪の広大な敷地は樹林に囲まれ、2階建ての本館のほか、離れ、茶室などが配され、将棋や囲碁の対局の舞台にもなった。

(参照:p75「東京の中の広島県」中村是公と羽澤ガーデン)

広島県人会が利用したのは、1949(昭和24)年6月12日の春季懇親会が最初である。主賓に池田勇人大蔵大臣を招き、166名が出席して行われた。1951(昭和26)年8月には、公職追放解除者29名を招いて、公職追放解除の祝賀会が行われた。

以後、春季総会は上野精養軒、祝賀会や役員懇親会は羽澤ガーデンと、年度行事の主会場として親しまれた。羽澤ガーデンの役員懇親会は、1993(平成5)年6月10日が最後で、翌年から銀座東急ホテルに移された。

その後、羽澤ガーデンは、2005(平成17)年に閉鎖され、近隣住民や文化人を中心とする保存運動もあったが、大正時代を代表する建物と共にすべて取り壊された。



羽澤ガーデンの中庭で行われた県人会役員懇親会(昭和49年)



役員懇親会に招かれた升田幸三棋士(昭和52年)

昭和56年
1981

昭和57年
1982

昭和58年
1983

昭和59年
1984

世界と日本の出来事	広島県の出来事
3・2 中国残留日本人孤児初来日 3・19 神戸ポートピア'81開会 (1610万人が入場) 6・15 パリ人肉事件 (日本人留学生在が蘭人女性を殺害、死体の一部を食べる) 9・5 三和銀行オンライン詐欺事件 (茨木支店の女子行員が1億3000万円詐欺) 10・16 北炭夕張炭鉱ガス惨事 (死者93人) 10・19 福井謙一ノーベル化学賞受賞 ◆内閣総理大臣：鈴木善幸 ○流行歌：ルビーの指輪、お嫁サンバ、風立ちぬ、悪女	2・25 ローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世が広島で、核兵器廃絶を訴えた「平和アピール」を発表 3・15 県立福山産業会館開館 3・29 第一回ひろしま国際平和マラソン開催 7・4 集中豪雨で江田島の寺院倒壊 (死傷者13人) 7・18 広島県、初の海外事務所をロサンゼルスに設置 ◆知事：宮澤弘②/竹下虎之助 ○マツダスポーツクラブ東洋工業サッカー部に名称変更○岩本義行、野球殿堂入り○森脇保彦、世界柔道選手権で金メダル
2・8 ホテル・ニュージャパン (東京・永田町) 火災 (死者33人、重軽傷28人) 2・9 日航DC-8機が羽田で着陸失敗 4・2 フォークランド紛争 (アルゼンチンにイギリスが宣戦布告) 6・22 日立製作所、三菱電機の社員ら6人産業スパイでFBI逮捕 10・29 岡田茂、前・三越社長を特別背任容疑で逮捕 ◆内閣総理大臣：鈴木善幸/中曽根康弘① ○流行歌：北酒場、赤いスイトピー、待つわ、水雨	4・2 尺八奏者島原帆山氏、県内初の人間国宝に 4・8 広島大学統合移転、最初の工学部が移転 8・26 デクエアル国連事務総長、広島訪問 10・12 県立社会教育センター開所 11・— マツダ・フォード「カペラ・テルスター」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 12・5 広島エフエム放送開局 (全国7番目、中国地方で初の民間FM局) ◆知事：竹下虎之助
2・21 蔵王観光ホテル火災 (11人が焼死) 3・13 東北大医学部体外受精に成功 4・15 東京ディズニーランド開園 5・26 日本海中部地震 (M7.7、死者・不明104人) 9・1 大韓航空機撃墜事件 (ソ連戦闘機攻撃で日本人28人を含む269人全員死亡) 11・11 町田市のCATVに許可第1号 (ニューメディア元年) ◆内閣総理大臣：中曽根康弘①/中曽根康弘② ○流行歌：矢切の渡し、さざんかの宿、越冬つばめ	3・24 中国自動車道 (千代田IC・鹿野IC) 開通し全線開通 3・24 広島浜田線 (広島北IC・広島北JCT・千代田JCT予定地) 開通 3・31 中国自然歩道全通 (昭和52年着工から6年目) 6・10 広島県、ふるさと一品運動開始 7・20 県北豪雨 (庄原市・双三郡等、被害総額115億円) 12・4 因島大橋 (因島・向島) 開通 ◆知事：竹下虎之助 ○第8回日本ハンドボールリーグ、湧永製菓優勝 (2回目)
1・18 三井三池鉱業・有明鉱坑内火災 (死者83人) 3・18 グリコ森永事件 (江崎グリコ社長誘拐事件) 6・30 厚生省世界一長寿国宣言 (平均年齢男74.2歳、女79.78歳) 9・14 長野県西部地震 (死者29人) 11・1 1万円、5千円、千円新札発行 11・16 東京世田谷で通信ケーブル火災、電話マヒ、銀行のオンライン不通 ◆内閣総理大臣：中曽根康弘② ○流行歌：長良川艶歌、涙のリクエスト、桃色吐息	3・11 宮島町林野火災 (252ha焼失) 4・15 大型観光キャンペーンSun Sunひろしま開幕 6・30 県史編纂事業完了 7・22 県立もみのき森林公園 (廿日市市) 開園 9・17 広島県・中国四川省友好提携調印 11・15 備後地域地場産業振興センター開所 ◆知事：竹下虎之助 ○ロサンゼルス五輪で平田倫敏 (体操男子団体) 銅メダル、新宅雅也 (陸上1000m) 出場○第15回春高バレーで崇徳高校優勝 (3回目) ○広島東洋カープ日本一 (3回目)

東京広島県人会の活動
1・12 県人会春季総会 (上野精養軒) 出席348名 来賓：宮澤喜一官房長官、宮澤弘知事、大山広司県議会議長、荒木武広島市長、古葉竹識監督、山本浩二選手、衣笠祥雄選手ら 6・2 県人会役員懇親会 (羽澤ガーデン) 出席36名 来賓：竹下虎之助副知事ら 11・20 県人会役員会 (広島県東京事務所) 出席16名 57年総会運営について ◆会長：永野重雄
1・13 県人会春季総会 (上野精養軒) 来賓：宮澤弘参議院議員、竹下虎之助知事、大山広司県議会議長、荒木武広島市長ら 6・4 県人会役員懇親会 (羽澤ガーデン) *永野会長から会費値上げ指示 (8000円に) 来賓：竹下虎之助知事ら 11・10 県人会役員会 (広島県東京事務所) 出席14名 58年度総会、会長・副会長再任について ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会 (上野精養軒) 出席294名 来賓：谷川和穂防衛庁長官、竹下虎之助知事、木曾初行県議会議長、荒木武広島市長ら 6・3 県人会役員懇親会 (羽澤ガーデン) 出席30名 来賓：田中稔副知事ら 11・9 県人会役員会 (広島県東京事務所) ◆会長：永野重雄
1・10 県人会春季総会 (上野精養軒) 出席286名 来賓：谷川和穂国務大臣、竹下虎之助知事、吉川清土県議会議長、荒木武広島市長ら 5・4 永野重雄会長逝去 (代行・太田利三副会長) 6・8 県人会役員懇親会 (羽澤ガーデン) 出席30名 来賓：竹下虎之助知事ら *永野重雄会長、森戸辰男顧問逝去に黙祷 11・21 県人会役員会 (広島県東京事務所) 出席17名 *60年度総会、新会長に太田利三郎氏推挙 ◆会長：永野重雄/太田利三郎代行

●写真で振り返る昭和50年代の県人会総会



上野精養軒新館 県人会総会の会場として会員に親しまれた。「1月10日・夕刻・上野精養軒」が会員間の合い言葉だった。



広島県人会総会の式次第 (昭和57年県人会総会)



来賓の古葉竹識監督、山本浩二選手、衣笠祥雄選手 (昭和55年総会)



会場での懇親風景 (昭和53年総会)

昭和60年 1985

昭和61年 1986

昭和62年 1987

昭和63年 1988

世界と日本の出来事	広島県の出来事
<p>3・16 科学万博(つくば博)開幕</p> <p>4・1 日本電信電話会社(NTT)、日本たばこ産業会社発足</p> <p>6・18 豊田商事永野一男会長刺殺される</p> <p>6・19 「投資ジャーナル」中江滋樹元会長ら逮捕</p> <p>8・12 日航ジャンボ機墜落事故(520人死亡)</p> <p>11・29 国鉄同時多発ゲリラ(国鉄分割・民営化反対スト支援の中核派)</p> <p>◆内閣総理大臣:中曽根康弘②</p> <p>○流行歌:ミ・アモーレ、恋に落ちて、望郷じょんがら</p>	<p>3・20 山陽自動車道(広島JCT・五日市IC)開通、中国横断自動車道(広島JCT・広島北IC)開通</p> <p>3・26 広島県文化センター開館</p> <p>4・13 第1回ワールドカップ・マラソン・広島開催</p> <p>4・20 グリーンピア安浦オープン</p> <p>7・15 広島県大雨災害(被害総額353億円)</p> <p>10・1 国勢調査実施(広島県人口:281万9200人)</p> <p>◆知事:竹下虎之助/竹下虎之助② ○第10回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝(3回目)○白石勝巳、野球殿堂入り</p>
<p>4・1 「男女雇用機会均等法」施行</p> <p>4・26 チェルノブイリ原発事故</p> <p>5・8 英国のチャールズ皇太子とダイアナ妃が来日</p> <p>9・6 社会党土井たか子委員長を選出(初の女性党首誕生)</p> <p>11・15 伊豆大島の三原山が209年ぶりに噴火</p> <p>11・25 現金輸送車3億3000万円強奪事件(三菱銀行有楽町支店前)</p> <p>◆内閣総理大臣:中曽根康弘②/中曽根康弘③</p> <p>○流行歌:DESIRE、天城越え、CHA-CHA-CHA</p>	<p>3・25 ぬくしなバイパス(安芸府中有料道路)開通</p> <p>4・— 新県道整備計画(30分道路網の推進)スタート</p> <p>7・13 県民の浜(安芸郡蒲刈町)供用開始</p> <p>8・12 備北広域農道(三次市西酒屋町・庄原市小用町)開通</p> <p>8・20 ひろしま平和大使を国連に派遣</p> <p>10・8 第一回ひろしまウッドフェア開催(廿日市市)</p> <p>12・22 名誉県民の顕彰と県民栄誉賞の授与が決まる</p> <p>◆知事:竹下虎之助② ○広島東洋カープ・セリーグ優勝(5回目)○マツダサッカークラブに名称変更</p>
<p>2・— 靈感商法問題化</p> <p>4・1 国鉄分割・民営化、JRスタート(旅客6社・貨物1社など11法人に分割民営化)</p> <p>5・3 朝日新聞阪神支局襲撃事件</p> <p>9・4 新電々3社長距離電話サービス開始</p> <p>9・22 天皇開腹手術病名は「慢性すい炎」と発表</p> <p>10・12 利根川進ノーベル生理学・医学賞受賞</p> <p>10・20 東京株式市場平均株価3836円48銭の急落下</p> <p>◆内閣総理大臣:中曽根康弘③/竹下登</p> <p>○流行歌:愚か者、命くれぬ、百万本のバラ</p>	<p>1・12 山本浩二氏に県民栄誉賞授与</p> <p>2・26 山陽自動車道(五日市IC・廿日市JCT)開通</p> <p>3・24 山陽自動車道(志和IC・広島東IC)開通</p> <p>3・— 長島大橋(大崎上島・長島)開通</p> <p>6・15 衣笠祥雄氏に県民栄誉賞授与</p> <p>12・4 中国自動車道山口JCT開通、山陽自動車道と接続</p> <p>12・10 広島岩国道路(廿日市JCT・大野IC)開通</p> <p>◆知事:竹下虎之助② ○第12回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝(4回目)</p>
<p>3・13 世界最長の青函トンネル(54km)開通</p> <p>3・24 中国を修学旅行中の高知学芸高生ら列車事故で27人死亡</p> <p>4・10 瀬戸大橋が開通(児島・坂出ルート開業)</p> <p>7・6 リクルート疑惑(非公開株の政治家譲渡)</p> <p>7・23 なだしお事故(東京湾で遊漁船と潜水艦が衝突)</p> <p>9・19 天皇の病状悪化(見舞いの記帳が開始、全国に自粛ムード)</p> <p>◆内閣総理大臣:竹下登</p> <p>○流行歌:パラダイス銀河、乾杯、人生いろいろ、酒よ</p>	<p>3・13 山陽新幹線、新尾道駅・東広島駅開業</p> <p>4・1 廿日市市制施行</p> <p>4・16 大久野島毒ガス資料館開館</p> <p>4・— 広島赤十字病院と日本赤十字社広島原爆病院を統合し、広島赤十字・原爆病院へ改称</p> <p>10・— 広島県立図書館新館開館</p> <p>◆知事:竹下虎之助② ○第19回春高バレーで崇徳高校優勝(4回目)○第70回夏の甲子園で広島商業優勝 ○ソウル五輪に新宅永灯至(男子マラソン)出場</p>

*昭和63年は山陽自動車道の開通相次ぐ。3月、福山東IC・倉敷JCT、広島東IC・広島IC、大竹IC・岩国IC開通。7月西条IC・志和IC、12月広島IC・広島JCTが開通した。

東京広島県人会の活動
<p>1・10 県人会春季総会(上野精養軒)</p> <p>来賓:宮澤喜一自民党総務会長、増岡博之厚生大臣、佐藤守良農水大臣、竹下虎之助知事、木山徳郎県議会議長、荒木武広島市長、奥田元宋氏ら</p> <p>「のびゆく郷土 ひろしま」上映</p> <p>5・29 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン)出席38名</p> <p>来賓:田中稔副知事ら</p> <p>*太田利三郎会長就任祝い</p> <p>11・13 県人会役員会</p> <p>◆会長:太田利三郎</p>
<p>1・10 県人会春季総会(上野精養軒)</p> <p>来賓:宮澤喜一自民党総務会長、増岡博之厚生大臣、佐藤守良農水大臣、阿南準郎監督、田中尊ヘッドコーチ、山本浩二選手ら</p> <p>6・11 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン)出席22名</p> <p>来賓:竹下彪県参与ら</p> <p>10・13 広島東洋カープ・セリーグ優勝、阿南準郎監督に祝電</p> <p>11・19 県人会役員会(広島県東京事務所)出席16名</p> <p>◆会長:太田利三郎</p>
<p>1・10 県人会総会(上野精養軒)出席279名</p> <p>来賓:宮澤喜一蔵相、藤田正明参議院議長、多賀谷真稔参議院副議長、田中稔副知事、木山徳郎県議会議長、荒木武広島市長、広島東洋カープ阿南監督、達川捕手、長富投手ら</p> <p>2・15 東谷傳次郎元会長逝去</p> <p>6・3 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン)出席27名</p> <p>来賓:竹下虎之助知事ら</p> <p>11・17 県人会役員会(広島県東京事務所)</p> <p>◆会長:太田利三郎</p>
<p>1・12 県人会総会(上野精養軒)出席301名</p> <p>来賓:宮澤喜一大蔵大臣、藤田正明参議院議長、多賀谷真稔参議院副議長、竹下虎之助知事、安井耕造県議会議長、荒木武広島市長ら</p> <p>11・— 文化勲章受賞者(圓鍔勝三氏)へ祝電</p> <p>11・22 県人会役員会(広島県東京事務所)</p> <p>*64年度総会について(天皇の御病状に鑑み、1月予定の総会開催について検討)</p> <p>12・13 日本学士院会員就任の登張正實氏に祝電</p> <p>◆会長:太田利三郎</p>

●第6代会長・太田利三郎(おた・りさぶろう)

在任期間:1985(昭和60)年1月~1991(平成3)年1月



1901年広島市生まれ。日本銀行理事、日本開発銀行総裁、鉄道建設公団初代総裁、自動車販売協会連合会会長、セントラル総合開発社長を歴任。会長就任時は、セントラル総合開発社長。

●広島県出身の文化勲章受賞者(その2)

受賞年1984年

奥田元宋(おくだ・げんそう)

日本画家

出身:双三郡八幡村(現三次市吉舎町)

受賞年1987年

岡田善雄(おかだ・よしお)

大阪大学名誉教授 細胞生物学

出身:呉市

受賞年1988年

圓鍔勝三(えんつば・かつぞう)

彫刻家

出身:御調郡河内村(現尾道市御調町)

受賞年1998年

平山郁夫(ひらやま・いくお)

日本画家 日本美術院理事長 東京芸術大学学長

出身:豊田郡瀬戸田町(現尾道市瀬戸田町)

受賞年1999年

阿川弘之(あがわ・ひろゆき)

小説家・評論家

出身:広島市白島九軒町生まれ(本籍は山口県美祿市)

受賞年2001年

井口洋夫(いのくち・ひろお)

東京大学名誉教授 有機化学 分子エレクトロニクス

出身:広島市段原(現広島市南区段原)

受賞年2002年

新藤兼人(しんどう・かねと)

映画監督 脚本家

出身:佐伯郡石内村(現広島市佐伯区五日市町)

受賞年2010年

三宅一生(みやけ・いっせい)

ファッションデザイナー

出身:広島市東区

昭和64年
平成元年

1989

平成2年

1990

平成3年

1991

平成4年

1992

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・7 昭和天皇崩御(87歳)、1・8から平成と改元 3・2 佐賀の吉野ヶ里遺跡発掘 4・1 一般消費税スタート(税率3%) 6・4 中国天安門事件(民主化要求運動を軍が制圧) 8・10 幼女連続誘拐殺人の被疑者・宮崎勤を逮捕 11・9 ベルリンの壁崩壊 11・15 坂本堤弁護士一家行方不明事件 11・21 日本労働組合総連合会(連合)が発足 ◆内閣総理大臣:竹下登/宇野宗佑/海部俊樹① ○流行歌:淋しい熱帯魚、川の流れのように	3・9 名誉県民の顕彰(井伏鱒二、灘尾弘吉、織田幹雄、奥田元宋、圓鋸勝三、岡田善雄の6氏) 4・17 県立広島大学開学式・入学式 4・20 広島呉道路(呉市西中央・天応)開通 7・8 海と島の博覧会・ひろしま開催(~10・29) 11・3 広島県立歴史博物館(福山市)開館 10・4 内海大橋(沼隈町・内海町田島)開通 ◆知事:竹下虎之助②/竹下虎之助③ ○第14回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝(5回目)○猫田記念体育館開設(JTサンダースの本拠地)
1・15 大学入学センター試験スタート 1・18 長崎市長が正気塾幹部に銃撃され重体 4・1 大阪で「花の万博」開幕(~9・30) 7・19 国際興業事件(「光進」の小谷代表逮捕) 10・1 バブル崩壊(日経平均株価が2万円割れ9ヶ月で半値に) 10・3 統一ドイツ誕生 11・12 平成天皇の即位の礼 ◆内閣総理大臣:海部俊樹①/海部俊樹② ○流行歌:恋唄綴り、さよなら人類	4・16 原爆ドームの第2次保存工事完成 5・9 辰の口古墳(神石高原町)が備後地方で最大の前方後円墳と確認 9・6 県の魚(さかな)、「カキ」に決定 11・27 広島岩国道路(大野IC・大竹IC)開通 11・30 山陽自動車道(河内IC・西条IC)開通 12・15 尾道福山自動車道開通 ◆知事:竹下虎之助③ ○第15回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝(6回目)○張本勲、野球殿堂入り
1・17 湾岸戦争勃発(クウェート侵攻のイラクを多国籍軍が攻撃) 2・9 美浜原発事故(緊急炉心冷却装置作動事故) 5・14 信楽鉄道で正面衝突事故(死者42人) 5・23 雲仙普賢岳で大火砕流(死者行方不明43人) 6・20 4大証券が巨額の損失補填(大口顧客と暴力関係者へ損失補填) 8・24 ソ連崩壊(革命以来の共産党支配に終止符) ◆内閣総理大臣:海部俊樹②/宮澤喜一 ○流行歌:愛は勝つ、SAY YES、どんときも	3・3 ウッドピアみよしオープン 3・14 広島市の新交通システム建設現場で落下事故 3・20 山陽自動車道(福山東IC・福山西IC)開通 7・6 エストパルク(広島県民文化センターふくやま等)開館 9・27 台風19号で厳島神社が破損 12・7 広島浜田線(千代田JCT・旭IC)開通 12・8 生口橋(生口島・因島)開通 ◆知事:竹下虎之助③ ○第63回選抜甲子園で広陵高校優勝○広島東洋カープ・セリーグ優勝(6回目)
1・13 共和汚職事件(阿部文男元長官に受託収賄罪) 1・22 脳死臨調が「脳死容認」を答申 4・1 牛肉・オレンジ輸入自由化 6・15 PKO協力法成立(自衛隊のPKO参加が可能に) 9・12 日本人初の宇宙飛行士・毛利衛宇宙へ 10・14 東京佐川急便事件(自民党金丸議員辞職) 10・17 ハロウィン射殺事件(アメリカで日本人留学生が訪問先を間違えて) ◆内閣総理大臣:宮澤喜一 ○流行歌:君がいるだけで、白い海峡、晴れたらいいね	3・20 呉ポートピアランドオープン 4・24 プロサッカークラブ「サンフレッチェ広島」設立 4・27 広島テクノプラザ完成 5・20 広島クリスタルプラザ落成 6・3 広島港、特定重要港湾に昇格 11・30 豊浜大橋(豊島・大崎下島)開通 ◆知事:竹下虎之助③ ○バルセロナ五輪で遠藤愛(テニス女子)出場○第17回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝(7回目)○廣岡達朗、野球殿堂入り○倉本昌弘、永久シード権を獲得

東京広島県人会の活動
1・6 1月10日予定の総会延期(昭和天皇崩御のため) *総会延期の案内状発送 2・16 県人会臨時役員会(広島県東京事務所) *総会の開催について協議 2・28 県人会総会の中止を決定(会員に通知) 6・7 県人会役員懇談会(羽澤ガーデン) 11・20 県人会役員会(広島県東京事務所) ◆会長:太田利三郎
1・10 県人会総会(上野精養軒) 来賓:竹下虎之助知事、末田隆県議会議長、荒木武広島市長、圓鋸勝三、織田幹雄ら 6・14 県人会役員懇親会(羽澤ガーデン) 来賓:竹下虎之助知事ら ◆会長:太田利三郎
1・10 県人会総会(上野精養軒)出席286人 来賓:池田行彦防衛庁長官、竹下虎之助知事ら 6・14 県人会役員懇談会(羽澤ガーデン) 11・21 県人会役員会(広島県東京事務所) ◆会長:太田利三郎/田部文一郎
1・10 県人会総会(上野精養軒) 来賓:宮澤喜一首相ら *警備問題で、事前に地元の上野警察署、首相官邸の警護担当者らと打ち合わせ。 総会当日は取材のメディア対応も行った。 6・11 県人会役員懇談会(羽澤ガーデン) 11・20 県人会役員会(広島県東京事務所) 会長、副会長の再任を了承 ◆会長:田部文一郎

●第7代会長・田部文一郎(たなべ・ぶんいちろう)

在任期間:1991(平成3)年1月~1994年1月



1907年広島市生まれ。三菱商事社長、会長、相談役、特別顧問。会長就任時は、三菱商事相談役。

●総理大臣出席の県人会総会

1992(平成4)年の県人会総会は、来賓に宮澤喜一首相を迎えて開催された。現職総理大臣の出席は、池田勇人首相が1961(昭和36)年から4年間、出席されて以来だった。



厳重な警護のなか、会場を退出する宮澤喜一首相

平成5年
1993

平成6年
1994

平成7年
1995

平成8年
1996

世界と日本の出来事	広島県の出来事
4・8 国連ボランティアの中田厚仁がカンボジア中部で銃撃されて死亡 5・4 文民警官襲撃 （カンボジアで、岡山県警警部補が死亡、4人が重軽傷） 6・9 皇太子・雅子妃結婚 （祝賀パレードに19万人） 7・12 北海道南西沖地震（死者・行方不明239人） 7・23 ゼネコン汚職で竹内藤男茨城県知事逮捕 8・9 細川連立内閣成立 （55年体制崩壊） ◆内閣総理大臣：宮澤喜一／細川護熙 ○流行歌：無言坂、鳥唄、YAH YAH YAH、ロード	4・15 国道2号線西条バイパス全線供用 4・28 県、福山地域を地方拠点都市地域に指定 5・— 県、備後アーバンルネッサンス計画を策定 9・14 岡本綾子氏に県民栄誉賞授与 10・26 山陽自動車道（福山西IC・河内IC）開通 10・26 山陽自動車道の県内全通 10・29 広島空港が開港（本郷町・現三原市）、旧広島空港は広島西飛行場へ名称変更。 ◆知事：竹下虎之助③／藤田雄山
3・8 ゼネコン汚職（中村喜四郎前建設相逮捕） 4・26 中華航空機が名古屋で着陸失敗 6・27 松本サリン事件 （死者7人、重軽傷者580人）、誤認捜査とマスコミの誤報 6・30 村山連立内閣成立 9・4 関西国際空港開港 10・13 大江健三郎ノーベル文学賞受賞 12・28 三陸はるか沖地震（M7.5、死者3人） ◆内閣総理大臣：細川護熙／羽田孜／村山富市 ○流行歌：innocent world、ロマンスの神様	2・13 県立総合体育館開館 4・1 福山平成大学、比治山大学開設 6・2 国道54号祇園新道開通 7・13 沼田川水系異常渇水（広島県渇水対策本部設置） 8・20 広島新交通システム（アストラムライン）、本通駅・広域公園前駅間で開業 9・9 県、呉地域を地方拠点都市地域に指定 10・2 広島アジア競技大会開催 （～16日） 11・10 北別府学氏に県民栄誉賞授与 ◆知事：藤田雄山 ○サンフレッチェ広島Jリーグ前期初優勝
1・17 阪神淡路大震災 （M7.2、死者6432人、全半壊家屋約51万棟） 2・28 目黒公証役場事務長拉致事件（オウム事件） 3・20 地下鉄サリン事件 （死者10人、負傷者5000人） 3・30 警察庁長官狙撃事件（国松長官狙撃され重傷） 5・16 オウム真理教教祖・麻原彰晃逮捕 6・21 全日空機ハイジャック（羽田発函館行き） 12・8 高速増殖炉「もんじゅ」ナトリウム漏れ事故 ◆内閣総理大臣：村山富市 ○流行歌：Overnight Sensation、LOVE LOVE LOVE	4・1 広島県立保健福祉短期大学（三原市）開学 4・14 国営備北丘陵公園（庄原市）部分開園 5・21 第46回全国植樹祭開催（本郷町） 7・23 パグウォッシュ会議、広島市で開催 7・27 天皇后、戦後50年慰霊のため広島市訪問 8・15 戦後50周年広島県戦没者追悼式開催 8・29 岡村大橋（呉市豊町・今治市関前岡村）開通 ◆知事：藤田雄山 ○竹原慎二、WBA世界ミドル級王者となる（防衛0回）
2・10 北海道の国道豊浜トンネルで岩盤が崩落（死者20人） 3・14 薬害エイズ訴訟で、製薬会社の「ミドリ十字」が加害責任を認めて謝罪 5・10 住宅金融専門会社処理に6850億円が決定 7・— 病原性大腸菌「O-157」による集団食中毒 （患者9000人超、死者11人） 12・17 ペルー日本大使公邸人質事件 ◆内閣総理大臣：村山富市／橋本龍太郎①／橋本龍太郎② ○流行歌：Don't wanna cry、田園、愛の言葉	1・26 第51回国民体育大会（ひろしま国体）開催（～10.17）大会スローガン「いのちいっぱい、咲きんさい！」 8・30 クレアライン（広島呉道路）全線開通 10・6 広島県立美術館新館開館 12・7 厳島神社と原爆ドームが世界文化遺産に登録 ◆知事：藤田雄山 ○アトランタ五輪で一乗アキ（バスケットボール女子）、中重勝（男子フリー・ピストル）出場○衣笠祥雄、野球殿堂入り

東京広島県人会の活動
1・11 県人会総会（上野精養軒） 会長、副会長の人事を正式決定 6・10 県人会役員懇親会（羽澤ガーデン） 来賓：竹下虎之助知事ら 11・18 県人会役員会（広島県東京事務所） ◆会長：田部文一郎
1・11 県人会総会（ホテルニューオータニ） 出席約500名 第8代会長に岡田茂氏就任 来賓：宮澤喜一前首相、藤田雄山知事、檜山俊宏県議会議長、古橋広之進、阿川弘之、平山郁夫、サンフレッチェ広島森保一選手、片野坂知宏選手ら 3・3 県人会第1回幹事会（出席20名） ◆会長：田部文一郎／岡田茂
1・10 県人会総会（ホテルニューオータニ）出席約1000名 3・7 第1回県人会幹事会（広島県東京事務所） 4・20 第2回県人会幹事会（広島県東京事務所） 6・2 県人会役員懇親会（銀座東急ホテル） 6・12 第3回県人会幹事会（広島県東京事務所） 7・21 第4回県人会幹事会（広島県東京事務所） 10・19 第5回県人会幹事会（広島県東京事務所） 11・2 県人会役員会（広島県東京事務所） 12・06 第6回県人会幹事会（広島県東京事務所） ◆会長：岡田茂
1・10 県人会総会（ホテルニューオータニ）出席約1250名 来賓：衆参議員11名、安芸乃島閑、大野豊投手ら 2・14 第1回県人会幹事会（広島県東京事務所） 4・18 第1回県人会正副委員長会議（県東京事務所） 5・30 第2回県人会正副委員長会議（県東京事務所） 6・10 県人会役員懇親会（銀座東急ホテル） 8・22 第3回県人会正副委員長会議（県東京事務所） 10・23 第4回県人会正副委員長会議（県東京事務所） 11・20 第2回県人会幹事会（県東京事務所） 12・26 第3回県人会幹事会（県東京事務所） ◆会長：岡田茂

●第8代会長・岡田茂（おかだ・しげる）

在任期間：1994（平成6）年1月～2008年1月



1924年加茂郡西条町（現広島市）生まれ。東映社長、会長、名誉会長。会長就任時は、東映会長。

●東京広島県人会と岡田茂会長

岡田茂第8代会長の就任披露を兼ねた1994（平成6）年の東京広島県人会総会は、従来の総会とはイメージを一新したものになった。会場も発足以来続いていた上野精養軒からホテルニューオータニに変わった。

来賓に藤田雄山知事、檜山俊宏県議会議長、古橋広之進広島アジア競技会組織委員会会長、宮澤喜一前首相、文化功労者の阿川弘之氏、平山郁夫氏、サンフレッチェ広島の森保一選手、片野坂知宏選手らを招き、約500名の出席で盛大に開催された。

舞台では、「西城秀樹オンステージ」が催され、会場にはアジアコーナーが設置され、秋に広島で開催される「アジア競技大会広島1994」のPRキャストによるPR活動が行われた。

●東京広島県人会の活性化策

平成7年になると、岡田会長のもと東京広島県人会の活性化対策が、頻りに協議された。この年、6回にもおよぶ幹事会が開かれ、活性化対策がまとめられ、11月2日の東京広島県人会役員会で報告・了承された。

主な方策は、東京広島県人会の会員獲得、財政基盤確立の為の特別会費改定、国内県人会連合組織申し入れにつき窓口設定、50周年記念事業などである。

●大盛況の東京広島県人会

東京広島県人会50周年を翌年に控えた平成8年の県人会総会は、前年をさらに上回る約1250人の出席で盛大に行われた。なかでも地元選出の国会議員が多数参加され、衆議院からは、宮澤喜一、斎藤鉄夫、中川秀直、佐藤守良、森井忠良、池田行彦、谷川和穂、参議院からは、宮澤弘、栗原君子、溝手顕正、菅川健二の合計11名の参加があった。

平成9年 1997

平成10年 1998

平成11年 1999

平成12年 2000

2000

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・2 ロシアタンカー・ナホトカ号、重油流出事故 1・29 オレンジ共済組合の巨額詐欺事件 3・11 茨城県東海村の動燃工場で爆発事故 4・1 消費税5%に引き上げスタート 4・22 ペルーの日本大使公邸人質事件、人質救出 6・28 酒鬼薔薇聖斗事件（神戸小6生殺害事件） 11・8 北朝鮮の日本人妻15人が一時帰国 12・― 地球温暖化防止京都会議 ◆内閣総理大臣：橋本龍太郎② ○流行歌：CAN YOU CELEBRATE?、硝子の少年	9・20 全国都市緑化フェア（グリーンフェスタひろしま'97）開催（～11/24） 12・10 山陽自動車道本線（神戸JCT・山口JCT）全通 ◆知事：藤田雄山／藤田雄山② ○第22回日本ハンドボールリーグ、湧永製薬優勝（8回目）
3・5 キトラ古墳の石室に四神図と星宿図（星宿図世界最古級） 4・5 明石海峡大橋開通（世界最長3911m） 6・6 長野県で妻以外の卵で体外受精し出産 7・25 和歌山カレー毒物混入事件（4人死亡、67人が中毒） 8・31 北朝鮮のミサイル・テポドンが三陸沖に着弾 10・23 日本長期信用銀行が経営破綻、国家管理へ ◆内閣総理大臣：橋本龍太郎②／小淵恵三 ○流行歌：wanna Be A Dreammaker、夜空ノムコウ	3・20 東京新宿に「広島ゆめてらす」オープン 4・1 福山市、中核市に移行 4・1 広島国際大学開学 11・6 中の瀬戸大橋開通（安芸灘オレンジライン開通） 12・14 平山郁夫氏を名誉県民に顕彰 ＊広島平和記念資料館が広島国際会議場とともに公共建築百選に指定 ◆知事：藤田雄山② ○長野冬季五輪で大石博暁（ボブスレー4人乗り）出場
3・1 初の脳死判定による心臓・肝臓移植 3・23 海上自衛隊、北朝鮮の不審船に警告射撃 7・1 NTT分割（3地域通信会社が発足） 8・9 国旗・国歌法成立（8・12通信傍受法、改正住民基本台帳法成立） 9・29 下関で通り魔（下関駅構内に乗用車が突入） 9・30 東海村の核燃料工場で国内初の臨界事故 10・26 桶川女子大生ストーカー殺人事件 ◆内閣総理大臣：小淵恵三 ○流行歌：だんご3兄弟、LOVEマシーン	1・11 井原鉄道井原線（神辺・総社）開業 4・― ふくやま文学館開館 5・1 多々羅大橋（生口島・大三島）開通、瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸尾道IC・今治IC間）全通 6・29 豪雨災害が起こる。 12・13 阿川弘之氏を名誉県民に顕彰 ＊広島平和記念資料館および平和記念公園、「広島ピースセンター」として日本の近代建築20選に指定 ◆知事：藤田雄山② ○広瀬叔功・古葉竹識、野球殿堂入り
1・28 新潟で9年間監禁されていた少女を保護 3・31 有珠山が噴火（住民約1万2千人が避難） 4・1 介護保険制度スタート 5・3 西鉄バス乗取り事件（犯人は17歳の少年） 7・12 大手百貨店そごうが倒産 10・6 鳥取県西部地震（震度6強、負傷者110人） 10・10 白川英樹ノーベル化学賞受賞 11・8 重信房子・日本赤軍最高幹部を逮捕 ◆内閣総理大臣：小淵恵三／森喜朗①／森喜朗② ○流行歌：TUNAMI、らいおんハート、桜坂	1・18 安芸灘大橋（呉市と下蒲刈島を結ぶ道路橋）開通 ＊安芸灘諸島連絡架橋事業の一号橋 4・― 県立福祉大学開設 4・― 日本赤十字広島看護大学開設 11・1 呉市、特例市に指定（2016年中核市移行） 11・2 森下洋子氏に県民栄誉賞授与 11・3 第15回国民文化祭（ひろしま2000）県内39の市町村で開催（～11・12） ◆知事：藤田雄山② ○シドニー五輪で中重勝（50mフリーピストル）出場

東京広島県人会の活動
1・10 県人会50周年記念総会（ホテルニューオータニ）出席約1,500名 来賓：衆議院議員（宮澤喜一、池田行彦、河井克行、斎藤鉄夫）、参議院議員（栗原君子、菅川健二）、藤田雄山知事、檜山俊宏県議会議長、安芸乃島閔、三村監督、衣笠選手ら 春 県人会役員会 50周年事業として会報創刊号の発行の件 8・― 『ひろしまVol.1』（県人会会報）発行 ◆会長：岡田茂
1・28 県人会総会（ホテルニューオータニ） 来賓：藤田雄山知事、檜山俊宏県議会議長、衆議院議員（宮澤喜一、亀井静香、中川秀直、池田行彦）、参議院議員（菅川健二、溝手顕正、宮澤弘）、安芸乃島閔ら 7・1 東京広島県人会ニュース創刊 8・4 第1回県人会フォーラム（赤坂プリンスホテル） 8・― 県人会ホームページ開設 11・25 第2回県人会フォーラム ◆会長：岡田茂
1・28 県人会総会（ホテルニューオータニ）出席約1,500名 7・7 県人会役員懇親会（銀座東急ホテル）出席約150名 ※この頃までは、役員懇親会を例年7月に実施 8・25 第3回県人会フォーラム（広島県東京事務所） ◆会長：岡田茂
1・26 県人会総会（赤坂プリンスホテル）出席約1,200名 平成11年の大水害の見舞金（500万円）贈呈（贈呈先:中国新聞社） 3・9 第4回県人会フォーラム（広島県東京事務所） 5・23 県人会役員懇親会（銀座東急ホテル） ＊役員懇親会を年2回（5月・10月）開催に変更 10・4 県人会役員懇親会（銀座東急ホテル） 10・27 第5回県人会フォーラム（日比谷三井ビル） ◆会長：岡田茂

●東京広島県人会会報『ひろしまVol.1』（50周年記念創刊号）創刊にあたって

昭和二十二年戦後の広島県人会が発足して以来、本会の目的を掲げながら唯一実行されていないのが、会報の発行であった。



せっかちで実行力抜群の広島県人として、また歴代会長のもとで五十年間もどうして実現していなかったのか不思議である。

その点についての記録もないし、何故なのか今日その理由は解明できない

が、平成七年以来の飛躍的会員のご参加を頂き、今や約五千名を数える会に発展して参りまして、従来通りの年一回の総会開催では、とても会員各位の要望に対応できない状況になっている。

戦後発足五十年を記念して、幹事会の中に会報発行委員会を設け約一ヶ年の準備期間を経て、春、秋二回の発行を予定する運びとなり、誠に時宜を得た計画とボランティアで担当された関係幹事の労を多としたい。（以下略）

平成九年八月吉日 東京広島県人会会長 岡田茂

●「東京広島県人会ニュース」創刊

県人会ニュースは、東京広島県人会の会員増を目的として創刊された季刊誌（年4回発行）である。創刊号の「巻頭言」では、その意気込みを以下のように記している。

今年1月の総会で、岡田茂会長は挨拶の中で次のように述べられた。

「東京に広島出身者が35万人居るので、何とか1割を目指して日本一の県人会にしたい」とこのように強調された。地道な努力が必要だ。そのために編集担当として、役員と幹事それに県事務所とで意志の疎通をはかり、会員数の更なる拡充に役立てたいと念願している。今のところ春夏秋冬に各1回の県人会ニュースの発行を予定。皆様からのニュース、話題を期待！

●東京広島県人会フォーラム（その1）

県人会フォーラムは、会員向けに時々のテーマを斯界の第一線で活躍されている方を講師に招き、語って頂いた講演会である。1998（平成10）年8月から2014（平成26）年まで計22回行われた。

※講師の肩書きは当時のものです。

- 第1回 1998年8月4日 岡田茂（東京広島県人会会長）
- 第2回 1998年11月25日 松尾正洋（NHK解説主幹）
- 第3回 1999年8月25日 大利隆行（大蔵省医師）
- 第4回 2000年3月9日 福岡年勝（三井物産副社長）
- 第5回 2000年10月27日 高原誠（弁護士）

平成13年
2001

平成14年
2002

平成15年
2003

平成16年
2004

世界と日本の出来事	広島県の出来事
<p>2・9 えひめ丸事故（ハワイ沖で漁業実習船が原潜と衝突、9人死亡）</p> <p>5・8 武富士強盗殺人放火事件（武富士弘前支店）</p> <p>6・8 大阪教育大学付属池田小学校に男が乱入殺人</p> <p>7・21 明石市の歩道橋上で花火見物客が圧死事故</p> <p>9・11 NY世界貿易センタービルに旅客機が激突（死者約3000人）</p> <p>10・10 野依良治ノーベル化学賞受賞 ◆内閣総理大臣：森喜朗②／小泉純一郎① ○流行歌：Dearest、波乗りジョニー、アゲハ蝶</p>	<p>3・24 芸予地震が起こる</p> <p>3・24 尾道松江線（宍道IC・松江玉造IC）開通</p> <p>4・1 尾道大学開校（尾道短期大学が4年制に移行）</p> <p>4・11 紙屋町シャレオ（広島初の地下街）開業</p> <p>12・13 井口洋夫氏を名誉県民に顕彰 ◆知事：藤田雄山②／藤田雄山③ ○第50回黒鷲旗バレーボールJTサンダースが初優勝○長谷川良平、野球殿堂入り</p>
<p>1・23 牛肉偽装事件（雪印食品が狂牛病対策の国際牛買い取り制度を悪用）</p> <p>5・8 中国瀋陽市の日本総領事館で、中国武装警官が北朝鮮の男女5人を拘束連行</p> <p>9・17 日朝首脳会談（小泉首相、北朝鮮を初訪問）</p> <p>10・8 小柴昌俊、田中耕一にノーベル賞（同じ年に日本人2人の受賞は初めて）</p> <p>10・15 拉致被害者5人が24年ぶりに帰国 ◆内閣総理大臣：小泉純一郎① ○流行歌：Voyage、SAKURAドロップス</p>	<p>3・23 JR呉線に新広島開設</p> <p>4・一 原爆放射能医学研究所を原爆放射線医学研究所に改称</p> <p>10・1 呉市市制100周年記念式典開催</p> <p>12・12 新藤兼人氏を名誉県民に顕彰 ◆知事：藤田雄山③ ○ソルトレーク冬季五輪に大石博暁（ポプスレー2人乗り）出場○湯木博恵、国際バドミントン連盟殿堂入（日本人唯一）○サンフレッチェ広島J2降格</p>
<p>2・1 ミスペースシャトル空中分解（全員死亡）</p> <p>3・19 米英軍がイラク攻撃開始</p> <p>6・20 福岡一家4人強盗殺人事件（犯人は中国人元留学生3人）</p> <p>7・26 宮城地震（震度6強、675人が負傷）</p> <p>9・26 十勝沖地震（震度6弱、400人以上が負傷）</p> <p>11・29 日本人外交官殺害（イラク北部で日本の外交官2名が殺害された） ◆内閣総理大臣：小泉純一郎①／小泉純一郎② ○流行歌：世界に一つだけの花、さくら（独唱）</p>	<p>2・3 内海町・新市町が福山市と合併</p> <p>3・1 佐伯町・吉和村が廿日市市と合併</p> <p>4・1 下蒲刈町が呉市と合併、大崎町・東町・木江町が合併し大崎上島町に</p> <p>10・10 地域伝統芸能全国フェスティバルひろしま開催 *「広島ゆめてらす」（東京新宿）来館者200万人突破 ◆知事：藤田雄山③ ○三河ダム（三原市久井町小林）竣工○第75回選抜高校野球で広陵高校優勝○松田耕平、野球殿堂入り○安芸乃島閔引退</p>
<p>1・12 鳥インフルエンザ感染（山口県の採卵養鶏場）</p> <p>2・3 イラク陸上自衛隊派遣（本隊第1陣約90人が復興支援に出発）</p> <p>8・13 沖縄国際大に米軍ヘリ墜落（米兵3人が負傷）</p> <p>10・20 新潟中越地震（M6.8、死者36人、負傷者2404人）</p> <p>12・26 インド洋大津波（スマトラ島沖地震から発生、死者・行方不明者約28万人） ◆内閣総理大臣：小泉純一郎② ○流行歌：Sign、Jupiter、あなたがいたら、マツケンサンバ</p>	<p>3・1 安芸高田市市制（吉田町・八千代町・美上里町・高宮町・甲田町・向原町合併）</p> <p>6・17 宮澤喜一氏を名誉県民に顕彰</p> <p>11・1 江田島市市制（江田島・能美・沖美・大柿各町合併） ◆知事：藤田雄山③ ○第53回黒鷲旗バレーボールでJT優勝○アテネ五輪に栗原恵（バレー女子）、為末大（400mハードル）、松田亮（陸上200m）、唐見実世子（自転車ロードレース）、中重勝（10mエアピストル）出場○第48回全日本実業団駅伝で中国電力初優勝○第31回社会人野球日本選手権でJFE西日本初優勝</p>

*平成の大合併①平成16年：川尻町が呉市と合併。上下町が府中市と合併。甲奴町・君田村・布野村・作木村・吉舎町・三良坂町・三和町が三次市と合併。

東京広島県人会の活動
<p>1・24 県人会総会（赤坂プリンスホテル）出席1,200名以上</p> <p>3・26 芸予地震見舞金贈呈（贈呈先:中国新聞社）</p> <p>5・28 県人会春季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約140名</p> <p>7・4 第1回「学郷会」（広島県東京事務所）</p> <p>8・31 夏季幹事研修旅行（石和温泉～9・2日）</p> <p>10・3 県人会秋季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約200名 ◆会長：岡田茂</p>
<p>1・23 県人会総会（赤坂プリンスホテル）出席1,400名以上</p> <p>5・23 県人会春季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約170名</p> <p>8・24 夏季幹事研修会（石和温泉）</p> <p>9・3 第8回県人会フォーラム（スクワール麴町）</p> <p>10・2 「県人会ニュース」第13号発行</p> <p>10・3 県人会秋季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約180名 ◆会長：岡田茂</p>
<p>1・22 県人会総会&新春懇親会（赤坂プリンスホテル）出席約1,300名</p> <p>5・20 県人会春季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約160名</p> <p>7・1 第9回県人会フォーラム</p> <p>8・22 夏季幹事研修会（石和温泉）</p> <p>10・一 県人会秋季役員懇親会 *この年「県人会ニュース」第14・15・16号発行 ◆会長：岡田茂</p>
<p>1・21 県人会総会&新春懇親会</p> <p>5・一 県人会春季役員懇親会</p> <p>10・7 秋季役員懇親会（キャピトル東急ホテル） *台風第18号被害者支援のための募金を実施</p> <p>10・31 県人会役員・幹事秋の懇親会 in 宮島 *この年「県人会ニュース」第17・18・19号発行 ◆会長：岡田茂</p>

加計町・筒賀村・戸河内町が合併し安芸太田町に。甲山町・世羅町が世羅町と合併。油木町・神石町・豊松村・三和町が合併し、神石高原町に。

●学郷会の開催状況と講師一覧（その1）

「郷土について学ぶ会」ということで、2001（平成13）年7月から始まった県人会幹部の勉強会。講師は広島県東京事務所の担当で、現在まで継続している。

※第2・4・7回は、記録なし

- 第1回 2001年7月4日
鳥井原俊治企業誘致担当課長、植田俊彦農林水産課長、宮本寿夫土木課長
- 第3回 2002年3月
木村伸一環境生活課長、徳光重雄福祉保健課長、岡本一哉商工労働課長
- 第5回 2002年月
徳光重雄福祉保健課長、木村伸一環境生活課長
- 第6回 2003年6月
岡本一哉商工労働課長、寺本克彦農林水産課長
- 第8回 2004年7月
井上栄三文教課長、高橋龍二企業誘致担当課長
- 第9回 2005年7月
渡辺義文商工労働課長、上田隆博土木課長
- 第10回 2006年7月
麻田裕二農林水産課長、堀勇樹環境生活課長

●東京広島県人会フォーラム（その2）

- 第6回 2001年6月 大竹美喜（アメリカンファミリー生命保険会社会長）
- 第7回 2001年12月 藤村宏幸（荏原製作所会長）
- 第8回 2002年9月3日 岩部金吾（文化シャッター会長）
- 第9回 2003年7月1日 佐藤博史（弁護士）
- 第10回 2003年10月15日 水野博之（広島県産業科学技術研究所所長）
- 第12回 2005年6月22日 村木正顕（ニッポン放送）
- 第13回 2005年11月16日 杭谷一東（彫刻家）
- 第14回 2006年7月4日 住川雅洋（東京都民銀行）
- 第15回 2007年4月16日 松尾雅彦（カルビー取締役相談役）加藤俊宣（革新企業研究所）
*第11回は記録なし

●県人会カードのデザイン発表

2003（平成15）年5月20日の県人会春季役員懇親会では、県人会カードのデザインが発表された。

平成17年
2005

平成18年
2006

平成19年
2007

平成20年
2008

世界と日本の出来事	広島県の出来事
2・10 東武鉄道伊勢崎線・竹ノ塚駅付近の踏み切りで遮断機の誤操作事故（4人死傷） 3・25 愛知万博（愛・地球博）開幕（～9・25） 4・9 北京などで大規模な反日デモ 4・25 JR福知山線の上り快速が尼崎市で脱線事故（死者100人超） 9・11 郵政民営化の是非を問う総選挙で与党大勝 10・1 道路公団（4団体）民営化 ◆内閣総理大臣：小泉純一郎②／小泉純一郎③ ○流行歌：Butterfly、ココロツタエ、青春アミーゴ	4・1 県立広島大学開校。県立広島女子大学、広島県立大学、広島県立保健福祉大学を統合 4・23 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）開館 7・9 野村謙二郎氏に県民栄誉賞を授与 11・― マツダ「ロードスター」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 ＊福山港国際コンテナターミナル運用開始 ◆知事：藤田雄山③／藤田雄山④ ○為末大・尾方剛ヘルシンキ世界陸上で銅メダル○岡本綾子、世界ゴルフ殿堂入り○村田兆治、野球殿堂入り
1・6 ライブドア・ショック（IT関連株暴落） 3・9 日本銀行、量的緩和策解除（約5年ぶり） 3・31 民主党ニセメール事件（執行部総退陣） 4・26 耐震構造データ偽造事件 6・5 北朝鮮がミサイル発射（15日国連安保理、北朝鮮決議案を） 7・5 村上世彰・村上ファンド代表逮捕 10・9 北朝鮮、地下核実験を実施 ◆内閣総理大臣：小泉純一郎③／安倍晋三① ○流行歌：一剣、三日月、恋愛写真、熊野古道	1・10 因島市・瀬戸田町が尾道市と合併 3・1 神辺町が福山市と合併 7・5 広島平和記念資料館と世界平和記念聖堂、重要文化財に指定（指定を機に「西館」は「本館」と改称） 9月 台風13号で被害 10・1 広島地区でNHKテレビ地上デジタル放送開始 10・16 広島高速1号線開通 12・12 西瀬戸自動車道（しまなみ海道）全通 ◆知事：藤田雄山④ ○第57回高校駅伝で世羅高校優勝（32年ぶり5回目）
3・25 能登半島地震（M6.9・震度6強、死傷者356人、全半壊家屋2万7千戸） 7・16 新潟県中越沖地震（M6.8・震度6強、死傷者2千人、柏崎刈羽原発3号機火災） 7・16 参議院議員選挙で自民党、歴史的な大敗 9・12 安倍首相が突然内閣総理大臣辞任を表明 10・1 郵政民営化スタート（日本郵政公社が日本郵便・JPに） ◆内閣総理大臣：安倍晋三①／福田康夫 ○流行歌：蕾、千の風になって、吾亦紅、おしりかじり虫	4・1 広島県立文化芸術ホール運営開始 9・12 前田智徳氏に県民栄誉賞を授与 11・26 新広島市民球場（現マツダスタジアム）起工式 ◆知事：藤田雄山④ ○第51回全日本実業団駅伝で中国電力が優勝（3年ぶり2回目）○坂田健史、WBA世界フライ級王者になる（防衛4回）○第89回夏の甲子園で広陵高校準優勝（優勝佐賀北高校）
1・30 中国製の冷凍餃子で食中毒（外交問題に発展） 5・12 四川大地震（M8.0、死者約7万人） 7・7 洞爺湖サミット（第34回主要国首脳会議）開催（～7月9日） 10・7 日本人科学者4名がノーベル物理学賞・化学賞を同時受賞（物理学賞：南部陽一郎・小林誠・益川敏英、化学賞：下村脩） 10・14 世界金融危機（米国のサブプライムローン破綻） ◆内閣総理大臣：福田康夫／麻生太郎 ○流行歌：Ti Amo、キセキ、そばにいるね	1・30 福山市がオムニバスタウンに指定 11・― 豊島大橋（アビ大橋）供用開始。これにより呉市とその南東に位置する安芸灘諸島の島々を結ぶ8つの橋梁・安芸灘諸島連絡架橋（安芸灘とびしま海道、総延長：約5,300m）のうち7橋が完成。 ◆知事：藤田雄山④ ○第87回高校サッカーで皆実高校初優勝○山本浩二、野球殿堂入り

*平成の大合併②平成17年：沼隈町が福山市と合併。芸北町・大朝町・千代田町・豊平町が合併し、北広島町に。黒瀬町・福富町・豊栄町・河内町・安芸津町が東広島市と合併。音戸町・倉橋町・蒲刈町・安浦町・豊浜町・豊町が呉市と合併。大和町・本郷町・久井町が三原市と合併。御調町・向島町が尾道市と合併。

東京広島県人会の活動
1・26 県人会総会&新春懇親会（赤坂プリンスホテル） 5・17 県人会春季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約208名 6・22 第12回県人会フォーラム 8・26 夏季幹事研修会（熱海） 10・6 県人会秋季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）参加者約200名 11・16 第13回県人会フォーラム（広島大学東京オフィス） ＊この年「県人会ニュース」20号・21号・22号発行 ◆会長：岡田茂
1・25 県人会総会&新春懇親会（赤坂プリンスホテル）出席約1,400名 5・25 県人会春季役員懇親会（キャピトル東急ホテル）出席約240名 7・4 第14回県人会フォーラム（広島東京オフィス） 8・25 夏季幹事研修会（箱根） 10・10 県人会秋季役員懇親会（キャピトル東急ホテル） ＊この年「県人会ニュース」23号・24号・25号発行 ◆会長：岡田茂
1・24 県人会総会&新春懇親会（赤坂プリンスホテル） 4・16 第15回県人会フォーラム（広島東京オフィス） 5・22 県人会春季役員懇親会（グランドプリンスホテル赤坂） 9・7 夏季幹事研修会（那須塩原） 10・15 県人会秋季役員懇親会（グランドプリンスホテル赤坂）出席約220名 ＊この年「県人会ニュース」26号・27号・28号発行 ◆会長：岡田茂
1・23 県人会総会&新春懇親会（赤坂プリンスホテル）出席約1,200名 ＊第9代会長に林有厚氏就任 5・22 県人会春季役員懇親会（東京ドームホテル） 6・11 第16回県人会フォーラム（東京ドームホテル） 9・5 夏季幹事研修会（伊豆） 10・15 県人会秋季役員懇親会（東京ドームホテル）出席約230名 ＊この年「県人会ニュース」29号・30号・31号発行 ◆会長：岡田茂／林有厚

併。総領町・西城町・東城町・口和町・高野町・比和町が庄原市と合併。湯来町が広島市と合併。大野町・宮島町が廿日市市と合併。

●東京広島県人会フォーラム（その3）

- 第16回 2008年6月11日 林有厚（東京広島県人会会長）
- 第17回 2009年6月11日 大島賢二（前国連大使・国際協力機構副理事長）
- 第18回 2010年6月25日 石井泰行（賀茂鶴酒造会長）
- 第19回 2011年6月28日 村上處直（防災都市計画研究所所長）
- 第20回 2012年6月14日 古田陽久（世界遺産総合研究所所長）
- 第21回 2013年6月28日 大竹美喜（東京広島県人会会長）
- 第22回 2014年6月27日 舛本直文（首都大学東京教授・日本オリンピックアカデミー理事）

●広島県人会ニュース

東京広島県人会では、1997年に当時の岡田茂会長のもと、50周年を記念して会報「ひろしまVol.1」を発行した。また翌年の1998年1月の総会で、岡田会長が「日本一の県人会を目指す」と挨拶された。

これを受けて会員数のいっそうの拡充に向けて「東京広島県人会ニュース」が、この年の7月1日付で創刊された。東京広島県人会の新春懇親パーティなどのイベントや広島県にかかわる様々な情報を掲載しながら、2016年5月の54号まで発行された。

その後、「東京広島県人会70周年記念誌」の編集・発行に全力を傾注するためニュースの発行を中断した。記念誌発行後はニュースの発行（ウェブサイトでの発行）を再開する予定である。



●第9代会長・林有厚（はやし・ゆうこう）

在任期間：2008（平成20）年1月～2013年1月



1930年広島市生まれ。東京ドーム社長、会長、相談役。会長就任時は、東京ドーム社長。

平成21年
2009

平成22年
2010

平成23年
2011

平成24年
2012

世界と日本の出来事	広島県の出来事
1・20 バラク・オバマ、米国第44代大統領に就任 5・一 世界的流行の新型インフルエンザ日本でも発病 5・21 「裁判員制度」スタート 5・25 北朝鮮、2度目の核実験実施(前回は2006年) 7・31 若田光一飛行士、長期宇宙滞在から帰還 8・30 第45回衆院選で民主党308議席の圧勝(9月16日鳩山内閣発足) 11・27 円急騰(約14年ぶり1ドル=84円台) ◆内閣総理大臣:麻生太郎/鳩山由起夫 ○流行歌:Someday、YELL、また君に恋している	3・28 新広島市民球場(マツダスタジアム)完成 4・一 広島都市学園大学開設 5・1 瀬戸内しまなみ海道開通10周年 6・10 こうの史代『この世界の片隅に』完成記念展開催(大和ミュージアム) 10・一 福富ダム(東広島市福富町久芳)竣工式 ◆知事:藤田雄山④/湯崎英彦 ○第60回高校駅伝で世羅高校優勝(3年ぶり6回目)
4・2 タイで政権退陣デモ激化 6・4 鳩山内閣総辞職(沖縄基地問題の公約果たせず。社民党連立離脱) 6・13 小惑星探査機「はやぶさ」7年ぶりに帰還 7・11 第22回参議院議員選挙で民主党惨敗 9・7 尖閣諸島沖で中国漁船が日本の巡視船に衝突 10・7 鈴木章、根岸英一、ノーベル化学賞受賞 12・4 東北新幹線が新青森まで開通 ◆内閣総理大臣:鳩山由起夫/菅直人① ○流行歌:I Wish For You、ありがとう、トイレの神様	3・14 山陽自動車道、高屋JCT・IC開通により東広島自動車道及び東広島高田道路と接続 4・26 広島高速2号線開通。広島高速3号線(広島南道路)吉島出入口まで開通 6・30 広島ゆめてらす閉鎖 9・1 旧広島市民球場閉場(その後、解体) 11・27 山陽自動車道、尾道自動車道と接続 11・27 尾道松江線(尾道JCT・世羅IC)開通 12・16 三宅一生氏を名誉県民に顕彰 ◆知事:湯崎英彦
2・22 ニュージーランド南島で大地震(M6.3) 3・11 東日本大震災発生(M9.0、死傷者・行方不明者24,882人) 3・11 福島第一原子力発電所事故 3・12 九州新幹線鹿児島ルート全線開業 7・24 地上デジタルテレビ放送へ全面移行(被災3県を除く) 12・17 北朝鮮の指導者金正日総書記が死去(70歳) ◆内閣総理大臣:菅直人①/菅直人②/野田佳彦① ○流行歌:フライングゲット、それでも信じてる	4・一 福山市立大学開学(福山市立女子短期大学廃学) 11・27 壬生の花田植(北広島町)がユネスコの無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載される ◆知事:湯崎英彦 ○福山港国際コンテナターミナル第2バース運用開始○第62回高校駅伝で世羅高校優勝(2年ぶり7回目)○下田昭文、WBA世界スーパーバンタム級王者になる(防衛0回)
2・29 東京スカイツリー竣工(高さ634m自立式鉄塔世界一) 4・11 金正恩、北朝鮮労働党第一書記に就任 8・10 韓国の李明博大統領が竹島を訪問 8・10 消費税法の改正案が参議院で可決成立 9・10 尖閣諸島国有化を閣議決定(中国で反日デモ) 10・8 山中伸弥、ノーベル生理学・医学賞受賞 12・16 第46回衆議院議員選挙で自由民主党大勝 ◆内閣総理大臣:野田佳彦①/野田佳彦②/安倍晋三② ○流行歌:真夏のSounds good!、ワイルドアットハート	4・1 尾道大学、尾道市立大学に改称 7・一 広島ブランドショップTAUオープン 10・一 マツダ「CX5」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 11・15 広島西飛行場の供用廃止(広島ヘリポートへ) ◆知事:湯崎英彦 ○サンフレッチェ広島初のJリーグ年間王者に○ロンドン五輪で平岡拓晃(柔道男子60キロ級)銀メダル、山縣亮太(100m)、菊地栄樹(アーチェリー男子団体)、木村文子(100mハードル)出場○北別府学・津田恒実、野球殿堂入り

東京広島県人会の活動
1・29 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル)出席約1,300名 5・20 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約240名 6・11 第17回県人会フォーラム 9・一 夏季幹事研修会(福島県二本松) 10・14 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約230名 *この年「県人会ニュース」32号・33号・34号発行 ◆会長:林有厚
1・28 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル)出席約1,200名 5・20 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約250名 6・25 第18回県人会フォーラム(広大学東京オフィス) 9・一 夏季幹事研修会(北茨城) 10・25 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約220名 *この年「県人会ニュース」35号・36号・37号発行 ◆会長:林有厚
1・27 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル)出席約1,100名 5・19 「がんばろう日本 県人会の集い」(東京ドームホテル)参加者約225名 6・28 第19回県人会フォーラム(広島大学東京オフィス) 9・2 夏季幹事研修会(福島県など) 10・12 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約170名 *この年「県人会ニュース」38号・39号・40号発行 ◆会長:林有厚
1・26 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル)出席約1,200名 5・21 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約200名 6・14 第20回県人会フォーラム(広大東京オフィス) 9・7 夏季幹事研修会(埼玉県秩父) 10・17 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約170名 *この年「県人会ニュース」41号・42号・43号発行 ◆会長:林有厚

●学郷会の開催状況と講師一覧(その2)

- 第11回 2007年6月27日
小松俊二企画課長、和田徹企業誘致担当課長
- 第12回 2008年7月9日
平尾智士健康福祉課長、亀本健介観光物産担当課長
- 第13回 2009年春
小林寿幸商工労働課長、長田和久土木課長
- 第14回 2009年11月24日
寺田一之農林水産課長、升田英治環境県民課長
- 第15回 2010年9月14日
瀧口公照企画課長、矢野真治企業誘致担当(兼)観光物産担当課長
- 第16回 2011年7月26日
田中健也政策課長、平井幸政策課長、下隠俊作政策課長
- 第17回 2012年9月26日
奥信知彦政策課長、松崎博幸政策課長、岡田裕子政策課長
- 第18回 2013年7月24日
石丸剛史政策課長、岡田浩実政策課長、岡峯美智子政策課長
- 第19回 2014年7月24日
福富裕之政策課長、大山利恵政策課長
- 第20回 2015年7月21日
小谷美紀政策課長、荻野正博政策課長
- 第21回 2016年7月14日
森田谷智昭政策課長、畝本孝彦政策課長、大坪慶彦主任
- 第22回 2017年7月12日
大園哲也政策課長、前田克明政策課長、原田大輔主任

●東京広島県人会の名簿

東京広島県人会の戦後初めての名簿は1950(昭和25)年にB6判で発行され、以後同じ形式で名簿の発行が続いた。その後、会員が大幅に増加して活動が充実していくなかで、会員のアイデアでモミジ(広島県の木)とイチヨウ(東京都の木)をデザインした、東京広島県人会のシンボルマークが誕生した。

この新しいシンボルマークを表紙に配置して、会員の情報を充実させたA4判の新しい名簿が1998年に製作され、2014年まで会員に配布されていた。しかし、その後は個人情報保護意識の高まりなどを受けて製作を取りやめている。



平成25年
2013

平成26年
2014

平成27年
2015

平成28年
2016

世界と日本の出来事	広島県の出来事
2・25 韓国大統領就任式(朴槿恵が大統領に) 3・5 中国で第12期全国人民代表大会開催、習近平・李克強体制がスタート 6・22 富士山が世界文化遺産に登録 9・7 2020年夏季オリンピック・パラリンピックが東京に決定 11・23 中国が尖閣諸島を含む上空を防衛識別圏に設定 12・8 北朝鮮で政変(張成沢、更迭処刑) ◆内閣総理大臣:安倍晋三② ○流行歌:恋するフォーチュンクッキー、EXILE PRIDE	2・— 瀬戸内しまなみ海道がミシュランガイド(観光地)日本編で「1つ星」に選定される 3・14 江田島中国人研修生8人殺傷事件 3・24 福山競馬場開催廃止 3・27 第二音戸大橋(日招き大橋)開通 3・30 松江自動車道全線開通 4・19 全国菓子大博覧会・ひろしま菓子博2013開催 ◆知事:湯崎英彦/湯崎英彦② ○サンフレッチェ広島J1リーグ年間優勝○外木場義郎・大野豊、野球殿堂入り
3・18 ロシア、クリミア自治共和国を武力編入 4・1 消費税8%スタート 4・16 韓国珍島沖で旅客船「セウォル号」が沈没(修学旅行高校生ら306人死亡) 6・21 富岡製糸場(群馬県)が世界文化遺産に登録 7・1 安倍内閣、集団的自衛権の行使容認を閣議決定 10・7 赤崎勇・天野浩・中村修二の3氏がノーベル物理学賞受賞 ◆内閣総理大臣:安倍晋三②/安倍晋三③ ○流行歌:R.Y.U.S.E.I.、Let It Go ありのまま	3・20 宮島町で「平清盛銅像」除幕式 3・23 広島高速3号線(広島南道路)全線開通 7・12 けん玉ワールドカップ開催(廿日市市) 7・19 瀬戸内しまなみ海道、自転車の通行料無料化 8・20 集中豪雨により大規模土砂災害発生(広島市) 10・13 マツダ「デミオ」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 ◆知事:湯崎英彦② ○第65回高校駅伝で世羅高校優勝(3年ぶり8回目)○ソチ冬期五輪で竹内智香(女子パラレル大回転)銀メダル
3・14 北陸新幹線の長野・金沢間が開業 7・5 明治日本の産業改革遺産(製鉄・造船等)が世界文化遺産登録 8・15 太平洋戦争終結70年 9・19 安全保障関連法案可決 10・6 大村智、ノーベル生理学・医学賞受賞、梶田隆章、同物理学賞受賞 10・23 TPP大筋合意(参加12カ国) ◆内閣総理大臣:安倍晋三③ ○流行歌:Unfair World、Dragon Night、お岩木山	3・14 JR西日本とアストラムラインの「新白鳥駅」が開業 3・22 東広島・呉自動車道、尾道松江線(中国やまなみ街道)開通 10・— マツダ「ロードスター」日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞 ◆知事:湯崎英彦② ○第66回高校駅伝で世羅高校優勝(2年連続9回目)、女子第27回高校駅伝で世羅高校が初優勝○サンフレッチェ広島Jリーグ年間優勝(後期も優勝)○JTサンダース、男子プレミアリーグ初優勝
1・1 マイナンバー運用開始 3・26 北海道新幹線(新青森・新函館)開業 5・28 G7伊勢志摩サミット開催 6・23 イギリスが国民投票でEU離脱決定 10・5 大隈良典、ノーベル生理学・医学賞受賞 11・8 アメリカ合衆国大統領選挙トランプ氏当選 12・9 韓国国会で朴槿恵大統領の弾劾訴追案可決 12・15 日ロ首脳会談開催(山口県長門市) ◆内閣総理大臣:安倍晋三③ ○流行歌:あなたの好きなところ、海の声	4・10 G7外相会合が広島市で開催 4・— (一社)せとうち観光推進機構設立 5・27 オバマ大統領、広島訪問(現職大統領初) 9・22 黒田博樹氏・新井貴浩氏に県民栄誉賞を授与 11・20 金藤理絵氏に県民栄誉賞を授与 ◆知事:湯崎英彦② ○第65回黒鷲旗バレーボール大会でJTサンダース優勝○広島東洋カープ・セリーグ優勝(25年ぶり7回目)○リオデジャネイロ五輪で金藤理絵(女子200m平泳)金メダル、山縣亮太(男子400mリレー)銀メダル

*2017年9月18日 広島東洋カープ・セリーグ優勝(8回目、連覇は37年ぶり)

東京広島県人会の活動
1・31 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル) 5・16 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル) 6・28 第21回県人会フォーラム(神戸大学東京六甲クラブ) 10・16 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約200名 *この年「県人会ニュース」44号・45号・46号発行 ◆会長:林有厚/大竹美善
1・30 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル) 5・23 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル) 6・27 第22回県人会フォーラム(広島東京オフィス) 10・15 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約200名 11・29 第2回全国広島県人会幹事長会議(広島ブランドショップTAU) *この年「県人会ニュース」47号・48号・49号発行 ◆会長:大竹美善
1・— 一般社団法人 東京広島県人会発足 1・29 県人会総会&新春懇親会(東京ドームホテル)出席約1,200名 5・27 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約200名 10・14 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約200名 *この年「県人会ニュース」50号・51号・52号発行 ◆会長:大竹美善
1・27 県人会総会&新春懇親会(品川プリンスホテル)出席約1,000名 5・18 県人会春季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約130名 10・12 県人会秋季役員懇親会(東京ドームホテル)出席約140名 11・29 第1回学生応援セミナー(広島県東京事務所) 12・3 第4回全国広島県人会幹事長会議 *この年「県人会ニュース」53号・54号発行 ◆会長:大竹美善

●第10代会長・大竹美喜(おおたけ・よしき)

在任期間:2013(平成25)年1月~



1939年庄原市生まれ。アフラック社長、会長、最高顧問を歴任(現在、創業者)。総理直轄教育再生実行会議有識者委員、国際科学振興財団会長、県立広島大学経営審議会委員。会長就任時は、アフラック日本社最高顧問。

●全国広島県人会幹事長会議

全国に9つある広島県人会の幹事長が一堂に会し、共有する悩みや広島応援団としての協力的行動について話し合う場。大竹会長と豊松近畿広島県人会会長(当時)の提唱によりスタートした。2013(平成25)年に第1回を大阪で開催。その後、東京、札幌で開催し、2016(平成28)年12月に第4回会合を再び東京で開催した。

●一般社団法人化

財務や組織運営の透明性を高め、会員の参画意識を強めることを企図して、2015(平成27)年1月、東京広島県人会は、従来の任意団体から一般社団法人となった。それに伴い、会員総会を新春懇親パーティから独立させ、別途2月に改めて開催することとした。

●第1回学生応援セミナー

広島県出身で首都圏の大学に学んでいる学生を対象に、経済界や官界の先輩が講演するもの。大学の教官とは違った切り口で、就職や結婚といった人生の節目においてどのように考え、どう行動したかを失敗例も含め披露していた。

第1回は大竹会長を講師に、2016(平成28)年11月実施。

東京広島県人会 2017(平成29)年の活動実績

1月

1月24日
理事会
70周年記念新春懇親パーティー
品川プリンスホテル



大竹会長挨拶



湯崎県知事からの祝辞



岸田外務大臣からの祝辞



リオ・オリンピックメダリスト金藤理恵選手、山縣亮太選手、加藤健志コーチ、村上恭和卓球日本女子代表監督



25年ぶりにセリーグ優勝を果たした広島東洋カープ緒方孝市監督



戦時下の呉が舞台の『この世界の片隅に』の片瀝須直監督と主人公の声を担当したのんさん、真木太郎プロデューサー（左から）

2月

2月24日
講演会及び会員総会
2月24日
理事会

4月

4月4日
副会長懇談会

5月

5月19日
70周年記念懇親会 in 広島
リーガロイヤルホテル広島

東京広島県人会の懇親会を、一度広島で開催してほしいという広島経済界の声にこたえ、70周年記念事業の柱の一つとして広島で開催した。



大竹会長挨拶



広島交響楽団による弦楽四重奏



安芸高田市の伝統芸能「神楽」の上演

7月

7月12日
学郷会
7月21日
副会長懇談会

10月

10月11日
秋季役員懇親会
10月11日
理事会

11月

11月 70周年記念誌発刊

12月

12月 副会長懇談会（予定）

*この間、各部会（総務・企画・広報）及び部長会は毎月開催。70周年誌編集委員会も毎月開催。

●一般社団法人 東京広島県人会 理事・監事一覧

(2017年2月24日)

- ◇代表理事・会長
大竹美喜（アメリカンファミリー生命保険会社 創業者）
- ◇理事・副会長
保田 博（〈公財〉資本市場振興財団 顧問）
児玉幸治（〈一財〉機械システム振興協会 会長）
三浦 惺（日本電信電話株式会社 取締役会長）
松尾康二（カルビー株式会社 相談役）
角廣 勲（株式会社広島銀行 代表取締役会長）
金井誠太（マツダ株式会社 代表取締役会長）
山本治朗（株式会社中国新聞社 社主・代表取締役会長）
山根昌久（株式会社山根 東京本社 代表取締役社長）
小丸成洋（福山通運株式会社 代表取締役社長）
- ◇理事・幹事長
住川雅洋（株式会社千雅 上席顧問）
- ◇監事
森信茂樹（中央大学法科大学院教授）
林 浩美（森・濱田松本法律事務所 弁護士）

2030年、広島の未来社会

一般財団法人ひろぎん経済研究所

「2050年春、東京へ出張する。彼にとっては35年ぶりの東京だ。全日本航空機でワシントンDCを飛び立って2時間半、快適な空の旅も終わろうとしている。」『近未来シミュレーション2050日本復活』（クライド・プレストウィッツ著）の第1章「2050年東京」の冒頭で、今から30年あまりのち2050年の世界が描かれています。続きに、これを実現するのが米国企業を買収した日本の企業が開発したものがあると目がひきます。

これまでも私たちは、技術の進歩、例えばインターネットの世界的な普及と飛躍的な発展など、想像していた「モノ」や「サービス」がいつの間にか現実になってきた経験をしてきました。これからの世の中も、さらなる技術革新により、そのスピードは早まり、今は想像できない世界も現実のものとして目の前に現れることでしょう。

一方、広島県に目を向けますと、ご承知のとおり、古くから現在に至るまで自動車や造船、鉄鋼、機械などをはじめとした製造業が多く存在しています。冒頭の旅客機にみられるように日本の製造業がさらに強く大きくなり、世界を席巻している姿に広島県の企業が一翼を担っているかもしれません。

I o TやA Iなどのキーワードにもありますように、現在の社会はさまざまな分野で技術革新に支えられて進展を続けていますが、こうした進展によってどのような社会が実現しているのか、広島県の2050年より少し近い10余年後の2030年の未来を、「しごと」「ひと」「まち」の観点から想像してみましょう。

+ 「しごと」

2016（平成28）年の広島県における有効求人倍率は全国を大きく上回っており、人手不足が深刻な状況になっています。しかし、2030年にはA IロボットやI Tの進展で、サービス業などのオフィスでは、P Cすら姿を消して、多くの人は自宅など自分に適した場所で働いていることでしょう。また、中山間地域を中心とした農業も、広島県の特徴でもある狭く傾斜のある農地をもものともせず、無人のトラクターがあらかじめプログラムされた農地を走り回り、ロボット草刈り機が農地を周回して、斜面の草刈りをして戻ってきます。

製造業も、個人ベースで開発・製造・販売するビジネスが広がり、個人の活動が拡大するでしょう。例えば、広島市内の企業A社に勤める未来さんは、「中山間地域の自宅で仕事をしながら、無人の農機具を操って農作業、さらに自宅の離れに作った部屋で3Dプリンターを使って機械部品を製造・販売する」といった、複数の「しごと」を持って働いているかもしれません。

+ 「ひと」

メガネや腕時計など、身につけて使うコンピュータであるウェアラブルデバイスを通じて健康管理が行われた結果、県民の健康寿命が延び、健康に暮らす人が増えます。また、家庭に普及したロボットが、家事や介護など暮らしを支える大きな力となって活躍します。宮島などの土産物店では、翻訳機能を通

じて店主が流暢な日本語で外国人と楽しく話をする姿が見られるでしょう。もちろん広島弁もOKです。このように多言語コミュニケーションが可能となり、訪日観光客とのコミュニケーションも活発になります。

+ 「まち」

I o TやA Iの進展は、交通システムや物流システムなど、「まち」を支えるインフラを大きく変貌させるかもしれません。なかでも自動運転機能を備えた車が実用化され、渋滞や事故から解放され、安全に目的地にまで移動できるようになり、運転の必要がないため、移動中もオフィスや休憩場所として車が使われます。

また、広島県は都市部や鉄道沿線の地域以外、バスや自家用車がおもな交通手段ですが、ウーバーにみられるスマートフォンを使ったサービスからさら

に進化を遂げて、ウェアラブルデバイスにより本人の希望に応じて自動運転機能の自家用車が迎えるようになります。流川でみられる「そろそろ車を呼ぼうか…」といった会話もなくなるでしょう。

いろいろと想像してきましたが、最近の技術の進展スピードをみると、未来社会は確実に近づいてくると強く感じます。一方で、便利で忙しい社会のなかで、人はさらに心の豊かさを求めるようになるでしょう。

当研究所が2016年に実施した「移住に関するアンケート調査」によると、広島県への移住に関心をもつ人は、「自然豊かな環境で生活したい」という意見がもっとも多くなっています。

都市部でも自然に恵まれているこの広島県が、海と山に近いすばらしい「ふるさと」として、この未来社会の予測以上にさらに発展することを願っています。

広島未来社会予想図



（資料）一般財団法人ひろぎん経済研究所作成

国内の広島県人会（8団体）*東京を除く

◆北海道広島県人会（設立：2011年7月）

代表：小林 仁
札幌市中央区南四条西12丁目1304-4メゾンロワール412
1F-B アビサル・ジャパン内 〒064-0804
TEL011-530-6500 FAX011-530-6501
https://hokkaido-hiroshima.jimdo.com/

◆みやぎ広島県人会（設立：1983年1月）

代表：悦木敏行
宮城県黒川郡富谷町富谷字湯船沢28
(有) サンシャイン宮城内 〒983-3311
TEL022-779-1651 FAX022-348-8951
https://www.facebook.com/miyagihiroshima/

◆中部広島県人会（設立：1934年3月）

代表：増田卓司
名古屋市中区上前津2-7-4
幸栄ビル3階 〒460-0013
TEL052-321-8281 (FAX同)
http://www.chubuhiroshima.com/

◆京都広島県人会（設立：1918年1月）

代表：向井博一
京都市伏見区深草西浦町4-62
(株)アースワーク内 〒612-0029
TEL075-646-3888 FAX075-646-3335
http://www.kyoto-hiroshima.com/

◆近畿広島県人会（設立：1883年）

代表：立岩文夫
大阪市北区梅田1-3-1-800
広島県大阪情報センター内 〒530-0001
TEL06-6345-6081 FAX06-6450-8778
http://www.k-hiroken.com/

◆姫路広島県人会（設立：1962年12月）

代表：齊藤淳泰
姫路市錦町128
広島銀行姫路支店内 〒670-0921
TEL0792-81-3366 FAX0792-24-3020

◆ふくおか広島県人会（設立：終戦後）

代表：井上雄介
〒810-8629
福岡市博多区中州2-6-10
(株)ふくや 網の目コミュニケーション室内
TEL092-291-3578 FAX092-282-5117
m.ishida@fukuya.co.jp (メールアドレス)

◆沖縄広島県人会（設立：2000年11月）

代表：迫幸治
沖縄県那覇市樋川2-4-1 農連中央市場
事業協同組合事務所1階七屋内 〒900-0003
TEL098-963-6367 FAX098-963-6368
http://hiroshimanchu.com/

海外の広島県人会（28団体）

<ハワイ諸島>

◆ホノルル広島県人会（設立：1955年）

Honolulu Hiroshima Kenjin Kai (HHKK)
代表：ミヤオ会長(英語)
活動地域：オアフ島(ホノルル)
https://www.facebook.com/
HonoluluHiroshimaKenjinkai/

◆東ハワイ広島県人会（設立：1967年4月）

East Hawaii Hiroshima Kenjin Kai
代表：ゴーヤ会長(英語)
活動地域：ハワイ島(ヒロ)

◆コナ広島県人会（設立：1967年）

Kona Hiroshima Kenjin Kai
代表：チャン会長(英語)
活動地域：ハワイ島(コナ)

◆ワヒアワ・ワイアルア広島県人会（設立：1955年）

Wahiawa-Waiialua Hiroshima Kenji Kai (WWHKK)
代表：永井会長(英語)
活動地域：オアフ島(北部)

<北米>

◆シアトル広島クラブ（設立：1901年1月）

Seattle Hiroshima Club
代表：ナメカタ会長(英語)
活動地域：ワシントン州(シアトル市)
http://seahiro.org/about/timeline/

◆オレゴン広島クラブ（設立：1918年1月）

Oregon Hiroshima Club
代表：カワゾエ会長(英語)
活動地域：オレゴン州(ポートランド市)

◆サクラメント広島日系人会（設立：1906年）

Sacramento Hiroshima Nikkeijin Kai
代表：ムラモト会長(英語)
活動地域：カリフォルニア州(サクラメント市)

◆スタンクトン広島同志会（設立：1917年8月）

Stockton Hiroshima Doshi Kai
代表：オカモト会長
活動地域：カリフォルニア州(スタンクトン市)

◆湾東広島日系人会（設立：1950年10月）

Wanto Hiroshima Nikkeijin Kai
代表：カチュウ会長(日本語OK)
活動地域：カリフォルニア州(パークレー市)

◆桑港広島日系人会（設立：1898年1月）

San Francisco Hiroshima Nikkeijin Kai
代表：フジモト会長(日本語OK)
活動地域：カリフォルニア州(サンフランシスコ市)

◆サウスベイエリア広島日系人会（設立：1917年1月）

South Bay Area Hiroshima Nikkeijin Kai
活動地域：カリフォルニア州(サラトガ市)
代表：オオニシ会長

◆南加広島県人会（設立：1910年）

Hiroshima Kenjin Kai of So. Calif. Inc.
代表：モリオカ会長(日本語OK)
活動地域：カリフォルニア州(ロサンゼルス市)

◆中加広島県人会（設立：1990年3月）

Chuka Hiroshima Kenjinkai
代表：オオタニ会長(英語)
活動地域：カリフォルニア州(フレズノ市)

◆塩湖広島県人会（設立：1957年）

Salt Lake Hiroshima Kenjin-kai
代表：ミツナガ会長(英語)
活動地域：ユタ州

◆コロラド広島県人会（設立：1975年）

Colorado Hiroshima Kenjin Kai
代表：コニシ会長(英語)
活動地域：コロラド州

◆シカゴ広島県人会（設立：1956年5月）

Chicago Hiroshima Kenjinkai
代表：ヨシダ会長(英語)
活動地域：イリノイ州(シカゴ)

◆バンクーバー広島倶楽部（設立：1902年8月）

Vancouver Hiroshima Club
活動地域：ブリティッシュ・コロンビア州
代表：クボタニ会長(日本語OK)
備考：旧・芸備同志会

◆オンタリオ広島県人会（設立：1906年4月）

Hiroshima Kenjin Kai Ontario
代表：タカハシ会長(英語)
活動地域：オンタリオ州

<中南米>

◆メキシコ広島県人会（設立：1960年）

Mexico Hiroshima Kenjin Kai
代表：平田会長(日本語OK)
活動地域：メキシコ(メキシコ・シティ)
momiji.mexico@yahoo.com

◆ドミニカ共和国広島県人会（設立：1959年8月）

Dominica Hiroshima Kenjin Kai
代表：矢島会長(日本語OK)
活動地域：ドミニカ共和国(サントドミンゴ)

◆ペルー広島県人会（設立：1955年3月）

Peru Hiroshima Kenjinkai
代表：土師会長(英語)
活動地域：ペルー(リマ市)

◆ボリビア広島県人会（設立：1962年、1999年6月再結成）

Bolivia Hiroshima Kenjin Kai
代表：塔野会長(日本語OK)
活動地域：ボリビア(サンタ・クルス市、ラ・パス市)
bolivia_hiroshima@yahoo.co.jp

◆在アルゼンチン広島県人会（設立：1951年6月）

Hiroshima Kenjinkai en la Argentina
代表：井上会長(日本語OK)
活動地域：アルゼンチン(ブエノスアイレス市)

◆ガルアペー広島県人会（設立：1960年1月）

Garuhape Hiroshima Kenjin Kai
代表：山田会長(日本語OK)
活動地域：アルゼンチン北東部(ガルアペー移住地、プエルトリコ町)

◆在パラグアイ広島県人会（設立：1960年4月）

Paraguay Hiroshima Kenjin Kai
代表：河野会長
活動地域：パラグアイ(ラ・パス移住地、エンカルナシオン市)

◆アマンバイ広島県人会（設立：1987年）

Amambay Hiroshima Kenjin Kai
代表：大原会長
活動地域：パラグアイ北東部(アマンバイ市)

◆ブラジル広島文化センター(設立:1955年7月、1995年組織名改称)

Centro Cultural Hiroshima do Brasil
通称：ブラジル広島県人会
Brasil Hiroshima Kenjinkai
代表：平崎会長
活動地域：ブラジル南部(サンパウロ市)
備考：県人会館/広島文化センター
Centro Cultural Hiroshima do Brasil
Rua Tamandare, 800-Liberdade,
São Paulo, CEP 01525-000 BRASIL
事務局長：次山千枝子(Tieko Tsuguiama)
県人会館常勤スタッフ(日本語OK)
TEL55-11-3207-5476 FAX55-11-3208-8501
http://www.hiroshima.org.br/ja/

◆北伯広島県人会（設立：1988年12月）

Hokuhaku Hiroshima Kenjinkai
代表：越智恭子
活動地域：ブラジル北部(バラ州ベレン市、トメアス市)

一般社団法人 東京広島県人会 歴代会長一覧



第1代 ^{ながさきえいぢ} 長崎英造
(1881～1953年、享年71)

1951(昭和26)年4月
初代会長に就任
1953(昭和28)年4月急逝
*永野重雄副会長が代行

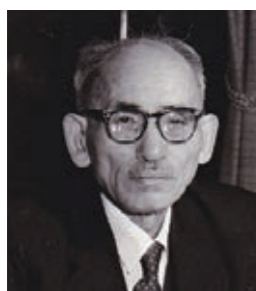
1881年、広島市堺町生まれ。広島一中、第一高等学校、東京帝国大学法科大学卒業後、大蔵省、台湾銀行を経て鈴木商店入社。日本火薬製造(現・日本化薬)創業。広島大学設立委員長、吉田内閣経済顧問、(財)日本証券投資協会会長、日経連顧問、経団連日米経済提携懇談会会長、経済協力懇談会会長などを歴任し、日本経済の復興と躍進の基盤作りに尽力した。著書に『独蘇の経済理念と我が経済新体制』、翻訳書に『米国は何故に繁栄するか』、『歴史は繰返すか』がある。



第2代 ^{まるやまかつよし} 丸山鶴吉
(1883～1956年、享年72)

1954(昭和29)年1月
第2代会長就任
1956(昭和31)年2月急逝
*永野重雄副会長が代行

1883年、沼隈郡松永村(現福山市松永町)生まれ。県立福山中学、第一高等学校、東京帝国大学法科大学卒業。1909年内務省入省。1929年警視總監。東京市会議員、大政翼賛会事務総長、宮城県知事を経て東北地方総監。公職追放後、1951年武蔵野美術大学学長。



第3代 ^{のむらひでお} 野村秀雄
(1888～1964年、享年76)

1957(昭和32)年1月
第3代会長就任
1959(昭和34)年1月退任

1888年、双三郡原村(現三次市)生まれ。旧制三次高校、早稲田大学法科大学卒業。中央新聞、国民新聞を経て朝日新聞社入社。1940年取締役編集局長。1945年10月、終戦時の役員総辞職で、朝日新聞社代表取締役として事後処理に当たり、5ヶ月後退任。1948年から約3年間、熊本日日新聞社社長。第8代NHK会長。



第4代 ^{とうたにでんじろう} 東谷傳次郎
(1894～1987年、享年92)

1959(昭和34)年1月
第4代会長に就任
1969(昭和44)年1月退任

1894年安佐郡福木村(現広島市)生まれ。東京帝国大学法学部卒業。1922年会計検査院書記に採用され、1954年会計検査院院長となる。1960年飯能ゴルフクラブ初代理事長。同年接収貴金属処理審議会会長。



第5代 ^{ながのしげお} 永野重雄
(1900～1984年、享年83)

1969(昭和44)年1月
第5代会長に就任
1984(昭和59)年5月逝去
*太田利三副会長が代行

1900年島根県松江市生まれ。広島市で育ち、広島高師付属小・中、第六高等学校を経て東京帝国大学法学部卒業。1924年浅野物産に入社。翌年、倒産会社の富士製鉄支配人となり同社を再建。1934年同社は日本製鉄に統合される。1947年片山内閣の経済安定本部副長官。1950年新発足の富士製鉄社長。1959年日商・東商会頭。1963年日本鉄鋼連盟会長に就任。1970年八幡製鉄との合併により新日鉄会長に就任。経済同友会代表幹事、日本商工会議所会頭などを歴任。



第6代 ^{おおたりのさぶろう} 太田利三郎
(1901～1992年、享年91)

1985(昭和60)年1月
第6代会長に就任
1991(平成3)年1月退任

1901年広島市生まれ。1925年東京帝国大学経済学部卒業、日本銀行入行。1947年日銀理事、1951年日本開発銀行副総裁、同行総裁を経て、1964年日本鉄道建設公団初代総裁1967年日本自動車販売協会連合会会長。1977年セントラル総合開発社長。



第7代 ^{たなべふみお} 田部文一郎
(1907～2002年、享年94)

1991(平成3)年1月
第7代会長に就任
1994(平成6)年1月退任

1907年広島市生まれ。広島一中、東京商科大学予科を経て、東京商科大学(現一橋大学)卒業後、1930年三菱商事入社。太平洋戦争開戦時はニューヨーク勤務で、5ヶ月間の収容所生活を経験。終戦時は満州勤務、1946年秋帰国。1974年三菱商事社長就任。1980年会長、1986年相談役、1998年特別顧問。



第8代 ^{おかだ しげろ} 岡田 茂
(1924～2011年、享年87)

1994(平成6)年1月
第8代会長に就任
2008(平成20)年1月退任

1924年加茂郡西条町(現東広島市)生まれ。広島一中、旧制広島高校を経て、東京帝国大学経済学部卒業。1947年東横映画入社。1949年東横映画・東京映画配給・太泉映画が合併し東映となる。1971年東映社長就任。1993年会長、2006年名誉会長。東映中興の祖。



第9代 ^{はやし ゆうこう} 林 有厚
(1930～2017年、享年87)

2008(平成20)年1月
第9代会長に就任
2013(平成25)年1月退任

1930年広島市生まれ。旧制修道中学校、新制修道高校を経て、1955年慶應義塾大学法学部卒業、後楽園スタジアム入社。常務、専務、副社長を経て、1996年東京ドーム社長に就任。2009年会長、2012年相談役。1996年から2015年まで日本ボクシングコミッションのコミッショナーを務め、2008年には東洋太平洋ボクシング連盟会長に就任。



第10代 ^{おのだけよしき} 大竹美喜
(1939～)

2013(平成25)年1月
第10代会長に就任

1939年庄原市生まれ。庄原実業高校、広島農業短期大学(現県立広島大学)卒業。1971年アメリカンファミリー生命保険東京事務所代表。1974年、アメリカンファミリー生命保険日本社設立。1986年同社社長、米AFLAC本社取締役を兼任。1995年同社会長、2003年最高顧問。2015年最高顧問退任。ジョージア州コロンバス市名誉市民。2013年教育再生実行会議委員。

平和へのメッセージ

今年、広島は被爆から72年目の夏を迎えた。昨年は、プロ野球の広島カーブだけでなく、被爆地広島からの平和のメッセージという意味でも、広島が注目を集めた年であった。

2016年5月に伊勢志摩で開催された第42回先進国首脳会議(伊勢志摩サミット)の外相会議は岸田外務大臣(当時)をホストに広島で開催された。またサミット後に、オバマ大統領は米国の現職大統領として初めて広島を訪れた。広島を訪ね、平和記念資料館で被爆時の広島の様状、そこで罪もないのに苦しみがいている市民の姿を見た。人であれば誰も、このような惨状をもたらす核兵器の廃絶、さらには愚かな戦争をこの世から無くしていこうと願う気持ちが強くなる。

各国首脳には是非、広島を訪れ、広島平和資料館を見学してもらい、被爆直後の惨状を目に焼き付けてほしい。まず、「隼より始めよ」で、日本の首相は就任するとすぐ広島、長崎の資料館を見学していただきたい。被爆市民の気持ちを忘れないためにも。

編集後記

一般社団法人 東京広島県人会70周年記念誌を、2017年11月15日付で発行の運びとなりました。本記念誌は、創立70周年を迎えた東京広島県人会の活動の現況を克明に記し、併せて、広島県、日本、世界の様相と関わりをまとめました。社会、政治、経済、歴史、文化、芸術、スポーツ、娯楽など幅広くカバーすることを心がけました。広島ゆかりの皆さんの郷土に寄せる熱い気持ちも記していただきました。

また東京広島県人会の歴史を掘り起こし、これを軸に年表を組み立てました。県人会の発足以来の歩みを理解するのに資するかと思えます。年表作成の過程で、新たな発見もありました。これまで第2代会長は野村秀雄氏であるとされていましたが、実は丸山鶴吉氏が第2代会長を務めていたことが資料により判明しました。

いわゆる東京裁判での有罪判決を受け、東京・巣鴨プリズンに服役していた賀屋興宣元大蔵大臣ら広島県出身者に県人会幹部が差し入れなどの慰問を行っていた様子もより詳しく判明しました。また、首都圏で学ぶ県出身の女子学生の支援を目的とした広島県女子郷友会の歴史、活動も明らかとなりました。これらは本記念誌に記録されています。

県人会誌の発行は、20年前の50年誌以来です。

皆様が東京広島県人会と広島県をより深くご理解いただく道しるべとなり、さらに将来においてこの県人会活動の展開、発展に役立つ事を願っております。

本記念誌には、内外の会員、全国あるいは海外の他の広島県人会、自治体、経済界、文化関係団体などの皆様から多くのご寄稿を頂きました。ここにあつく御礼申し上げます。

本記念誌は総文字数が約24万4000字、掲載写真総数約100枚という膨大なものとなりました。

最大の特徴は、発行形式に、インターネット版と印刷本を初めて併用した事です。これは日谷潔編纂委員の提案を受けて採用されました。世の中がネット社会に大きく移行する中での決断です。利点として①発行コストの抑制②編集作業がやりやすくなる③文字の拡大化で弱視者、高齢者にも読みやすくなる④どこからでもアクセスできる——などがあげられます。

編纂作業に関わったメンバーは次に掲載しました。

このほか、当県人会の住川雅洋幹事長、金森貴哉幹事長代理の皆さんにはきめ細かく支えて頂きました。2016年4月から2017年10月時点で合計19回の編纂会議を県東京事務所で開きました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2017年11月1日

編纂委員長 山下靖典

編集 一般社団法人 東京広島県人会

70周年記念誌編纂委員会

委員長 山下靖典

副委員長 緒方 徹

委員 日谷潔(広報部副部長)、宮田俊範、宮本隆之
(50音順)

委員会事務局 緒方静子(広報部長)

広島県東京事務所総務課長 増井博文

広報部

部員 熊本正巳、中村 洋、原田 泉、藤原直樹、
藤本 崇、山根知之(50音順)

東京広島県人会事務局 上原友子

制作 矢熊 晃(出窓社)

装丁・本文デザインレイアウト 辻 聡

翻訳 水口 毅(ホノルル広島県人会とハワイ・コナ
広島県人会からの文章)

資料提供 月刊経営者、公益社団法人広島交響楽協会、
参議院議員宮沢洋一事務所、衆議院議員
寺田稔事務所、上下歴史文化資料館、
精養軒、田山花袋記念文学館、築地本願寺、
出窓社、日本近代文学館、広島県東京事務所、
広島県統計協会(50音順)

表紙写真 原爆ドーム：fotolia © chuugo

厳島神社：fotolia © akira1201

一般社団法人

東京広島県人会70周年記念誌

2017年11月15日初版発行

発行者 一般社団法人 東京広島県人会

発行所 一般社団法人 東京広島県人会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8

虎ノ門琴平タワー22F 広島県東京事務所内

TEL：03-3591-0028 FAX：03-5511-8803

<http://www.hiroken.gr.jp>

hiroken@oregano.ocn.ne.jp

印刷所 デジタルパブリッシングサービス

©Tokyo Hiroshima kenjinkai 2017 printed in Japan